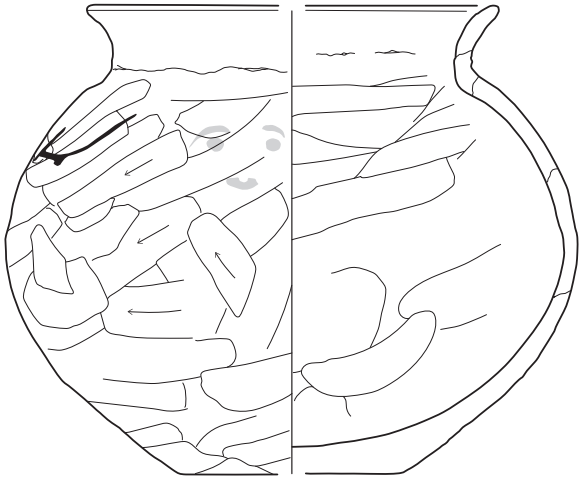
石岡市埋蔵文化財調査報告書

弥陀ノ台遺跡

－小美玉市道栗又四ケ線道路改良工事に伴う発掘調査２－



２０２２

小　　美　　玉　　市
石　岡　市　教　育　委　員　会
関東文化財振興会株式会社

石岡市埋蔵文化財調査報告書

弥陀ノ台遺跡

（みだのだいいせき）

－小美玉市道栗又四ケ線道路改良工事に伴う発掘調査２－

２０２２

小　美　玉　市
石岡市教育委員会
関東文化財振興会株式会社

序

石岡市は、都心から北東へ約70km、茨城県のほぼ中央に位置し、関東の名峰・筑波山と日本第二位の面積の湖・霞ヶ浦とにはさまれた自然豊かなまちです。

その約215㎢の市域には、６件の国指定史跡、401箇所の埋蔵文化財包蔵地が存在しています。これら埋蔵文化財は、われわれの祖先の生活を知る貴重な財産にあたりますが、工事や開発などにより一度破壊されてしまうと二度と元に戻すことができません。石岡市としても、その意義や重要性を踏まえ、保護保存に努めているところです。

さて、本書で報告されます「弥陀ノ台遺跡」は、市域の東端の小井戸地区に存在する遺跡です。これまでの調査で古墳時代や奈良･平安時代の集落跡、中世の城館跡が発掘されている、市内でも有数の遺跡です。

今回は小美玉市の市道改良事業に伴い、発掘調査が行われましたが、調査の結果、古墳時代から奈良時代の竪穴建物跡や中世の溝など、多くの発見がありました。

このような調査成果をあげることができましたのも、調査にあたりご理解とご協力をいただいたみなさまや、ご指導・ご助言をいただきましたみなさまのおかげであり、心から感謝申し上げます。

石岡市としても、今回の成果をもとに、より一層、文化財の保存・活用に取り組んでいく所存でありますので、引き続いてのご指導・ご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、本書が学術的な研究資料としてはもとより、石岡市の歴史に関する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として、広くご活用いただければ幸いです。

令和４年３月

石岡市教育委員会
教育長　児島裕治

例　　言

1　本書は、小美玉市道栗又四ケ線道路改良工事に伴う、茨城県石岡市小井戸 508 番５外に所在する弥陀ノ台遺跡の発掘調査報告書である。

2　本調査は、石岡市教育委員会による試掘調査に基づいて、道路改良工事部分のうち、955 ㎡を対象とした。

3　調査に当たり、事業者　小美玉市、石岡市教育委員会、関東文化財振興会株式会社（代表取締役　宮田和男）三者で協定書を交わした。

4　発掘調査は、石岡市教育委員会の指導のもと、関東文化財振興会株式会社（狩谷崇文・西川忠春）が行った。

5　発掘調査は、令和３年７月５日から令和３年９月 15 日まで行い、整理作業・報告書作成は関東文化財振興会株式会社にて令和３年８月 16 日に開始し、令和４年３月 31 日の報告書・図面・遺物・台帳類の石岡市教育委員会への引き渡しをもって終了した。

6　本調査における出土遺物等及び実測図・写真等は、石岡市教育委員会が管理している。

7　本報告書の執筆は、第１章第１節を谷仲俊雄が、第２章を川井正一が、第１章第２節および第３章から第５章までを狩谷崇文が担当し、石岡市教育委員会の校閲を受けた。

8　本書の編集は、狩谷崇文が担当した。

9　現地調査から遺物整理、報告書作成にあたっては、下記の諸氏、諸機関からご教授・ご援助を賜った。ここに記して感謝の意を表す次第である。（敬称略・順不同）

茨城県教育庁文化課　公益財団法人茨城県教育財団

石岡市教育委員会　石岡市ドローンパイロットチーム

小美玉市教育委員会　小美玉市都市建設部

内藤工務店　沼田機業　宇留野主悦　小玉秀成

10　調査参加者（50 音順）

（発掘調査）　伊東美華　内田晋　遠藤香織　大越慶子　大和田久　岡村一康　川又恵美子
郡司ゆき子　小池直樹　小島裕一　佐久間弘美　関千賀子　塚本祐司
二戸捷之　平井百合子　前嶋茂徳　益子光江　三浦睦子

（整理作業）　荒井夕紀　伊東美華　遠藤香織　大越慶子　川又恵美子　郡司ゆき子
平井百合子　益子光江

凡　　例

1　本書に記してある座標値は、世界測地系第Ⅸ系を用いている。方位は座標北を示す。

2　本文中の色調表現は、『新版標準土色帖』2018 年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）を用いた。

3　標高は海抜高である。

4　掲載した図面の基本縮尺は以下の通りである。

遺構図　　調査地点位置図１/5,000　グリット設定図１/800　遺構全体図 1/300　遺構図１/60　なお、変則的な縮尺を用いた場合には、スケールによってその縮尺を示した。

遺物図　　原則１/3 とする。ただし、種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで示した。

5　遺構・遺物実測図中の表示及び記号は以下に示すとおりである。

遺構　　竈構築材・粘土・炭化材　　火床面・焼土　－－－－硬化面

●土器・土製品・石製品・金属製品

遺物　　煤・須恵器　　黒色処理

6　実測図・本文中で用いた略号は、次の通りである。

SI －竪穴建物跡　　SK －土坑　　SD －溝跡　　P －ピット　　SX －性格不明遺構　　K －撹乱

第３号竪穴建物跡を第１号性格不明遺構とし、第３号竪穴建物跡は欠番とした。

7　遺物観察表の法量単位は㎝である。法量に付した（　）は復元値、［　］は残存値を示す。

8　主軸は、住居跡の竈を通る軸線、土坑は長軸とし、主軸方向はその主軸が座標北からみてどの方向にどれだけ振れているかを角度で示した。（例　N－ 10°－W）

9　グリットは、+ X＝ 21,200 m、+ Y＝ 45,200 mを起点とし、10 m四方のグリットを使用した。

なお、今回の調査では平成 25 年度（第１次調査）で使用したグリットを延長して使用した。

10　事務局・調査指導

小美玉市

石岡市教育委員会	教育長	児島　裕治
	教育部長	豊崎　康弘
	次長	吉澤　房江
	文化振興課長	原田　和宣
	文化振興課長補佐	小杉山大輔
	文化振興課係長	谷仲　俊雄
	主任	金澤　史典
	主幹	竹内　智晴
	主事	金子　悠人

目　　次

序
例言・凡例
目次
第１章　調査に至る経緯と調査経過……1
　第１節　調査に至る経緯　……1
　第２節　調査経過　……1
第２章　地理的環境と歴史的環境　……3
　第１節　地理的環境　……3
　第２節　歴史的環境　……3
第３章　調査の方法と調査概要及び基本層序　……9
　第１節　調査の方法　……9
　第２節　試掘調査の成果　……9
　第３節　調査概要　……9
　第４節　基本層序　……9
第４章　遺構と遺物　……13
　第１節　古墳時代の遺構と遺物　……13
　　１　竪穴建物跡　……13
　第２節　奈良時代の遺構と遺物　……24
　　１　竪穴建物跡　……24
　第３節　中世の遺構と遺物……36
　　１　溝跡……36
　第４節　時期不明の遺構……38
　　１　溝跡……38
　　２　土坑……40
　　３　ピット……43
　　４　性格不明遺構……44
　第５節　遺構外出土遺物……45
第５章　まとめ　……47
　第１節　はじめに……47
　第２節　古墳時代……47
　第３節　奈良時代……47
　第４節　中世……47
　第５節　墨書土器について……49
　第６節　おわりに……50
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第１図　調査地点位置図
第２図　周辺遺跡地図
第３図　調査区内試掘トレンチ配置図
第４図　基本土層図
第５図　グリッド設定図
第６図　遺構全体図
第７図　第８号竪穴建物跡・竈実測図
第８図　第８号竪穴建物跡出土遺物実測図
第９図　第１号竪穴建物跡・竈実測図
第 10 図　第１号竪穴建物跡出土遺物実測図
第 11 図　第２号竪穴建物跡実測図
第 12 図　第４号竪穴建物跡・竈実測図
第 13 図　第４号竪穴建物跡出土遺物実測図
第 14 図　第 10 号竪穴建物跡実測図
第 15 図　第 10 号竪穴建物跡竈実測図
第 16 図　第 10 号竪穴建物跡出土遺物実測図
第 17 図　第９号竪穴建物跡実測図
第 18 図　第９号竪穴建物跡竈実測図
第 19 図　第９号竪穴建物跡出土遺物実測図
第 20 図　第５号竪穴建物跡実測図
第 21 図　第５号竪穴建物跡竈実測図
第 22 図　第５号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）
第 23 図　第５号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）
第 24 図　第６号竪穴建物跡実測図
第 25 図　第６号竪穴建物跡竈実測図
第 26 図　第６号竪穴建物跡出土遺物実測図
第 27 図　第７号竪穴建物跡実測図
第 28 図　第７号竪穴建物跡竈実測図
第 29 図　第７号竪穴建物跡出土遺物実測図
第 30 図　第３号溝跡出土遺物実測図
第 31 図　第３号溝跡実測図
第 32 図　第４号溝跡実測図
第 33 図　第１号溝跡実測図
第 34 図　第２号溝跡実測図
第 35 図　第１号土坑・出土遺物実測図
第 36 図　第２号土坑・出土遺物実測図
第 37 図　第３号土坑・出土遺物実測図
第 38 図　第４号土坑実測図
第 39 図　第４号土坑出土遺物実測図
第 40 図　第５号土坑実測図
第 41 図　第１・２・３号ピット実測図
第 42 図　第１号性格不明遺構実測図
第 43 図　遺構外出土遺物実測図
第 44 図　弥陀ノ台遺跡　竪穴建物跡変遷図

表目次

第１表　周辺遺跡一覧表
第２表　第８号竪穴建物跡出土遺物観察表
第３表　第１号竪穴建物跡出土遺物観察表
第４表　第４号竪穴建物跡出土遺物観察表
第５表　第 10 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第６表　第９号竪穴建物跡出土遺物観察表
第７表　第５号竪穴建物跡出土遺物観察表 (1)
第８表　第５号竪穴建物跡出土遺物観察表 (2)
第９表　第６号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 10 表 第７号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 11 表　第３号溝跡出土遺物観察表
第 12 表　第１号土坑出土遺物観察表
第 13 表　第２号土坑出土遺物観察表
第 14 表　第３号土坑出土遺物観察表
第 15 表　第４号土坑出土遺物観察表
第 16 表　遺構外出土遺物観察表

図版目次

図版１　調査区遠景（北西から）　調査区全景
図版２　第８・10 号竪穴建物跡完掘状況（南東から）　第８号竪穴建物跡完掘状況（南東から）
第８号竪穴建物跡遺物出土状況（南東から）　第１号竪穴建物跡完掘状況（南東から）
第２号竪穴建物跡完掘状況（南東から）　第４・５号竪穴建物跡完掘状況（南東から）
第５号竪穴建物跡遺物出土状況（南西から）　第４・５号竪穴建物跡掘方完掘状況（南東から）
図版３　第 10 号竪穴建物跡完掘状況（南東から）　第９号竪穴建物跡完掘状況（南東から）
第６号竪穴建物跡完掘状況（南東から）　第６号竪穴建物跡遺物出土状況（南東から）
第６号竪穴建物跡竈完掘状況（南東から）　第６号竪穴建物跡竈遺物出土状況（南東から）
第７号竪穴建物跡完掘状況（南東から）　第３号溝跡完掘状況（北東から）
図版４　第４号溝跡完掘状況（南西から）　第１号溝跡完掘状況（西から）
第２号溝跡・第１号土坑完掘状況（北東から）　第３・４号土坑完掘状況（南東から）
第５号土坑完掘状況（北西から）　第１号ピット完掘状況（西から）
第２号ピット完掘状況（北東から）　第３号ピット完掘状況（北東から）
図版５　第１号竪穴建物跡出土遺物 - １・２　第４号竪穴建物跡出土遺物 - １～５
第５号竪穴建物跡出土遺物 - １～９
図版６　第５号竪穴建物跡出土遺物 - 10 ～ 16
第６号竪穴建物跡出土遺物 - １～５
図版７　第６号竪穴建物跡出土遺物 - ６・７　第７号竪穴建物跡出土遺物 - １～７
第８号竪穴建物跡出土遺物 - １～３　第９号竪穴建物跡出土遺物 - １
図版８　第９号竪穴建物跡出土遺物 - ２～８
第 10 号竪穴建物跡出土遺物 - １～４　第３号溝跡出土遺物 - １　第１号土坑出土遺物 - １
第２号土坑出土遺物 - １　第３号土坑出土遺物 - １　第４号土坑出土遺物 - １
図版９　第４号土坑出土遺物 - ２　遺構外出土遺物 - １～ 14　第６号竪穴建物跡出土遺物 - ８
図版 10　第８号竪穴建物跡出土遺物 - ４・５　第 10 号竪穴建物跡出土遺物 - ５
遺構外出土遺物 - 15 ～ 17　第４号竪穴建物跡出土遺物 - ６・７
第６号竪穴建物跡出土遺物 - ９　第７号竪穴建物跡出土遺物 - ８
［参考資料］サントリーウィスキー　トリスエクストラ 1970 ～ 1980 年代

第１章　調査に至る経緯と調査経過

第１節　調査に至る経緯

令和元年 12 月 11 日、小美玉市長より小美玉市道玉 5329 号線（栗又四ケ線）新設工事に伴い「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」照会文書が提出された。同路線については平成 24 年度に試掘調査、平成 25 年度に発掘調査を実施しているが、照会箇所は線形未定だったため、決定次第現地踏査を行う箇所となっていた。令和２年３月５日に現地踏査を行ない、周知の埋蔵文化財包蔵地である弥陀ノ台遺跡が存在することから、試掘調査が必要である旨を３月 12 日付で回答した。試掘調査は３月 25･26 日に実施し、奈良･平安時代の竪穴建物跡１棟、時期不明土坑１基を確認した。

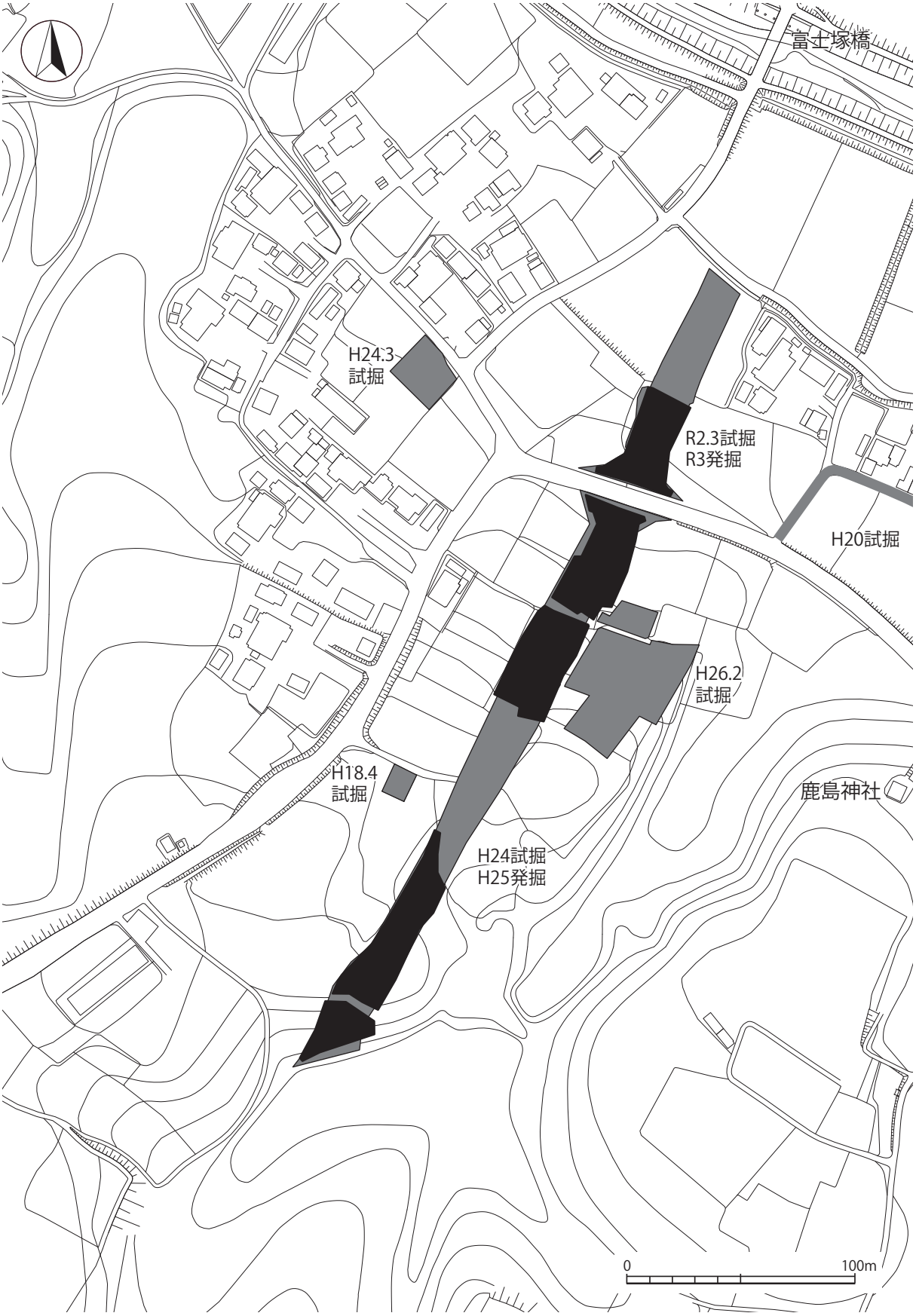
小美玉市長が令和２年４月 17 日付で茨城県教育委員会教育長に「埋蔵文化財発掘の通知」を提出した。５月 18 日付で茨城県教育委員会から、試掘調査により埋蔵文化財が確認された範囲については工事着手前に発掘調査を実施するように、それ以外の範囲については工事に際して慎重に実施するように通知があった。

石岡市教育委員会と小美玉市は協議を行い、記録保存のための発掘調査を実施すること、調査費用については小美玉市が負担することで合意した。小美玉市による指名競争入札により、関東文化財振興会株式会社に委託し発掘調査を実施することとなった。

第２節　調査経過

令和３年７月５日に重機による表土掘削を開始、12 日に終了した。12 日から 16 日にかけて、遺構確認精査及び遺構検出状況写真撮影を行なう。その後、同日より遺構掘削調査を開始した。遺構掘削調査は９月 10 日まで行ない、同日、ドローンによる調査区全景写真撮影を実施した。その後、15 日に現地における調査を終了した。

整理作業は令和３年８月 16 日より開始し、遺物の洗浄、注記、実測、トレース、写真撮影を行ない、図版作成､原稿執筆を進める。令和４年２月に入稿､校正の後､令和４年３月 30 日に報告書を刊行した。遺物については、報告書掲載遺物・未掲載遺物に分け遺構ごとに分別し遺物用収納用コンテナに収納した。遺物用コンテナは内容物がわかるように明示し、台帳に記載した。その後、報告書・図面・遺物･台帳類を石岡市教育委員会に引き渡し､令和４年３月 31 日をもって整理作業の全工程が終了した。


富士塚橋
H24.3
試掘
R2.3試掘
R3発掘
H20試掘
H26.2
試掘
H18.4
試掘
鹿島神社
H24試掘
H25発掘
0
100m

第１図　調査地点位置図

第２章　地理的環境と歴史的環境

第１節　地理的環境

弥陀ノ台遺跡は、茨城県石岡市小井戸 508 番５外に所在している。

遺跡の所在する石岡市は茨城県のほぼ中央部に位置し、西に筑波山がそびえ、東南部には霞ヶ浦が満水を湛えている。地勢的には、常総台地の北部に連なる、筑波山系の加波山に源を発する恋瀬川と、北側に接する笠間市泉付近から発する園部川に限られた幅 3.5 ㎞ほど、標高 20 ～ 30 ｍの石岡台地を主体としている。台地は、石岡市鹿の子の柏原池を水源とし霞ヶ浦に注ぐ山王川によって二分されている。

石岡台地の地質は、未固結の砂を主体とする石崎層、海成の砂層である見和層を基盤とし、その上部に火山灰質粘土層である常総粘土層、関東ローム層が連続して堆積し、最上部は腐植土層となっている。ローム層は武蔵野層、立川層に相当する。

当遺跡は、石岡市街地の東方約 5.5 ㎞、石岡台地の北東端、北側を南東流する園部川南岸台地上に立地している。遺跡が所在する周辺は、南側が旧玉里村、東側が旧小川町、北側が旧美野里町で、現在は小美玉市である。当遺跡が立地する台地は、園部川へ向かって北東方向へ延びる幅 200 ～ 300 ｍの舌状台地で、東側と西側には幅狭の小支谷が入り込んでいる。遺跡はその台地の先端部、標高７～ 18 ｍの緩斜面にある。台地の最高部と沖積地との比高は 11 ｍほどである。遺跡の範囲は東西 350 ｍ、南北 500 ｍで、今回の調査区は遺跡の北東部にあたる。調査前の現況は竹林が主体で、一部畑地であった。

第２節　歴史的環境

石岡市域には縄文時代以降の遺跡が多数確認されているが、弥陀ノ台遺跡は石岡市の北東端部に位置し、西側以外の３方は小美玉市と接していることから、当遺跡を中心として園部川流域における遺跡の在り方について記していく。

旧石器時代の遺跡としては、園部川右岸では栗又四ケ遺跡 (88)、千部塚遺跡 (100)、香取下遺跡 (115) が台地縁辺部に点在しているが、園部川左岸では目下のところ未確認で、さらに東方の鎌田川左岸で野田新林遺跡が確認されているだけである。

縄文時代の遺跡は、各時期のものが河川沿いの台地から多数確認されている。

草創期の遺跡は、小美玉市の殿塚館跡 (56) で確認されているだけである。早期から前期にかけての遺跡は増加し、園部川右岸では小美玉市の栗又四ケ遺跡、田木谷遺跡 (123)、八幡脇貝塚 (98)、宮後貝塚 (102) があり、前期の遺跡には石岡市の東大橋逆井遺跡、観音前遺跡 (51)、下坪遺跡 (40) がある。園部川左岸では小美玉市の兵助山遺跡 (22)、池下北町遺跡、原口遺跡、古城ノ内遺跡 (80) などが確認されているほか、殿畠遺跡 (59) [1] で前期の集落跡が確認されている。前期は海進が最も進んだ時期で、現在の河川や低地部の奥まで海水が流入し、淡水が供給される流域では汽水域も存在していたことが推測され、食料としての魚介類の獲得に最良の地域であったとみられる。

次の中期の遺跡はさらに増加して、園部川右岸では、石岡市の東大橋原遺跡 (31)、中坪遺跡 (34)、白旗遺跡 (36)、下坪遺跡、蟹硲遺跡 (41)、観音前遺跡、小美玉市の高野遺跡 (45)、宮後貝塚、八幡脇貝塚、田木谷遺跡などが確認されており、東大橋原遺跡では集落跡が確認されている[2]。園部川左

岸では、兵助山遺跡、池下北町遺跡、原口遺跡、古城ノ内遺跡などが確認されており、自然環境に恵まれた狩猟・漁労・採取による生活をうかがい知ることができる。ただし、旧美野里町域では現在のところ確認されていない。

次の後期の遺跡は大幅に減少し、園部川右岸で観音前遺跡、小井戸台遺跡（55）が確認されているのみで、晩期の遺跡は現在のところ当遺跡の周辺では確認されていない。このことは、後期以降に自然環境等の変化によって生活に大きな変化が生じた可能性がある。

次の弥生時代の遺跡は、園部川右岸では石岡市の池下遺跡（38）、下坪遺跡、蟹硲遺跡、小井戸台遺跡、小美玉市の根田上遺跡（44）、笠松遺跡（46）、駒崎遺跡（58）、千部塚遺跡、辻微高地遺跡（111）、香取遺跡（113）、香取下遺跡など多数が確認されている。園部川左岸では、小美玉市の庄司ノ上遺跡（21）、火打久保上遺跡（19）が確認されているのみである。このうち根田上遺跡では中期の土器が採集されているが、その他の遺跡で採集されたものはいずれも後期に比定される土器で、後期には稲作を基盤とした生活が営まれていたものとみられる。

次の古墳時代の遺跡は、弥生時代より増加している。園部川右岸では、当遺跡で前期と後期、東大橋原遺跡で前期の集落跡[3]が確認されているほか、石岡市曲松遺跡、蟹硲遺跡、小美玉市高野遺跡、笠松遺跡、殿塚館跡、駒崎遺跡、寺塔遺跡（94）、千部塚遺跡、辻微高地遺跡など多数確認されているが、時期は不明である。こうした集落跡が多数存在することは、支谷部において水田開発が積極的に実施された結果によるものと考えられている。古墳は、石岡市曲松古墳群、根古屋古墳群、上坪古墳群（29）、七人塚古墳群（43）、権現山古墳群（49）、要害山古墳群（50）、天神山古墳（52）、境塚古墳（53）などが確認されている。そのうち当遺跡の東側に位置する要害山古墳群は、全長 75 mの前方後円墳と２基の円墳からなり、前方後円墳の１号墳は５世紀末の築造と推測されている[4]。その他の古墳群は、その時期を確定することはできないが、概ね後期古墳とみられている。

園部川左岸では、前期の集落跡が小美玉市館野遺跡[5]（4）、竹原小学校遺跡[6]（5）、羽黒遺跡で確認されているほか、該期の方形周溝墓が殿畠遺跡で確認されている。中期の集落は竹原小学校遺跡で確認されているだけであるが、後期の集落は、館野遺跡、殿畠遺跡、西ノ前遺跡（76）などで確認されている。古墳は、小美玉市羽黒古墳群（7）、平古墳群（27）、君ケ塚古墳群（26）、大塚古墳が確認されている。このうち羽黒古墳群の前方後円墳は、壺形埴輪が採集されていることから４世紀後半の築造と推測されている[7]。その他の古墳は、概ね後期古墳とみられ、小規模な円墳であることから有力農民の墳墓と想定されている。

次の奈良時代になると、石岡市域は常陸国茨城郡に属し、現石岡小学校敷地に常陸国衙が置かれた。当遺跡は常陸国衙から約６㎞東方に位置し、茨城郷の北東端にあたる。園部川対岸の小美玉市域は生園郷に、当遺跡の東側の小美玉市域は田余郷に比定されている[8]。奈良・平安時代の遺跡は、園部川右岸では曲松遺跡、根古屋遺跡、東大橋原遺跡、寺久保下遺跡（33）、中坪遺跡、白旗遺跡、蟹硲遺跡、観音前遺跡、小井戸中台遺跡、駒崎遺跡、辻微高地遺跡など多くの遺跡で奈良・平安時代の土器が採集されている。集落跡が確認されているのは東大橋原遺跡や中坪遺跡[9]、当遺跡に限られているが、遺跡数が増加して支谷の奥まで分布するようになっていることは、墾田永代私財法などにより耕地の開墾が進行し人口が増加したことに起因するものとみられる。なお、小美玉市極楽寺遺跡からは灰釉陶器短頸壺の蔵骨器が出土しており[10]、有力者の墓の存在が確認されている。園部川左岸では、竹原小学校遺跡、羽黒遺跡及び殿畠遺跡で集落跡が確認されているが、その他は小美玉市兵助山遺跡、宮原遺跡、五切遺跡（78）から該期の土器が採集されている程度である。このことは、遺跡分布調査

の精度による可能性がある。

鎌倉時代以降の中世に入ってからの当地域に関する資料は少ないが、大掾氏、小田氏、江戸氏、佐竹氏などの抗争の場となり、園部川下流域には多くの城館跡が確認されている。大掾氏関連の城跡や館跡は、園部川左岸においては弓削遺跡（6）、竹原城跡（8）、高原城跡、富士館跡（28）、園部川右岸においては東大橋要害（32）、笠松館跡（48）、殿塚館跡、取手山館跡[11]（田余館跡）（117）が所在している。一方、小田氏関係の城館跡は、園部川左岸と沢目川左岸に宮田館跡[12]（63）、中根山城跡（71）、園部氏の居城である小川城跡（81）が大掾氏の支城と対峙して所在している。その他、集落跡とみられる下坪遺跡が確認されている。

江戸時代には当地域は府中藩領となり、のち旗本領となる。遺跡としては、一字一石経塚（23）、十一久保経塚群（25）が確認されているほか、近世の遺物が採集できる集落跡とみられる遺跡も存在するが、詳細は不明である。

註

１）　近江屋成陽　2017　「殿畠遺跡　主要地方道玉里水戸線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 420 集　公益財団法人茨城県教育財団

２）　a 川崎純徳ほか　1978　『石岡市東大橋原遺跡－第１次調査報告－』石岡市教育委員会

b 川崎純徳ほか　1979　『石岡市東大橋原遺跡－第２次調査報告－』石岡市教育委員会

c 川崎純徳ほか　1980　『石岡市東大橋原遺跡－第３次調査報告－』石岡市教育委員会

３）　註２ｂと同じ

４）　深澤太郎　2001　「要害山１号墳測量調査報告」『石岡市遺跡分布調査報告』石岡市教育委員会

５）　齋藤貴稚　2021　「館野遺跡　並木新田台北遺跡　（仮）常磐道石岡小美玉スマートＩＣと茨城空港を結ぶ道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 451 集　公益財団法人茨城県教育財団

６）　大渕淳志ほか　2021　「竹原小学校遺跡（第３次）－竹原小学校外周道路整備事業に伴う発掘調査報告書－」『小美玉市埋蔵文化財調査報告書』第８集　小美玉市文化スポーツ振興部

７）　井博幸　2008　「羽黒古墳の埴輪」『小美玉市史料館報』Vol.　２

８）　中山信名修・栗田寛補　1979　『新編常陸国誌』宮崎報恩会版　崙書房

９）　谷仲俊雄ほか　2014　『市内遺跡調査報告書』第９集　石岡市教育委員会

10）　吉澤悟　1997　「「国府の海」の骨蔵－玉里村出土の骨蔵器の資料紹介および高浜入り周辺の火葬墓の検討－」『玉里村史料館報』第２号

11）　土生朗治ほか　2013　「－茨城県小美玉市－取手山館跡」『小美玉市埋蔵文化財調査報告』第１集　小美玉市教育委員会

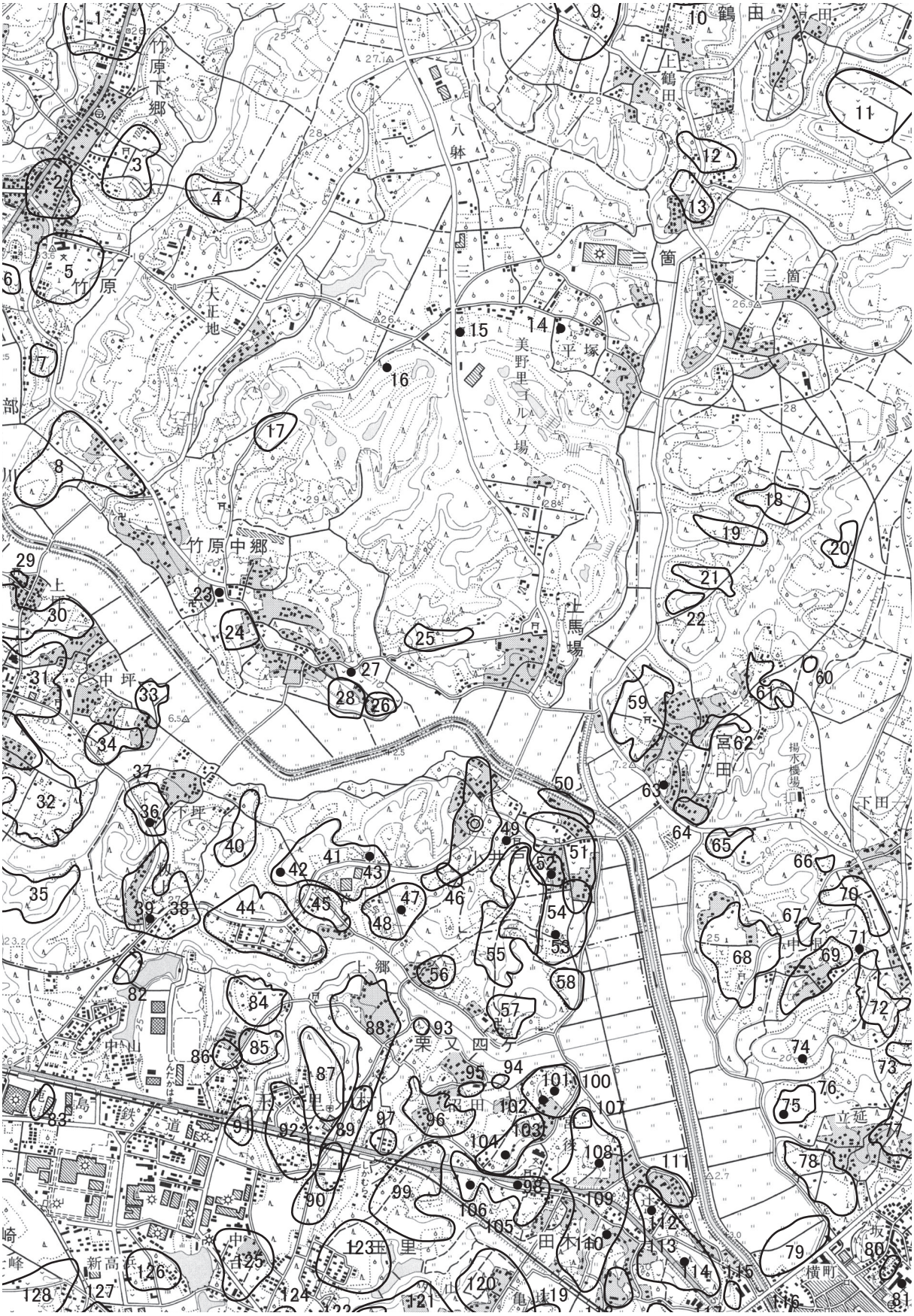
12）　田村雅樹　2013　「宮田館跡　主要地方道里水戸線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 374 集　公益財団法人茨城県教育財団

参考文献

茨城県教育庁文化課編　1986　『茨城県遺跡地図』

玉里村村内遺跡分布調査団編　2000　『玉里村遺跡地図』玉里村教育委員会

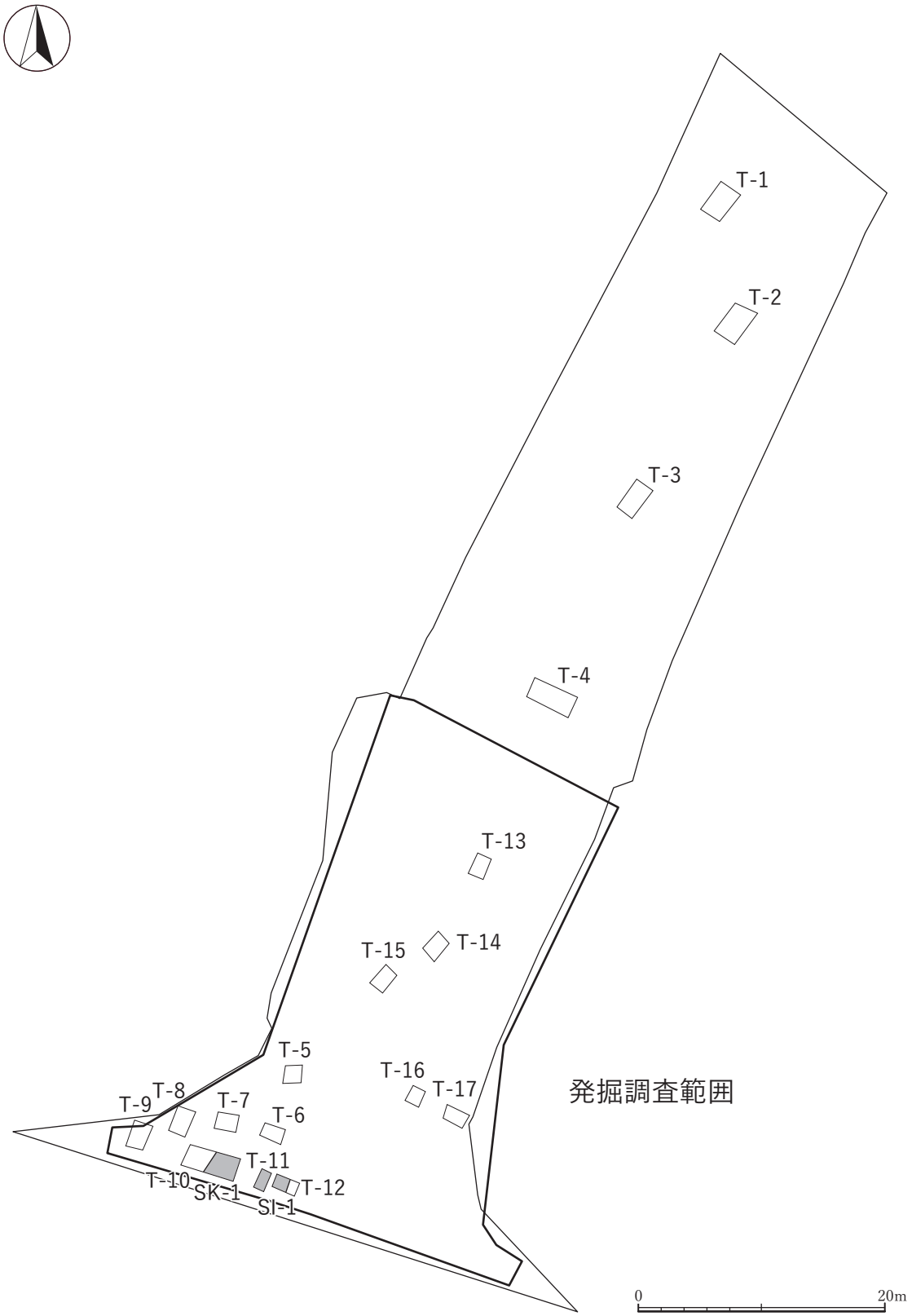
石岡市遺跡分布調査会編　2001　『石岡市遺跡分布調査報告』石岡市教育委員会



第２図　周辺遺跡地図（国土地理院　25000 分の１地形図　「石岡」）

第１表　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
◎	弥陀ノ台遺跡		○	○	○	○	○		65	蔦山遺跡		○					
1	金子谷遺跡				○	○			66	白旗後遺跡		○					
2	後遺跡		○		○	○		○	67	白旗前遺跡				○			
3	日光遺跡		○		○	○			68	宮平遺跡		○		○	○		
4	館野遺跡		○		○	○			69	柊平遺跡		○		○			
5	竹原小学校遺跡		○	○	○	○			70	宮久保遺跡		○					
6	弓削遺跡		○				○		71	中根山城跡						○	○
7	羽黒古墳群		○						72	天神平遺跡		○			○		
8	竹原城跡						○		73	水久保平遺跡		○			○		
9	茱萸木立遺跡								74	中根城跡							○
10	鶴田城跡						○		75	大塚古墳				○			
11	東山遺跡		○	○	○	○			76	西ノ前遺跡		○		○			
12	蝶巣塚古墳群				○				77	堂ノ上遺跡		○		○	○		
13	三所神社遺跡				○	○		○	78	五切遺跡		○			○		
14	熊野権現古墳				○				79	立延低地遺跡		○			○	○	
15	三箇弁天経塚群						○		80	古城ノ内遺跡		○					
16	十三塚				○				81	小川城跡						○	
17	十三遺跡		○						82	中山北遺跡		○		○	○		
18	西原遺跡		○						83	中山南遺跡				○	○		
19	火打久保上遺跡		○	○					84	山ノ神遺跡		○	○	○	○		
20	大峰遺跡		○						85	原田向遺跡		○	○		○		
21	庄司ノ上遺跡		○	○	○				86	細田遺跡		○	○		○		
22	兵助山遺跡		○			○			87	大山遺跡		○	○	○	○		
23	一字一石経塚							○	88	栗又四ケ遺跡	○	○	○	○	○		
24	高原城跡						○		89	木船塚古墳群				○			
25	十一久保経塚群							○	90	石橋遺跡		○		○	○		
26	君ヶ塚古墳群				○				91	観音峯遺跡		○					
27	平古墳群				○			○	92	木ノ内遺跡		○					
28	富士館跡						○		93	安楽寺阿弥陀堂跡						○	
29	上坪古墳群				○				94	寺塔遺跡		○		○			○
30	鍬下遺跡			○		○	○	○	95	沼田遺跡					○		○
31	東大橋原遺跡		○		○	○	○	○	96	沼田平遺跡		○	○	○	○		
32	東大橋要害						○		97	大塚古墳群				○			
33	寺久保下遺跡					○			98	八幡脇貝塚		○			○		
34	中坪遺跡		○			○	○	○	99	稲荷遺跡		○		○	○		
35	新山遺跡		○			○			100	千部塚遺跡	○	○	○	○	○	○	○
36	白旗遺跡		○			○	○	○	101	千部塚						○	○
37	下坪塚							○	102	宮後貝塚		○					
38	池下遺跡			○		○			103	岩屋遺跡		○	○	○	○		○
39	籾上塚							○	104	岩屋古墳				○			
40	下坪遺跡		○	○		○	○		105	西平西根遺跡		○	○	○	○		
41	蟹硲遺跡		○	○	○	○			106	西平西根古墳				○			
42	山ノ内古墳群				○				107	宮後古墳群				○			
43	七人塚古墳群				○				108	鷲下古墳				○			
44	根田上遺跡		○	○	○				109	桜久保遺跡		○	○	○	○	○	○
45	高野遺跡		○		○	○			110	東前古墳群				○			
46	笠松遺跡		○		○	○			111	辻微高地遺跡		○	○	○	○	○	○
47	茶屋塚古墳群				○				112	折戸古墳				○			
48	笠松館跡		○	○	○		○		113	香取遺跡		○	○	○	○	○	○
49	権現山古墳群				○				114	香取台稲荷古墳				○			
50	要害山古墳群				○				115	香取下遺跡	○	○	○		○		○
51	観音前遺跡		○			○	○		116	寄居遺跡			○	○	○	○	
52	天神山古墳				○				117	取手山館跡		○	○	○	○	○	
53	境塚古墳				○				118	東前遺跡		○	○		○	○	○
54	小井戸南遺跡		○	○	○	○			119	稲荷台遺跡		○	○	○	○	○	○
55	小井戸台遺跡		○	○		○			120	飯塚館跡				○	○	○	
56	殿塚館跡		○		○	○	○		121	原山館跡		○	○	○	○	○	○
57	極楽寺遺跡					○			122	上玉里塚群						○	○
58	駒崎遺跡		○	○	○	○			123	田木谷遺跡		○	○	○	○	○	
59	殿畠遺跡		○		○				124	中台遺跡		○	○		○		
60	三蔵久保遺跡				○				125	中台北遺跡		○		○	○		
61	ハサマ遺跡		○		○				126	新林遺跡		○					
62	東ノ上遺跡		○						127	富士峯遺跡	○	○	○	○	○	○	○
63	宮田館跡						○		128	中台遺跡		○				○	○
64	峯遺跡		○		○												



第３図　調査区内試掘トレンチ配置図

第３章　調査の方法と調査概要及び基本層序

第１節　調査の方法

調査区の座標は、日本平面直角座標第Ⅸ系に準拠し、世界測地系により算出した杭を基準にして設定した。調査対象地は園部川右岸標高約７ｍ地点で、調査総面積は 955 ㎡である。

調査に当たっては重機を用いて表土・耕作土層の除去を行ない、ソフトローム層（第３層）上面を遺構確認面とした。遺構確認面からは人力により遺構確認精査及び撹乱の除去を行ない、遺構プランの確認作業を行なった。検出された遺構については全て手作業により掘削を行なった。遺構内出土の主たる遺物については原則として光波測距機を用いた３次元記録を実施した。また、遺構については平面・土層断面を縮尺 1/20 を原則とし、適宜記録を実施した。写真撮影に当たっては 35㎜ モノクロフィルム、35㎜ カラーリバーサルフィルム、デジタルカメラ（2432 万画素）を併用し、適宜記録撮影を行なった。

第２節　試掘調査の成果

試掘調査は、令和２年３月 25 日･26 日に実施した。開発区域北側の陸田部分に T- １～３、南側の畑・竹林部分に T- ５～ 17、両者の境に T- ４の計 17 ヶ所の試掘トレンチを設定した。その結果、北側の T- １～４では遺構・遺物は確認されず、特に T- １～３では湧水が認められた。南側では、奈良・平安時代の竪穴建物跡１棟、時期不明の土坑１基が確認された（第３図）。

遺物は、古墳時代～中世の土器が遺物整理箱１箱出土した。本書ではそのうち５点を抽出して掲載する（第 43 図　５・８・９・10・12）。

第３節　調査概要

弥陀ノ台遺跡は平成 25 ～ 26 年の道路改良工事に伴う発掘調査により、古墳時代･奈良･平安時代･中世の複合遺跡として周知されていた。今回実施した発掘調査においては古墳時代および奈良時代の集落跡や中世の溝等を確認した。

検出した遺構は竪穴建物跡９棟、土坑５基、ピット３基、溝跡４条、性格不明遺構１基である。遺物は土師器（坏・甕・手捏ね・鉢）、土製品（支脚・球状土錘）、須恵器（坏・蓋・甕・横瓶・高台付坏・高盤・短頸壺）、石器（砥石）、金属製品（鉄鏃）が出土した。

第４節　基本層序

調査区南側の A16 と北側 W16 の２ヶ所のテストピットを設定し、基本土層の観察を行なった（第４図）。なお、ローム層の層序区分については武蔵野台地での層序区分を参考にしている。

第１層は褐色（7.5YR4/4）でローム粒子を少量含んでいる。粘性はややあり、締まりはある。武蔵野台地における層位はⅢ層で、立川ローム層と考えられる。

第２層は暗褐色（7.5YR3/4）で、ローム大ブロック少量を含み、粘性はあり、締まりはややある。

第３層は暗褐色（7.5YR3/3）で、ローム大ブロックを少量含み、粘性はあり、締まりはややある。また、ガラス質のような物質を含むことからAT層と考えられる。武蔵野台地における層位は第Ⅵ層であり、今回の調査での遺構確認面である。

第４層は灰褐色（7.5YR4/2）であり、武蔵野台地における層位はⅦ層に比定される。第二黒色帯の上層である。

第５層は黒褐色（7.5YR3/2）であり、武蔵野台地における層位はⅨ層に比定される。ローム粒を多量に含み、粘性と締まりを帯びている。第５層以下は水分の影響により変色している可能性がある。第二黒色帯の下層と考えられ、約2,8000年前に比定される。

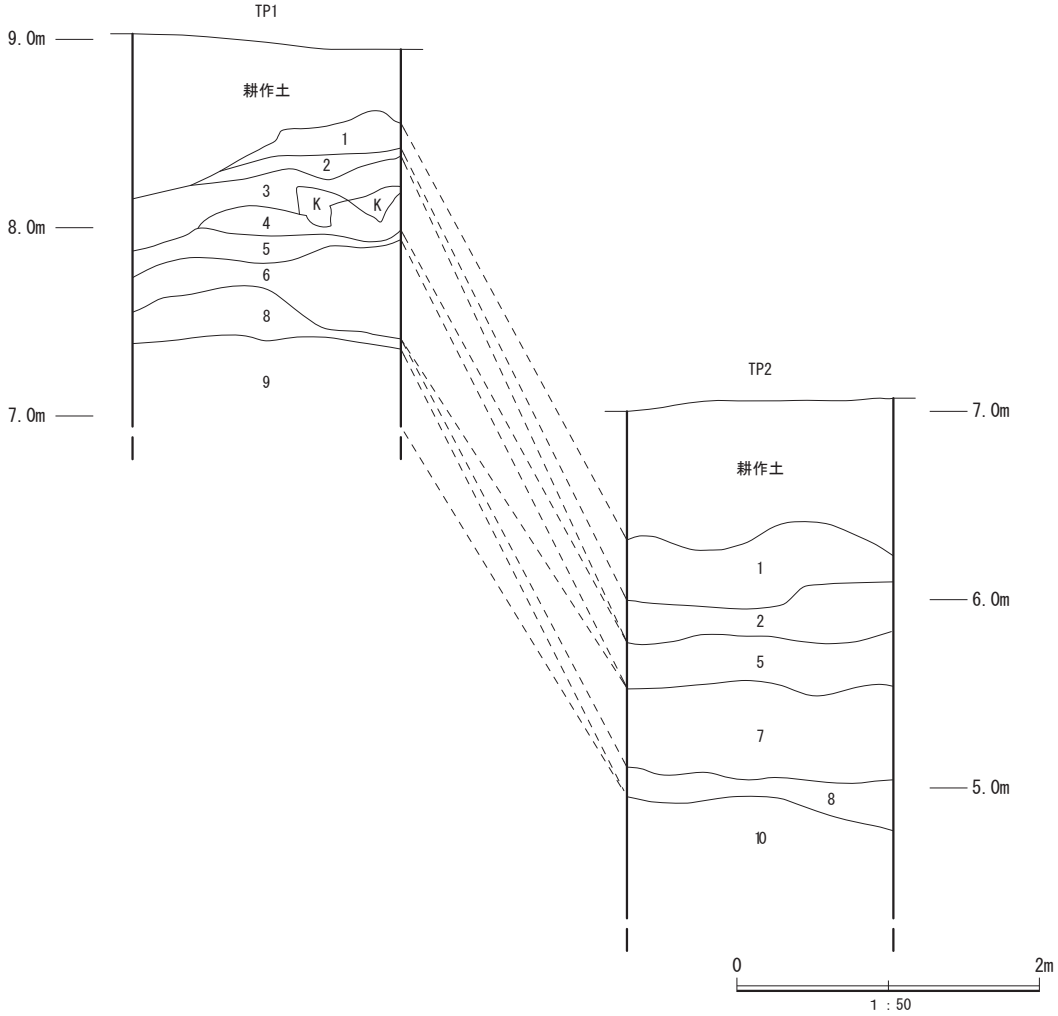
第６層は暗褐色（7.5YR3/4）で、武蔵野台地における層位は第Ｘ層と考えられる。ローム大ブロック・ローム粒子を少量含み粘性と締まりを帯びている。立川ローム層（TL）の最下層と考えられる。

第７層は褐色（7.5YR4/6）で、ローム粒子を多量に含む。粘性締まりを帯びている。

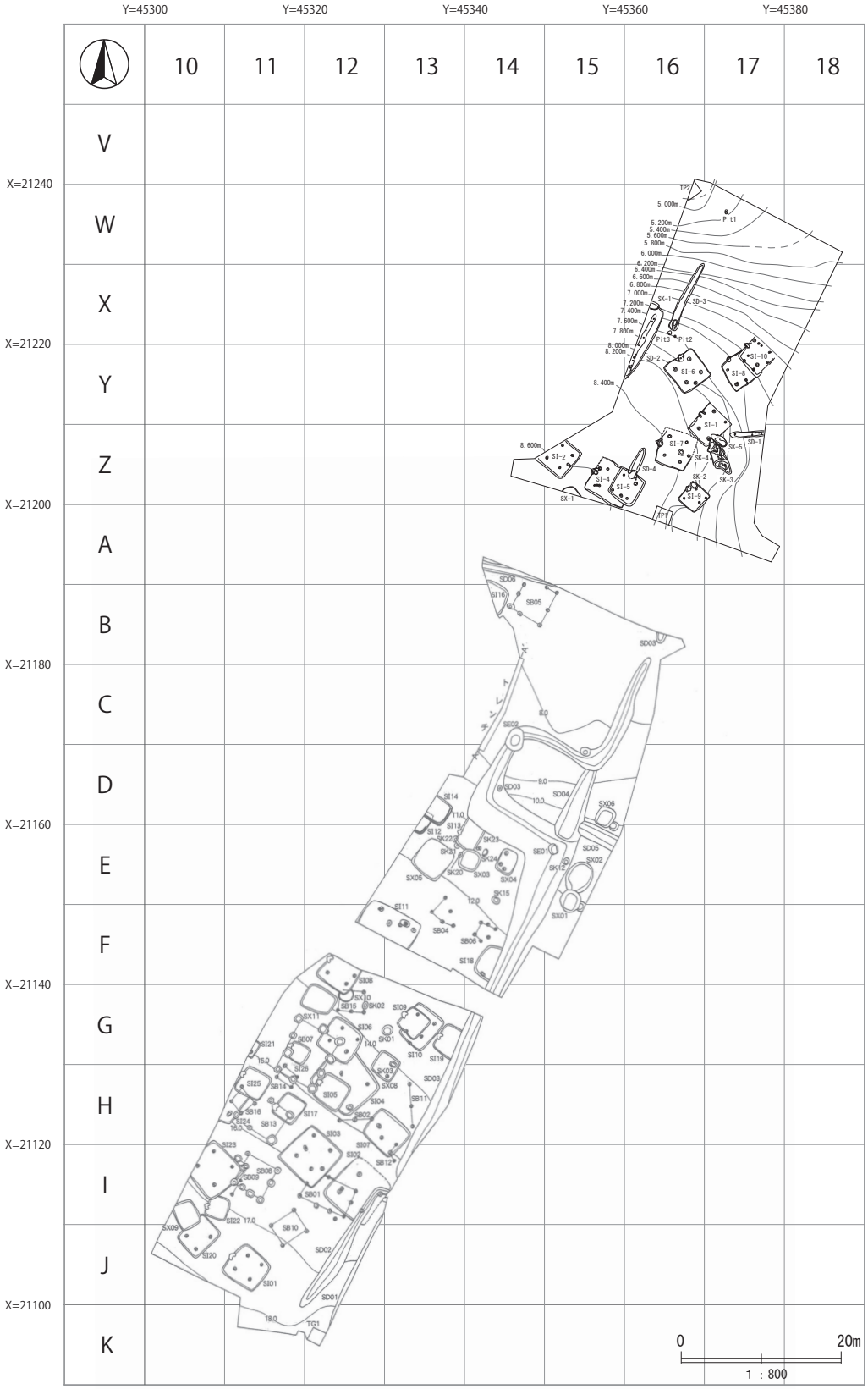
第８層は明黄褐色（10YR6/6）で、ローム大ブロック・ローム粒子を少量含む。粘性締まりを帯びている。ここまでが武蔵野ローム層（ML）に比定されると考えられる。

第９層は灰白色（5GY8/1）で常総粘土層である

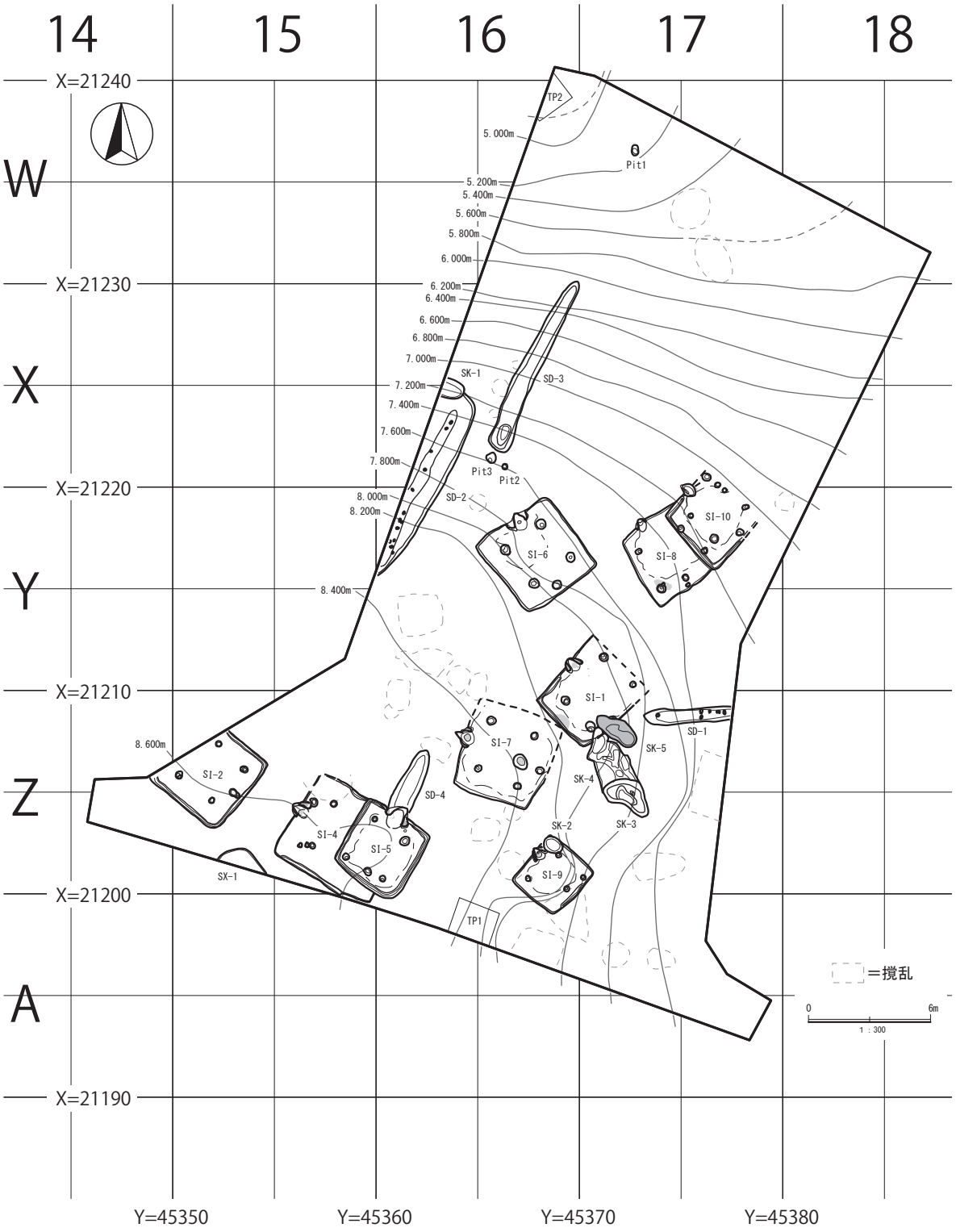
第10層は褐色（7.5YR4/4）で、炭化粒子を多量に含む。粘性締まりを帯びている。



第４図　基本土層図


Y=45300
Y=45320
Y=45340
Y=45360
Y=45380
10
11
12
13
14
15
16
17
18
V
W
X
Y
Z
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
X=21240
X=21220
X=21200
X=21180
X=21160
X=21140
X=21120
X=21100
0
20m
1 : 800

第５図　グリット設定図


14
15
16
17
18
X=21240
X=21230
X=21220
X=21210
X=21200
X=21190
W
X
Y
Z
A
Y=45350
Y=45360
Y=45370
Y=45380
TP2
Pit1
5.000m
5.200m
5.400m
5.600m
5.800m
6.000m
6.200m
6.400m
6.600m
6.800m
7.000m
7.200m
7.400m
7.600m
7.800m
8.000m
8.200m
8.400m
8.600m
SK-1
SD-3
Pit3
Pit2
SD-2
SI-6
SI-8
SI-10
SI-1
SD-1
SK-5
SK-4
SK-3
SK-2
SI-7
SI-2
SD-4
SI-4
SI-5
SX-1
SI-9
TP1
=撹乱
0
6m
1 : 300

第６図　遺構全体図

第４章　遺構と遺物

第１節　古墳時代の遺構と遺物

１　竪穴建物跡

５棟確認され、土師器（坏・甕・小形甕・手捏ね）、須恵器（坏・蓋・横瓶・甕）、土製品（支脚・球状土錘）、石器（砥石）、金属製品（鉄鏃）が出土した。そのうち、第８号竪穴建物跡は７世紀前葉、第１・２・４・10 号竪穴建物跡は７世紀後葉である。

第８号竪穴建物跡

位置　Ｙ 17

規模と形状　確認された遺構は長軸４ｍ、短軸［3.4］ｍで長方形と考えられ、主軸方向はＮ－ 37°－Ｗである。壁は確認面から最大 14 ㎝で、外傾している。

重複関係　第 10 号竪穴建物跡に掘り込まれている。

床　平坦な床で、中央部が硬化している。Ｐ３確認面の上に焼土塊が確認された。

竈　北西壁の中央寄りに砂質粘土で構築されている。焚口から煙道部までは 63cm、焚口部の間口は 46cm、袖部の基部幅は 64cm である。火床部は床面から 11cm 程度掘りくぼめられている。

ピット　６ヶ所確認され、Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。規模はＰ１：長径 32cm、短径 30cm の円形で深さ 22cm である。Ｐ２：長径 30cm、短径 28cm の円形で深さ 15cm である。Ｐ３：長径 46cm、短径 40cm の楕円形で深さ 34cm である。Ｐ４:長径 30cm､短径 25cm の楕円形で深さ 12cm である。Ｐ５・Ｐ６は出入口ピットと考えられ､規模はＰ５:長径 34cm､短径 26cm の楕円形で､深さ 16cm である。Ｐ６:長径 20cm、短径 15cm の楕円形で深さ７㎝である。

覆土　４層に分層できる。人為堆積で、３層と４層はロームブロックを含んでいる。

遺物出土状況　土師器 83 点（坏 12･甕 67･手捏ね４）、土製品２点（球状土錘）が出土している。１・２は竈左袖部手前の覆土下層から、４・５は覆土中層からそれぞれ出土している。３は土師器甕の人面墨書土器で、焼土塊付近の覆土上層から出土している。

所見　時期は、出土した遺物から７世紀前葉と考えられる。

第８号竪穴建物跡土層説明

１	7.5YR	4/3	褐色	ローム粒子中量　炭化粒子少量　粘性あり　締まりややあり
２	7.5YR	3/3	暗褐色	ローム粒子少量　炭化粒子少量　粘性あり　締まりややあり
３	7.5YR	4/4	暗褐色	ロームブロック少量　ローム粒子少量　焼土粒子微量　粘性あり　締まりややあり
４	7.5YR	4/6	褐色	ロームブロック少量　ローム粒子中量　粘性あり　締まりややあり

Ｐ１～Ｐ６

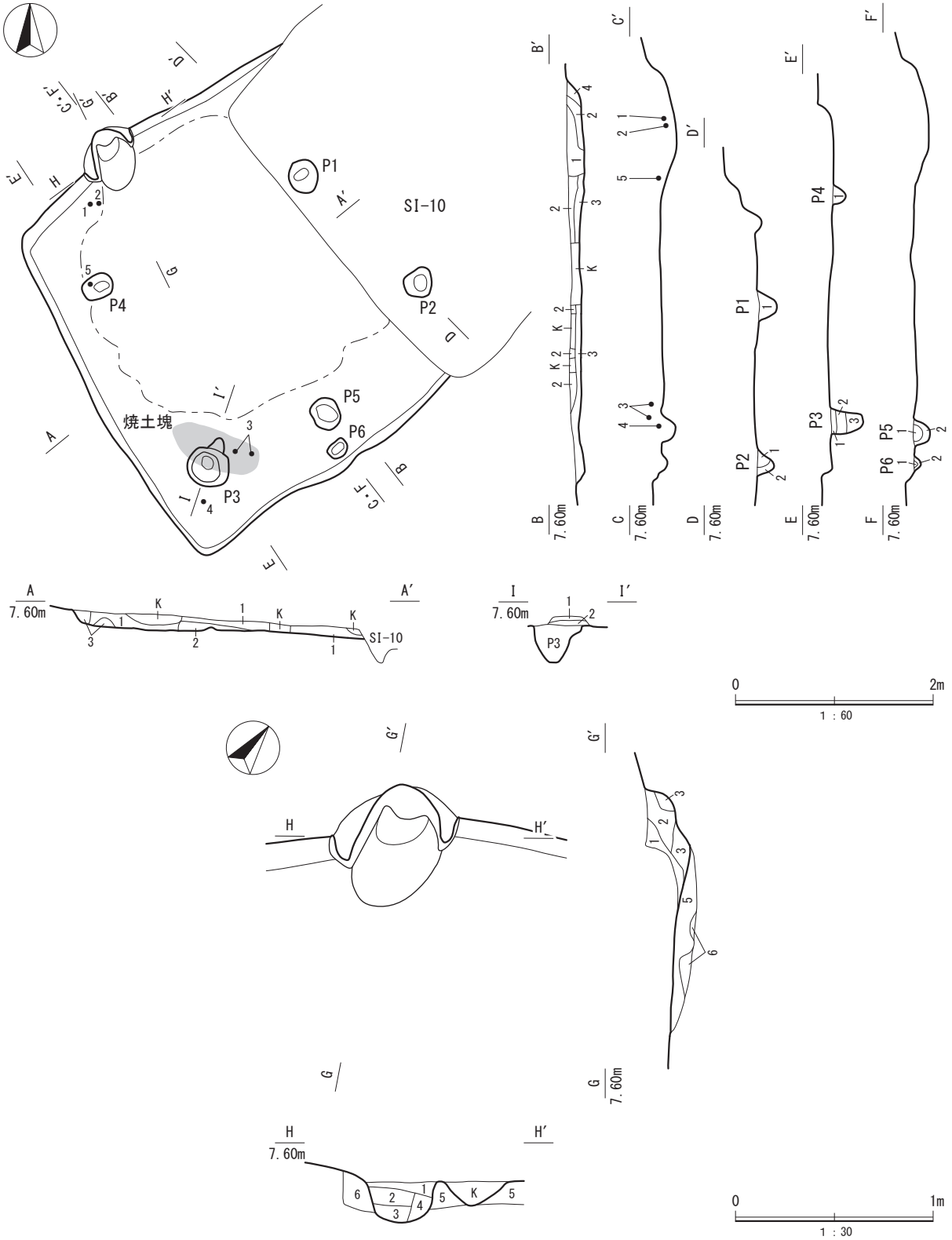
１	7.5YR	3/3	暗褐色	ローム粒子少量　焼土粒子中量　炭化粒子中量　粘性なし　締まりなし
２	7.5YR	4/2	灰褐色	ローム粒子少量　焼土粒子中量　炭化粒子少量　粘性なし　締まりなし
３	7.5YR	4/3	褐色	ロームブロック少量　ローム粒子中量　炭化粒子少量　山砂中量　粘性なし　締まりなし

焼土塊

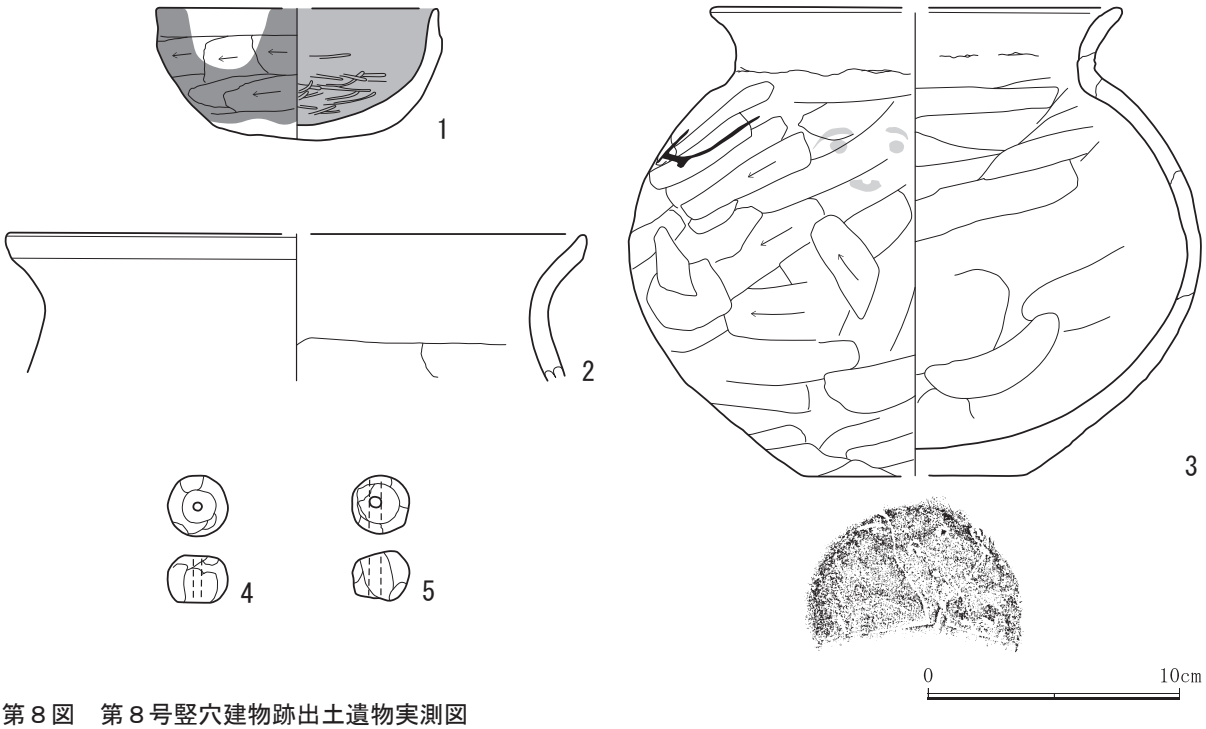
１	5YR	3/4	暗赤褐色	ローム粒子少量　焼土粒子中量　粘性なし　締まりなし
２	7.5YR	3/4	暗褐色	ローム粒子少量　焼土ブロック少量　焼土粒子少量　粘性なし　締まりなし

竈土層説明

１	5YR	3/3	暗赤褐色	ローム粒子少量　炭化粒子中量　山砂少量　粘性なし　締まりなし
２	5YR	3/2	暗赤褐色	ローム粒子少量　炭化粒子中量　粘性なし　締まりなし
３	7.5YR	4/3	褐色	ローム粒子多量　焼土粒子少量 炭化粒子少量　粘性なし　締まりあり
４	7.5YR	4/3	褐色	ローム粒子多量　焼土粒子微量　炭化粒子少量　山砂中量　粘性なし　締まりあり
５	5YR	3/2	暗赤褐色	焼土粒子少量　炭化粒子中量　山砂中量　粘性なし　締まりなし
６	7.5YR	4/6	褐色	ロームブロック中量　ローム粒子多量　粘性あり　締まりあり



第７図　第８号竪穴建物跡・竈実測図



第８図　第８号竪穴建物跡出土遺物実測図

第２表　第８号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	土師器	坏	(11.0)	―	5.2	にぶい褐色	長石・石英・雲母・チャート	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内面ヘラミガキ・外面横位のヘラ削り	残存率 60%　図版７ 覆土下層 内面黒色処理 外面煤付着
2	土師器	甕	(22.6)	―	[5.8]	にぶい褐色	長石・石英・雲母	普通	口縁部内外面横ナデ 頸部内面横位のヘラナデ	残存率５%　図版７ 覆土下層
3	土師器	甕	(15.8)	(8.6)	19.1	橙色	長石・石英	普通	口縁部内外面横ナデ 頸部から体部内外面ヘラ削り	残存率 70%　図版７ 焼土塊付近覆土上層 体部に人面墨書（眉毛、目、口が確認されている。）
番号	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			径	長さ	孔径					
4	土製品	球状土錘	2.4	1.9	0.3	13	長石・石英	普通	一方向からの穿孔	残存率 100%　図版 10 覆土中層
5	土製品	球状土錘	2.3	2.0	0.5	11	長石・石英	普通	一方向からの穿孔	残存率 90%　図版 10 覆土中層

第１号竪穴建物跡

位置　Ｙ 16・Ｙ 17・Ｚ 16・Ｚ 17

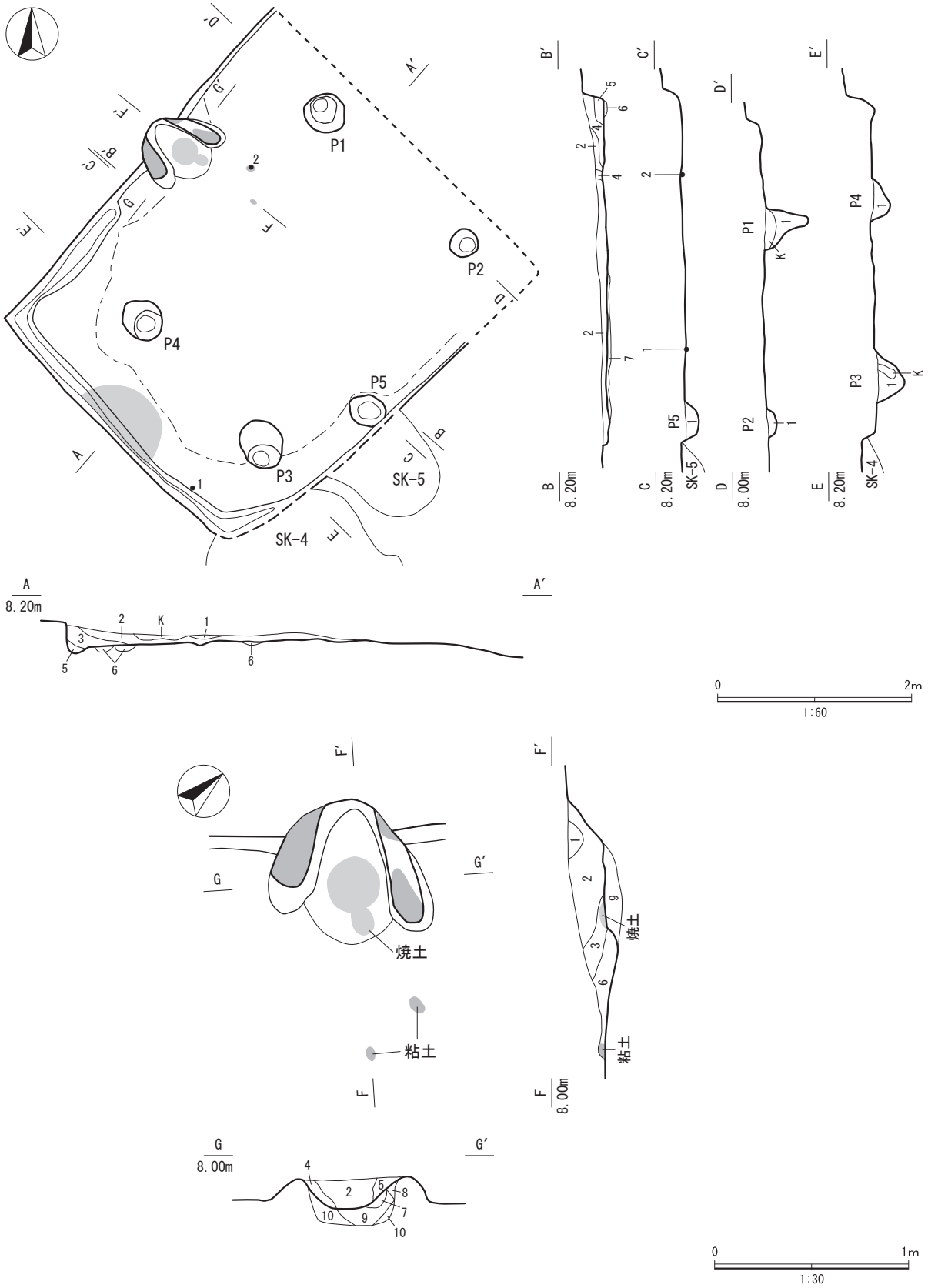
規模と形状　北東壁から南東壁の一部にかけて削失しているため、確認できた規模は長軸（4.35）m、短軸 3.88 mで長方形を呈していると考えられ、主軸方向はＮ－ 50°－Ｗである。壁は確認面から最大 22 cmで、ほぼ直立している。

重複関係　第４号土坑・第５号土坑に掘り込まれている。

床　平坦な貼床で、ロームブロックを充填して構築されており、中央部が硬化している。

壁溝　北西部から南西部にかけて検出された。幅 25cm、深さ 10cm で、断面形はＵ字状を呈する。

竈　北西壁の中央寄りに砂質粘土で構築されている。火床部から煙道へは外傾して立ち上がる。確認できた規模は焚口から煙道部までは 63cm、焚口部の間口幅は 40cm、袖部の基部の幅は 65cm、火床部は床面から７cm 程度掘りくぼめられている。



第９図　第１号竪穴建物跡・竈実測図

ピット　５ヶ所確認され､Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる｡規模はＰ１:長径42cm､短径40cmの円形で、深さ46cmである。Ｐ２：長径・短径ともに28cmの円形で，深さ12cmである。Ｐ３：長径50cm、短径45cmの楕円形で、深さ28cmである。Ｐ４：長径46cm、短径38cmの楕円形で、深さ20cmである。Ｐ５は出入口ピットと考えられ、規模は長径38cm、短径30cmの楕円形で、深さ12cmである。

覆土　７層に分層できる。第１～５層は、ロームブロック・ローム粒子を含むことから人為堆積と考えられる。第３層は竈の構築材の残滓で、焼土粒子が中量、炭化物が少量、粘土が微量に含まれている。第６・７層は貼床の構築層で、ロームブロックを多く含み締まりが強い。

遺物出土状況　土師器６点（坏１・甕５）、土製品３点（支脚）が出土している。１・２は床面直上から出土している。

所見　時期は、出土した遺物から７世紀後葉と考えられる。

第１号竪穴建物跡土層説明

1　7.5YR　3/4　暗褐色　　ローム粒子少量　粘性ややあり　締まりややあり
2　7.5YR　3/3　暗褐色　　ローム粒子少量　粘性ややあり　締まりややあり
3　7.5YR　4/3　褐色　　ロームブロック少量　ローム粒子多量　焼土粒子中量　炭化物少量　粘土粒子微量　粘性あり　締まりややあり
4　7.5YR　4/4　褐色　　ロームブロック少量　焼土粒子微量　炭化粒子中量　粘性あり　締まりややあり
5　7.5YR　4/6　褐色　　ローム粒子多量　炭化粒子微量　炭化粒子少量　粘性ややあり　締まりあり
6　7.5YR　4/4　褐色　　ロームブロック多量　ローム粒子少量　炭化粒子少量　粘性あり　締まりあり
7　7.5YR　3/3　暗褐色　　ロームブロック多量　ローム粒子多量　粘性あり　締まりあり

Ｐ１～Ｐ４

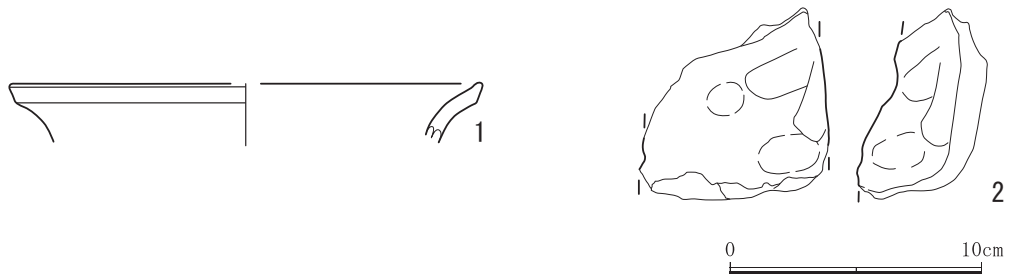
1　7.5YR　3/2　黒褐色　　ロームブロック少量　ローム粒子少量　炭化粒子微量　粘性ややあり　締まりあり

Ｐ５

1　7.5YR　3/3　暗褐色　　ローム粒子少量　炭化粒子少量　粘性ややあり　締まりややあり

竈土層説明

1　7.5YR　3/3　暗褐色　　ロームブロック微量　ローム粒子少量　炭化粒子微量　焼土粒子微量　粘性ややあり　締まりややあり
2　7.5YR　4/6　褐色　　ローム粒子少量　炭化粒子少量　焼土ブロック微量　粘性ややあり　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐色　　ローム粒子微量　山砂少量　粘性ややあり　締まりややあり
4　5YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子多量　粘土粒子少量　粘性なし　締まりなし
5　5YR　3/6　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子少量　粘土粒子少量　灰少量　粘性なし　締まりなし
6　5YR　4/2　灰褐色　焼土ブロック少量　焼土粒子少量　粘土粒子中量　粘性なし　締まりなし
7　5YR　6/2　灰褐色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子多量　粘性あり　締まりなし
8　2.5YR　4/6　赤褐色　焼土ブロック中量　焼土粒子多量　炭化粒子少量　粘性なし　締まりなし（火床部）
9　5YR　5/2　灰褐色　焼土粒子微量　炭化粒子少量　粘性あり　締まりなし
10　5YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘土粒子少量　粘性なし　締まりなし



第10図　第１号竪穴建物跡出土遺物実測図

第３表　第１号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	土師器	甕	(18.4)	—	[2.4]	浅黄橙色	長石・石英・雲母	良好	口縁部内外面横ナデ	残存率5%　図版５ 床面直上
番号	種別	器種	法量（cm）			重量(g)	胎土	手法の特徴		備考
			長さ	幅	厚さ					
2	土製品	支脚	[7.5]	[7.5]	[5.1]	174	細砂	外面指頭による調整		残存率30%　図版５ 床面直上

第２号竪穴建物跡

位置　Ｚ 14・Ｚ 15

規模と形状　北西部は調査区外へと延びており、確認された規模は長軸 4.3 ｍ、短軸［3.8］ｍでほぼ正方形と考えられ、主軸方向はＮ－ 52°－Ｗである。

床　平坦な貼床で、ロームブロックを充填して構築されており、全面が硬化している。

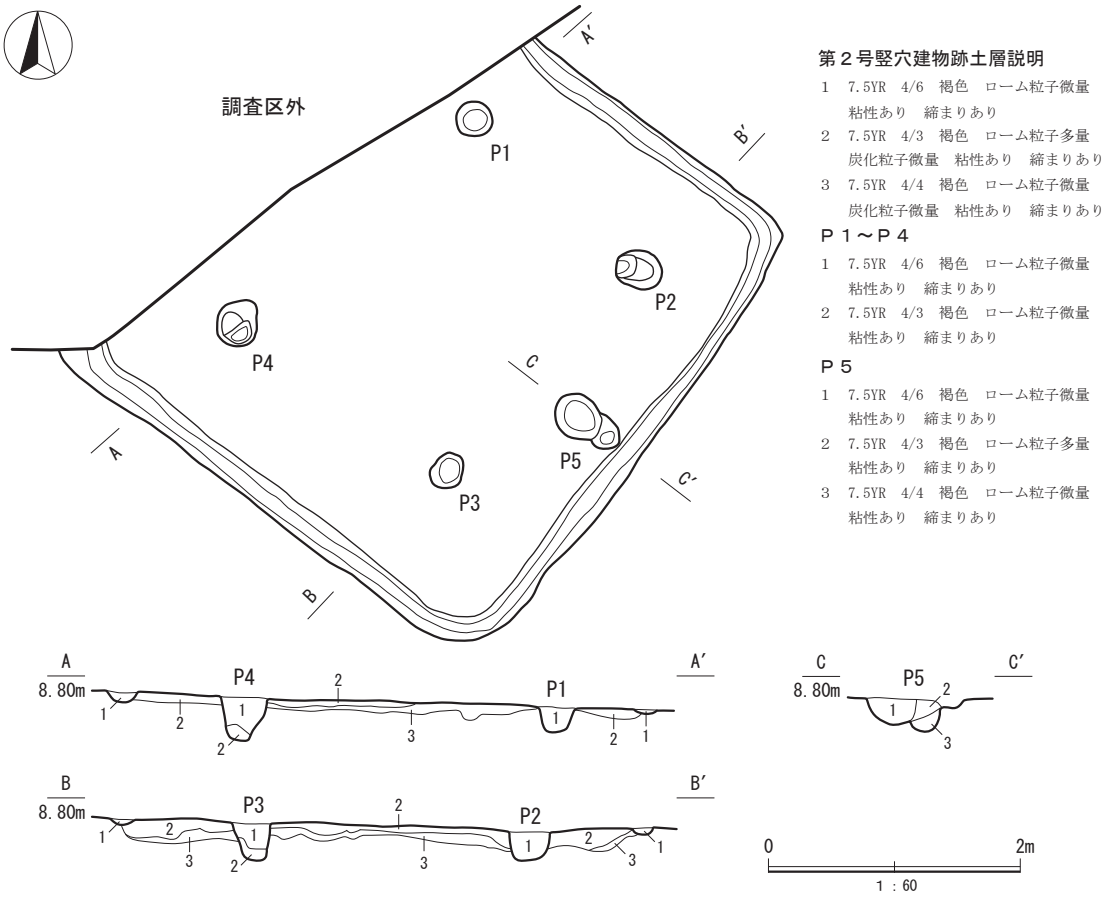
壁溝　北西部は調査区外となるが、確認できた部分は幅 25cm、深さ７cm である。断面形はＵ字状を呈する。

ピット　５ヶ所確認され、Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。規模はＰ１：長径・短径ともに 28cm の円形で深さ 18cm である。Ｐ２：長径 40cm、短径 30cm の楕円形で，深さ 22cm である。Ｐ３：長径 30cm、短径 26cm の楕円形で、深さ 30cm である。Ｐ４：長径 40cm、短径 34cm の楕円形で、深さ 32cm である。Ｐ５は出入口ピットと考えられ、規模は長径 58cm、短径 34cm の楕円形で、深さ 25cm で二段掘りを呈する。

覆土　検出面に床が露呈していたため不明である。掘方は２層に分層され、ローム粒子を多く含むことから人為堆積と考えられる。構築土に炭化粒子も含まれている。

遺物出土状況　土師器２点（甕）が検出面から出土しているが、細片の為図化できなかった。

所見　時期は、規模が４ｍ程で、主軸も同様である建物跡と同時期の７世紀後葉の可能性が高い。



第 11 図　第２号竪穴建物跡実測図

第４号竪穴建物跡

位置　Ａ 15・Ｚ 15・Ｚ 16

規模と形状　長軸 5.4m、短軸 4.8m の長方形を呈し、主軸方向はＮ－ 56°－Ｗである。壁は確認面から最大 16 ㎝を測り、ほぼ直立している。

重複関係　第５号竪穴建物跡によって掘り込まれている。

床　平坦な貼床で、ロームブロックを充填して構築されており、全面硬化している。中央部竈寄りに粘土塊が確認された。色調は、にぶい赤褐色で、ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量、粘土粒子を多量含んでいる。竈の廃材とも考えられる。また、竈右袖脇に灰だめを確認した。灰だめは長径 40 ㎝、短径 28 ㎝の不整楕円形で、深さ６㎝程である。

壁溝　南西部・北東部で確認され、幅 20㎝、深さ 10㎝である。断面形はＵ字状を呈する。

竈　北西壁の中央寄りに砂質粘土で構築されている。焚口から煙道部までは（90）㎝、焚口部の間口は（50）㎝、袖部の基部幅は 95㎝である。火床部は床面から５㎝程度掘りくぼめられている。

ピット　４ヶ所確認され､Ｐ１･Ｐ２は主柱穴と考えられる。規模はＰ１:長径 32㎝､短径 30㎝の円形で，深さ 40㎝である。Ｐ２：長径 32㎝、短径 26㎝の楕円形で、深さ 17㎝である。Ｐ３は長径 25㎝，短径 15㎝の楕円形で深さ 10㎝である。Ｐ４は長径 20㎝，短径 15㎝の楕円形で深さ 10㎝である。出入口ピットは確認できなかった。

覆土　８層に分層される。第１～６層は自然堆積で、第７・８層は床の構築層である。

遺物出土状況　土師器 209 点（坏 45、甕 163、手捏ね 1)、須恵器 25 点（坏 13・蓋７・甕５）、土製品１点（支脚)、石器１点（砥石)、金属製品１点（鉄鏃）が出土している。須恵器の多くは第５号竪穴建物跡からの流れ込みと考えられる。１～４・６は床面直上から、５は竈内から、７は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土した遺物から７世紀後葉と考えられる。

第４号竪穴建物跡土層説明

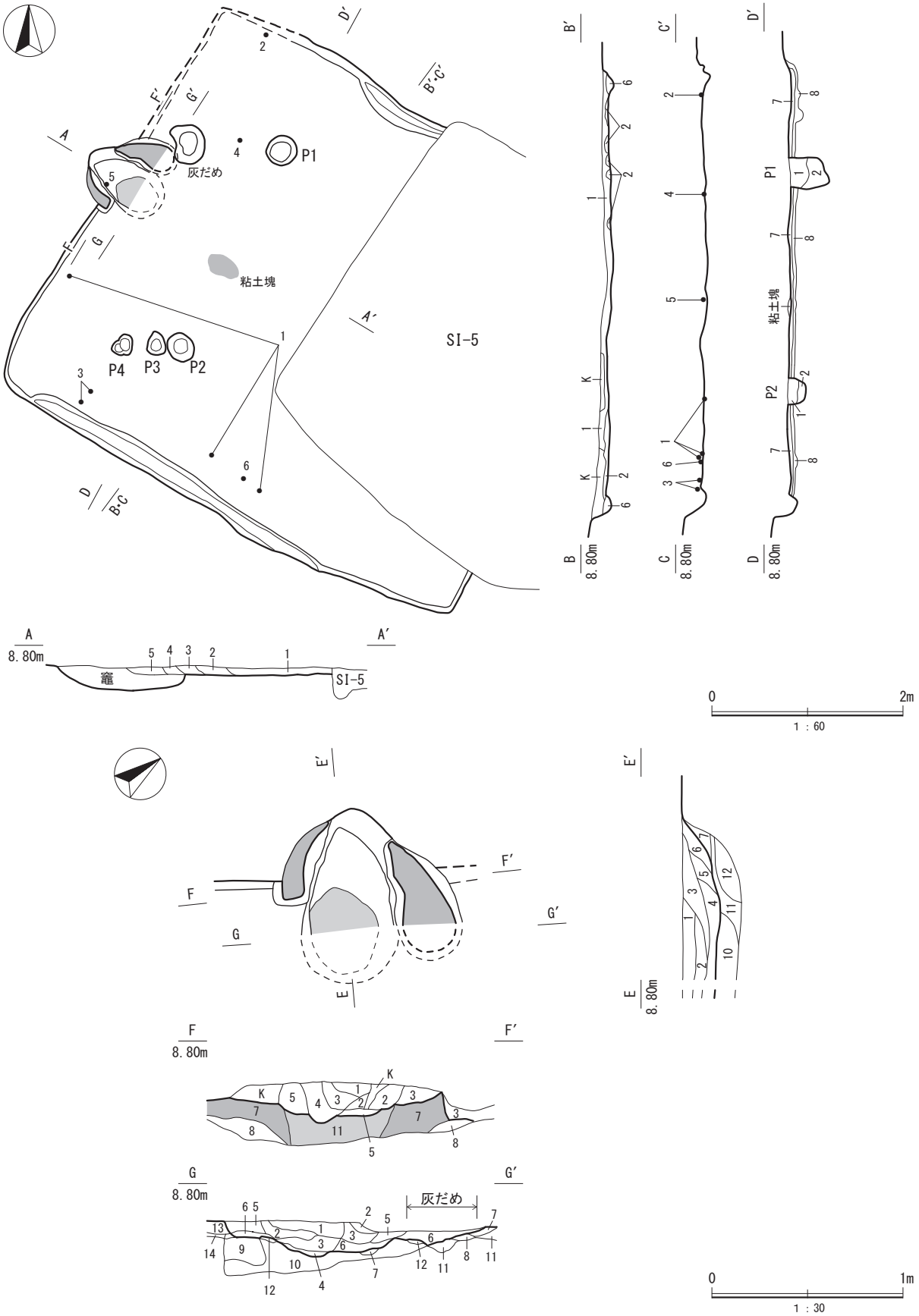
1	7.5YR	4/3	褐色	ローム粒子多量　焼土粒子微量　炭化物微量　粘性あり　締まりあり
2	7.5YR	4/3	褐色	ローム粒子多量　炭化粒子微量　粘土粒子少量　粘性あり　締まりあり
3	7.5YR	4/3	褐色	ローム粒子中量　焼土粒子微量　炭化粒子中量　粘性あり　締まりあり
4	7.5YR	4/4	褐色	ローム粒子多量　焼土粒子微量　炭化粒子微量　粘性あり　締まりあり
5	7.5YR	4/4	褐色	ロームブロック少量　ローム粒子多量　焼土粒子中量　炭化粒子中量　粘性あり　締まりあり
6	7.5YR	4/4	褐色	ロームブロック少量　ローム粒子多量　粘性あり　締まりややあり
7	7.5YR	4/3	褐色	ローム粒子多量　炭化粒子微量　粘土粒子多量　粘性あり　締まりあり
8	7.5YR	5/6	明褐色	炭化粒子微量　粘性あり　締まりあり

Ｐ１・Ｐ２

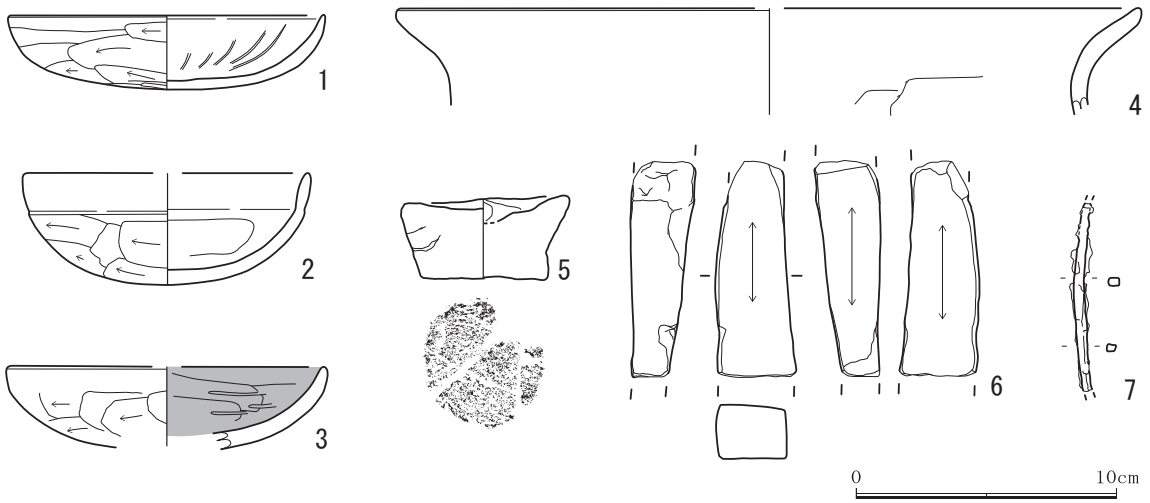
1	7.5YR	4/6	褐色	ローム粒子多量　粘性ややあり　締まりややあり
2	7.5YR	5/6	明褐色	ローム粒子多量　粘性ややあり　締まりややあり

竈土層説明

1	5YR	3/3	暗赤褐色	焼土粒子中量　炭化粒子少量　粘土粒子中量　粘性なし　締まりなし
2	7.5YR	4/3	褐色	焼土粒子微量　炭化粒子微量　粘土粒子微量　ローム粒子中量　粘性あり　締まりなし
3	5YR	2/2	黒褐色	粘土粒子微量　炭化粒子微量　粘性なし　締まりなし
4	5YR	4/6	赤褐色	焼土ブロック中量　焼土粒子中量　ロームブロック中量　粘性あり　締まりあり
5	7.5YR	4/2	灰褐色	粘土粒子中量　ローム粒子中量　粘性あり　締まりあり
6	2.5YR	3/6	暗赤褐	焼土ブロック少量　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子少量　粘性なし　締まりなし
7	7.5YR	4/4	褐色	ローム粒子多量　粘性あり　締まりあり
8	5YR	3/3	暗赤褐色	焼土粒子中量　炭化粒子中量　粘土粒子中量　粘性なし　締まりなし
9	5YR	3/2	暗赤褐色	焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘土粒子少量　粘性なし　締まりなし
10	2.5YR	3/4	暗赤褐色	焼土粒子中量　炭化粒子中量　粘性なし　締まりなし
11	5YR	3/6	暗赤褐色	焼土ブロック微量　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子少量　粘性なし　締まりあり
12	5YR	3/2	暗赤褐色	焼土ブロック微量　焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘土粒子少量　灰少量　粘性なし　締まりなし
13	2.5YR	3/2	暗赤褐色	焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子少量　粘性なし　締まりなし
14	2.5YR	2/3	極暗赤褐	焼土粒子少量　炭化粒子中量　灰少量　粘性なし　締まりなし



第 12 図　第４号竪穴建物跡・竈実測図



第 13 図　第４号竪穴建物跡出土遺物実測図

第４表　第４号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	土師器	坏	12.4	—	2.9	にぶい赤褐色	長石・雲母	普通	体部内面ナデ後放射状の暗文 外面横位のヘラ削り	残存率 40%　図版５ 床面直上
2	土師器	坏	(11.4)	—	4.1	にぶい黄橙色	長石・石英・雲母	普通	口縁部内外面横ナデ 外面横位のヘラ削り	残存率 50%　図版５ 床面直上
3	土師器	坏	(12.4)	—	［3.2］	にぶい黄橙色	長石・石英・雲母	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内面ヘラミガキ 外面横位のヘラ削り	残存率 20%　図版５ 床面直上 内面黒色処理
4	土師器	甕	(29.2)	—	［4.2］	にぶい黄橙色	長石・石英・雲母	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内外面ヘラナデ	残存率 5%　図版５ 床面直上
5	土師器	手捏ね	6.3	4.8	3.3	明褐色	長石・石英	普通	内外面指ナデ	残存率 5%　図版５ 竈内　木葉痕
番号	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	手法の特徴		備考
			長さ	幅	厚さ					
6	石器	砥石	［8.5］	3.1	2.6	86	粘板岩	砥面３面		残存率 50%　図版 10 床面直上
番号	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	材質	手法の特徴		備考
			長さ	幅	厚さ					
7	金属製品	鉄鏃	［7.4］	0.4	0.4	［3.9］	鉄	茎部断面方形		残存率 60%　図版 10 覆土中

第 10 号竪穴建物跡

位置　Ｙ 17・Ｘ 17

規模と形状　斜面部に構築され、北西壁の一部・北東壁・南東壁の一部が削失している。確認された遺構は長軸 3.7 m、短軸［3.5］mで長方形を呈すると考えられ、主軸方向はＮ－ 40°－Ｗである。壁は確認面から最大高 10 cmで、ほぼ直立している。

重複関係　第８号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

床　平坦で、中央部が硬化している。

壁溝　確認された範囲で全周している。幅は 30cm、深さは 12cm を測りＵ字型を呈する。

竈　北西壁の中央寄りに砂質粘土で構築されている。焚口から煙道部までは 80cm、焚口部の間口は 55cm である。火床部は床面から６cm 程度掘りくぼめて火床面としている。

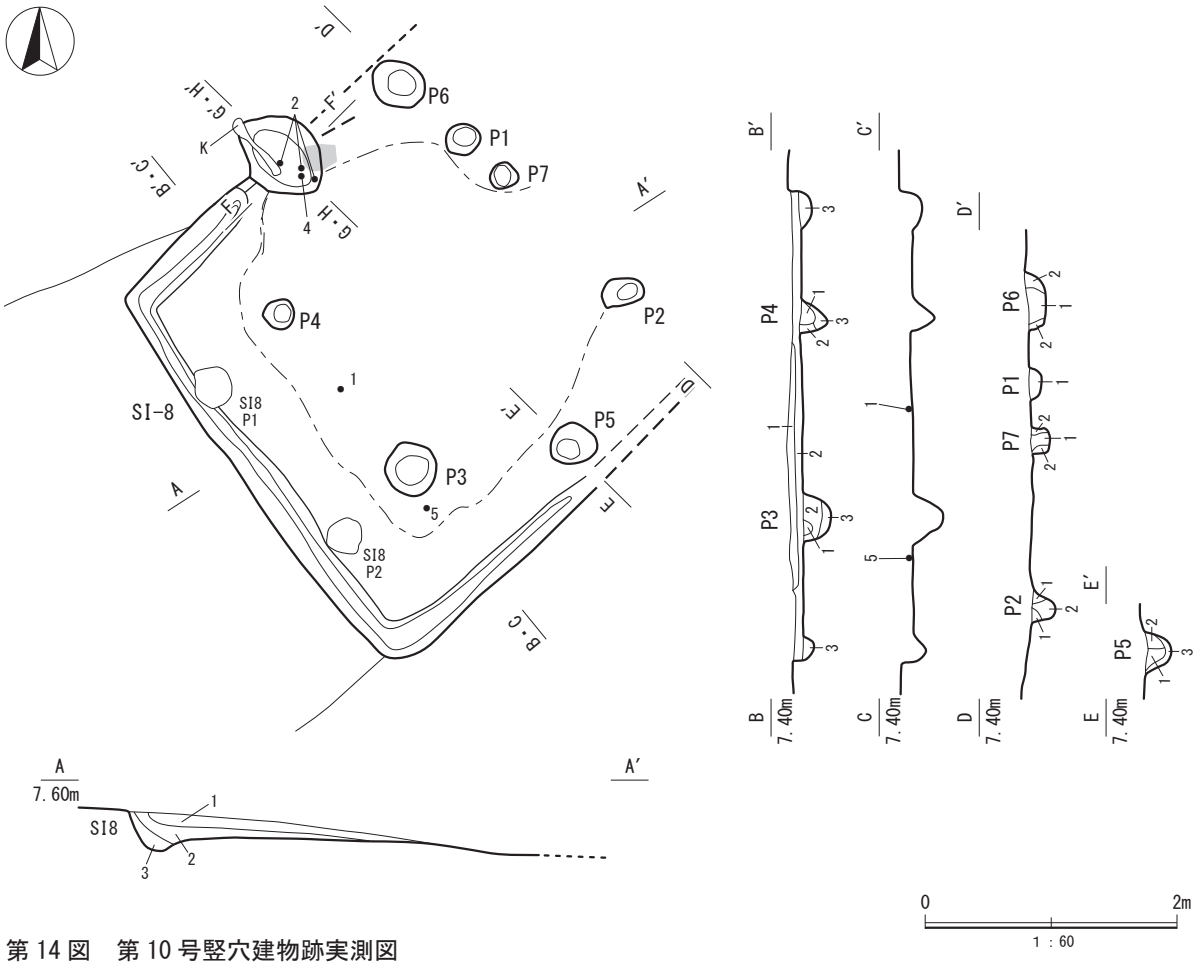
ピット　７ヶ所確認され、Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。規模はＰ１：長径 30cm、短径 24cm の

楕円形で深さ 12cm である。Ｐ２：長径 34cm、短径 20cm の楕円形で深さ 18cm である。Ｐ３：長径・短径ともに 42cm の円形で深さ 23cm である。Ｐ４：長径 25cm、短径 24cm の円形で深さ 23cm である。Ｐ５は出入口ピットと考えられ、規模は長径 38cm、短径 31cm の楕円形で深さ 22cm である。Ｐ６：長径 44cm，短径 35cm の楕円形で深さ 15cm である。Ｐ７：長径・短径ともに 22cm の円形で，深さ 15cm である。

覆土　３層に分層できる。１・２層が炭化粒子･焼土粒子を含んでいることから､人為堆積と思われる。

遺物出土状況　土師器 17 点（甕 16・小形甕 1)、須恵器２点（横瓶・甕)、土製品１点（球状土錘）が出土している。１・５は覆土下層から、２・４は竈内から、３は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土した遺物から７世紀後葉と考えられる。



第 14 図　第 10 号竪穴建物跡実測図

第 10 号竪穴建物跡土層説明

1　7.5YR　3/4　暗褐色　　ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化粒子微量　粘性あり　締まりややあり
2　7.5YR　4/4　褐色　　ローム粒子中量　焼土ブロック少量　炭化粒子微量　粘性あり　締まりややあり
3　7.5YR　4/3　褐色　　ロームブロック少量　ローム粒子中量　粘性あり　締まりややあり

Ｐ１・Ｐ２・Ｐ６・Ｐ７

1　7.5YR　4/4　褐色　　ロームブロック多量　炭化粒子微量　粘性ややあり　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒褐色　　ローム粒子多量　炭化粒子微量　粘性ややあり　締まりあり

Ｐ３・Ｐ５

1　7.5YR　4/2　灰褐色　　ローム粒子少量　炭化粒子中量　山砂中量　粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗褐色　　ローム粒子少量　炭化粒子多量　粘性あり　締まりなし
3　2.5YR　6/2　灰黄色　　炭化粒子少量　山砂多量　粘性なし　締まりなし

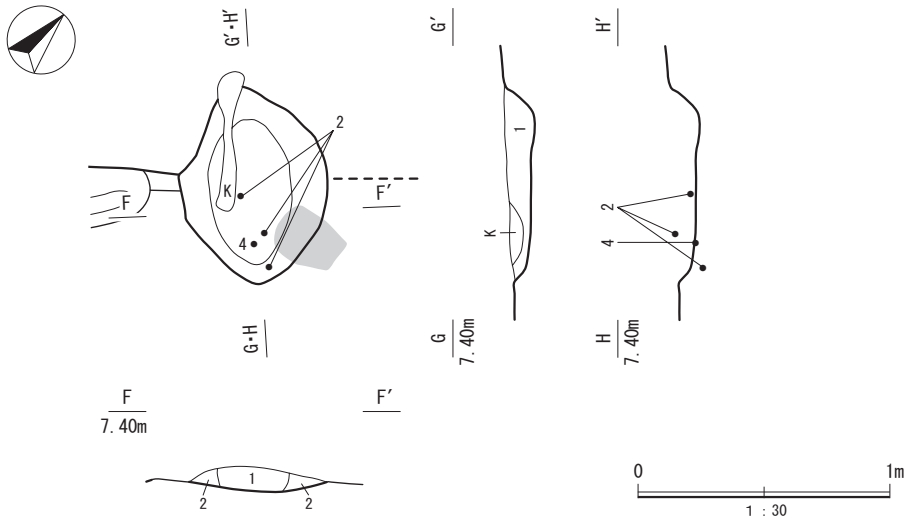
Ｐ４

1　7.5YR　4/3　褐色　　ローム粒子少量　炭化粒子少量　山砂少量　粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗褐色　　ローム粒子中量　炭化粒子中量　粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　4/4　褐色　　ローム粒子少量　粘性あり　締まりややあり

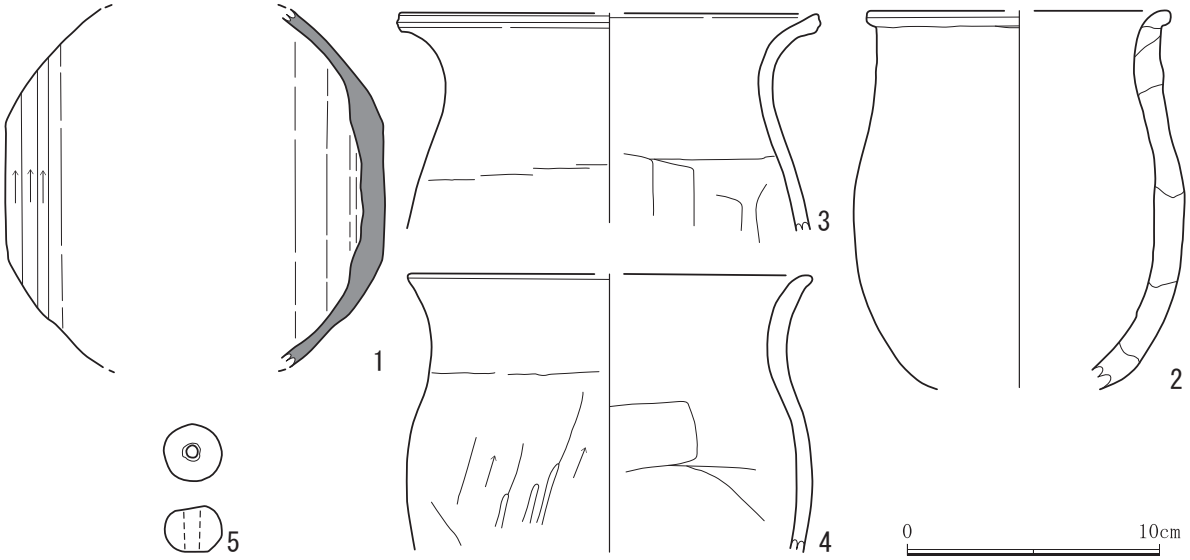
竈土層説明

1　5YR　3/2　暗赤褐色　　焼土粒子少量　炭化粒子少量　山砂中量　粘性なし　締まりなし

2　2.5YR　2/3　極暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化物少量　炭化粒子中量　山砂粘土粒子少量　粘性あり　締まりなし



第 15 図　第 10 号竪穴建物跡竈実測図



第 16 図　第 10 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第５表　第 10 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	須恵器	横瓶	—	—	［14.1］	黄灰色	長石・石英・ チャート	普通	体部内外面ロクロナデ 体部外面回転ヘラ削り	残存率 20%　図版８ 覆土下層
2	土師器	甕	(11.9)	—	［11.4］	橙色	長石・石英	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内面縦位のナデ 器面磨滅	残存率５%　図版８ 竈内 輪積痕
3	土師器	甕	(16.7)	—	［8.5］	にぶい 黄橙色	長石・石英・雲母	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内外面ヘラナデ	残存率５%　図版８ 覆土中
4	土師器	甕	(15.7)	—	［10.9］	褐色	長石・石英・ 雲母・チャート	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り・ヘラミガキ	残存率 30%　図版８ 竈内
番号	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	胎土	手法の特徴		備考
			径	長さ	孔径					
5	土製品	球状土錘	2.2	1.8	0.5	9	長石・石英	—	一方向からの穿孔	残存率 100%　図版 10 覆土下層

第２節　奈良時代の遺構と遺物

１　竪穴建物跡

斜面中腹にかけて竪穴建物跡が４棟確認され、土師器（坏･鉢･甕･手捏ね）、須恵器（坏･高台付坏･蓋・高盤・短頸壺・甕）、金属製品（鉄鏃）が出土している。

第９号竪穴建物跡

位置　Ａ 16・Ｚ 16・Ｚ 17

規模と形状　長軸 3.1 ｍ、短軸 2.9 ｍの方形を呈し、主軸方向はＮ－ 50°－Ｗである。壁は確認面から最大 25 ㎝で、外傾している。

重複関係　第２号土坑に掘り込まれている。

床　平坦な貼床で、ロームブロックを充填して構築されており、中央部が硬化している。

壁溝　一部確認出来た。幅は 20 ｍ、深さは 10㎝を測りＵ字型を呈する。

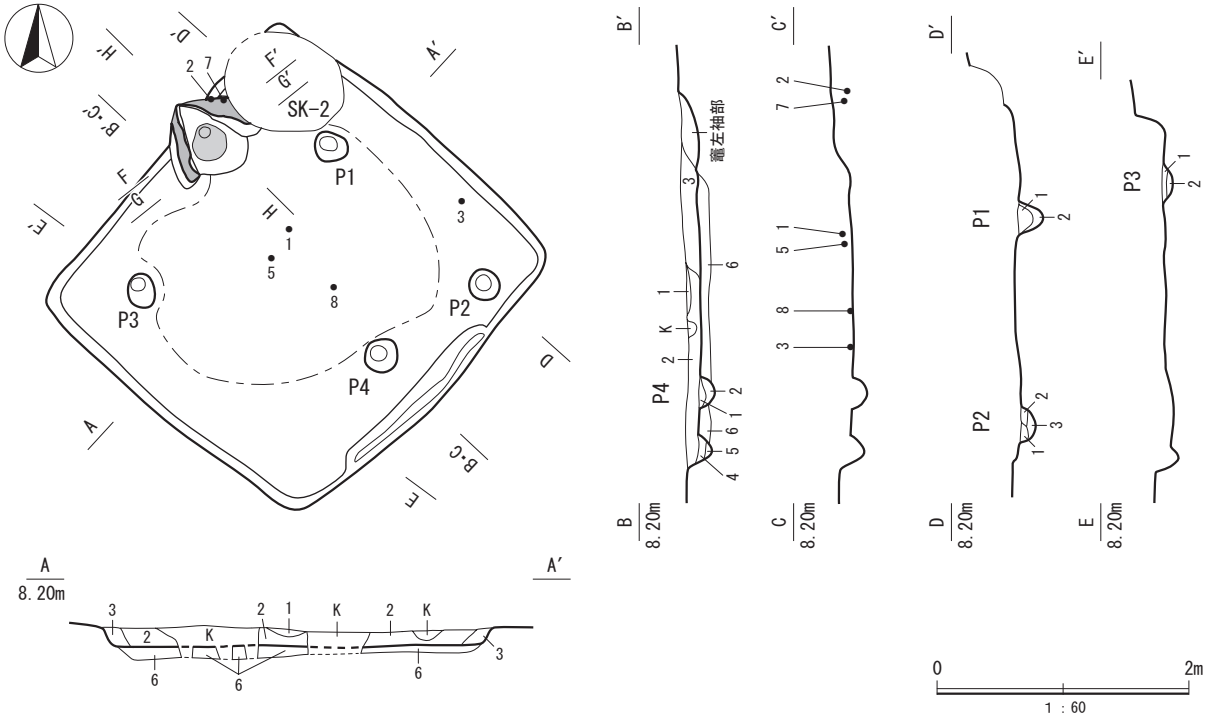
竈　北西壁の中央寄りに砂質粘土で構築されている。焚口から煙道部までは 70㎝、焚口部の間口は 48㎝、袖部の基部幅は［72］㎝である。火床部は床面から８㎝程度掘りくぼめて火床面としている。

ピット　４ヶ所確認され、Ｐ１～Ｐ３は主柱穴と考えられる。規模はＰ１：長径 27㎝、短径 23㎝の円形で深さ 20㎝である。Ｐ２：長径 25㎝、短径 23㎝の円形で深さ 10㎝である。Ｐ３：長径 27㎝、短径 20㎝の楕円形で深さ８㎝である。Ｐ４は出入口ピットと考えられ，長径 28㎝、短径 22㎝の楕円形で深さ 10㎝である。

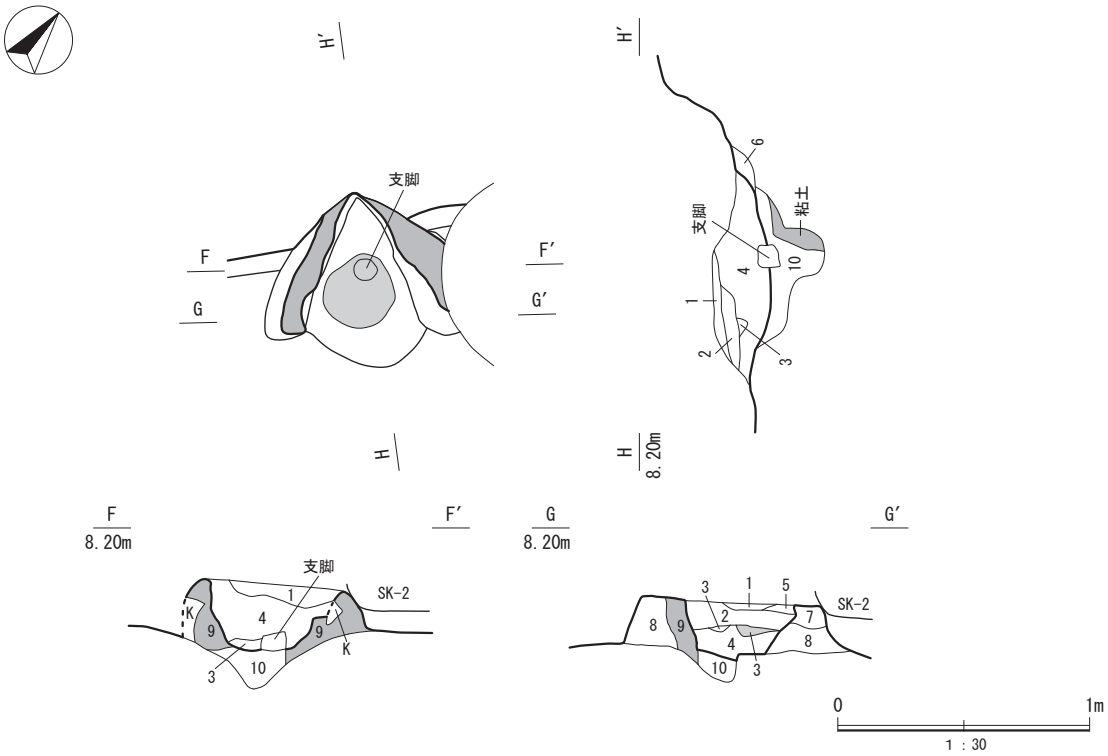
覆土　６層に分層できる。第１～５層は自然堆積で、第６層は床の構築土である。

遺物出土状況　土師器 22 点（坏４･甕 13･手捏ね５）､須恵器５点（甕）､磁器１点（碗）､土製品１点（支脚）、石器１点（磨製石斧）が出土している。１・５・８は覆土下層から、２・７は竈袖部上面から、３は床面直上から、４・６は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土した遺物から８世紀前葉と考えられる。



第 17 図　第９号竪穴建物跡実測図



第 18 図　第９号竪穴建物跡竈実測図

第９号竪穴建物跡土層説明

1　7.5YR　3/3　暗褐色　　ローム粒子少量　炭化粒子少量　粘性ややあり　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗褐色　　ローム粒子少量　焼土粒子微量　炭化粒子微量　粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　6/1　褐灰色　　白色粘土ブロック多量　焼土粒子微量　粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/4　暗褐色　　ローム粒子少量　炭化粒子中量　山砂少量　粘性なし　締まりなし
5　7.5YR　4/2　灰褐色　　ローム粒子中量　炭化粒子少量　山砂中量　粘性なし　締まりなし
6　7.5YR　3/4　暗褐色　　ローム粒子少量　炭化粒子少量　粘性なし　締まりなし

Ｐ１

1　7.5YR　3/3　暗褐色　　ローム粒子少量　炭化粒子少量　粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒褐色　　ローム粒子少量　焼土粒子中量　山砂粘土粒子少量　粘性なし　締まりなし

Ｐ２

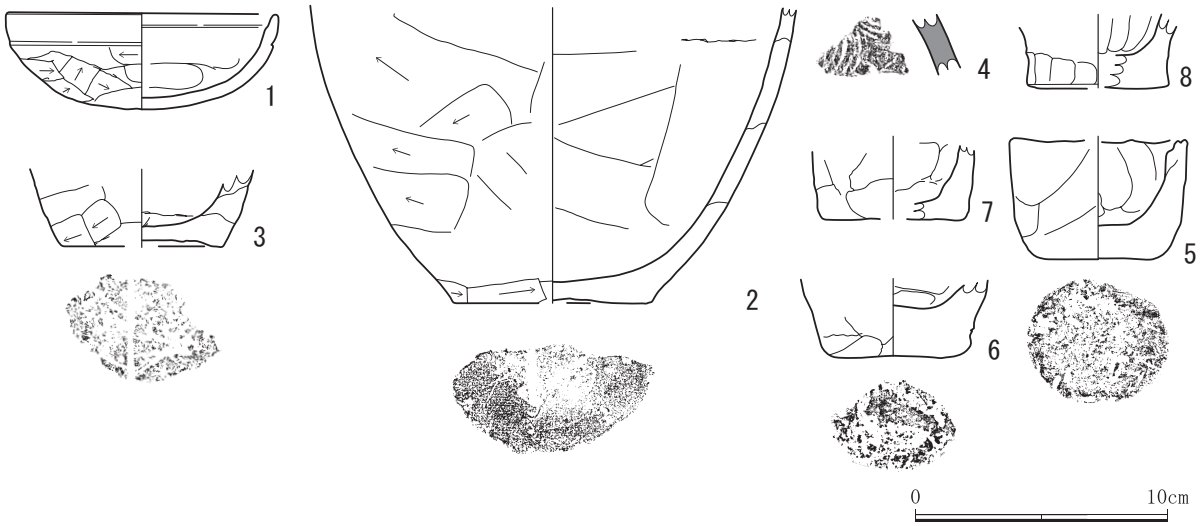
1　7.5YR　3/3　暗褐色　　ローム粒子少量　炭化粒子少量　山砂粘土粒子少量　粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　4/3　褐色　　ロームブロック少量　ローム粒子中量　炭化粒子少量　粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　4/4　褐色　　ロームブロック中量　ローム粒子中量　炭化粒子少量　粘性あり　締まりあり

Ｐ３

1　7.5YR　3/3　暗褐色　　ローム粒子少量　炭化粒子中量　山砂粘土粒少量　粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗褐色　　ローム粒子中量　炭化粒子少量　山砂粘土粒少量　粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐色　　ロームブロック少量　ローム粒子中量　炭化粒子少量　粘性あり　締まりなし

竈土層説明

1　5YR　5/2　灰褐色　　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子中量　粘性あり　締まりなし
2　5YR　5/3　にぶい赤褐色　焼土粒子微量　炭化粒子少量　粘土粒子多量　粘性あり　締まりなし
3　5YR　3/3　暗赤褐色　　焼土粒子中量　炭化粒子中量　粘土粒子少量　粘性なし　締まりなし
4　5YR　3/2　暗赤褐色　　焼土粒子少量　炭化粒子多量　粘土粒子少量　粘性なし　締まりなし
5　5YR　6/2　灰褐色　　焼土粒子微量　炭化粒子微量　黄白色粘土粒子多量　粘性あり　締まりあり
6　5YR　3/2　暗赤褐色　　焼土粒子少量　炭化粒子中量　黄白色粘土粒少量　粘土粒子少量　粘性なし　締まりなし
7　7.5YR　4/3　褐色　　ローム粒子中量　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘性なし　締まりなし
8　5YR　6/1　褐灰色　　焼土粒子少量　炭化粒子少量 黄白色粘土粒子多量　粘性なし　締まりなし
9　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子少量　黄白色粘土粒子多量　灰中量　粘性なし　締まりなし
10　7.5YR　4/3　褐色　　ローム粒子多量　炭化粒子少量　粘性なし　締まりなし



第 19 図　第９号竪穴建物跡出土遺物実測図

第６表　第９号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	土師器	坏	10.7	—	3.8	にぶい黄橙色	長石・石英・雲母・スコリア	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ　丸底	残存率 95%　図版７ 覆土下層
2	土師器	甕	—	(7.8)	[11.8]	黒褐色	長石・石英・雲母・スコリア	普通	体部内面ヘラナデ 外面斜位のヘラ削り	残存率 10%　図版８ 竈右袖部上面 輪積痕・木葉痕
3	土師器	甕	—	(6.4)	[3.0]	褐灰色	長石・石英・雲母・チャート・スコリア	普通	体部内面ナデ 外面斜位ヘラ削り	残存率 5%　図版８ 床面直上 輪積痕・木葉痕
4	須恵器	甕	—	—	[2.4]	灰黄褐色	長石・石英・雲母	普通	体部内面ナデ 外面同心円文タタキ	残存率 5%　図版８ 覆土中
5	土師器	手捏ね	[6.8]	(4.4)	[4.9]	明赤褐色	長石・石英	普通	口縁～体部内外面指ナデ	残存率 20%　図版８ 覆土下層
6	土師器	手捏ね	—	5.0	[3.1]	明赤褐色	長石・石英・雲母	普通	体部内面横位の指ナデ 外面指ナデ	残存率 20%　図版８ 覆土中
7	土師器	手捏ね	—	(5.4)	[3.3]	明赤褐色	長石・石英・雲母	普通	体部内外面指ナデ	残存率 15%　図版８ 竈右袖部上面
8	土師器	手捏ね	—	(5.6)	[2.9]	黒褐色	長石・石英・スコリア	普通	体部内面縦位外面横位の指ナデ	残存率 10%　図版８ 覆土下層

第５号竪穴建物跡

位置　Ａ 16・Ｚ 15・Ｚ 16

規模と形状　長軸 3.9m、短軸 3.7m の方形を呈し、主軸方向はＮ－ 40°－Ｅである。壁は確認面から最大 28 cmで、ほぼ直立している。

重複関係　第４号竪穴建物を掘り込んで、第４号溝跡に掘り込まれている。

床　平坦な床で、中央部にローム粒子を充填して貼床にしている。ほぼ全面硬化している。

壁溝　全周している。幅は 25cm、深さは 10cm で、Ｕ字型を呈する。

竈　北東壁の中央寄りに砂質粘土で構築されている。焚口から煙道部までは 130cm、焚口部の間口は 80cm、袖部の基部の幅は 124cm である。火床部は床面から 10cm 程度掘りくぼめられている。

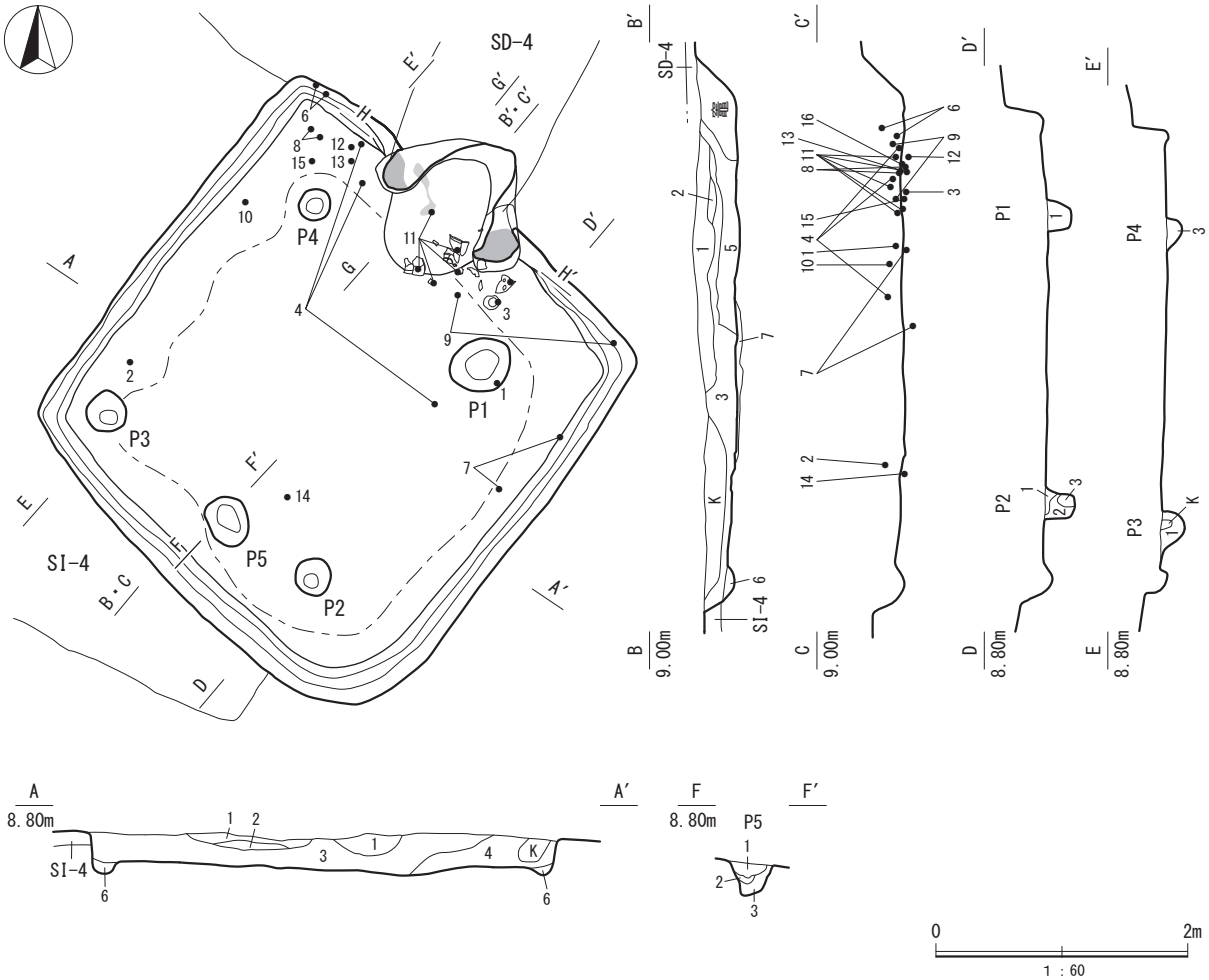
ピット　５ヶ所確認され、Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。規模はＰ１：長径 50cm、短径 43cm の楕円形で，深さ 18cm である。Ｐ２：長径 30cm、短径 27cm の円形で深さ 24cm である。Ｐ３：長径 32cm、短径 30cm の楕円形で深さ 18cm である。Ｐ４：長径・短径ともに 26cm の円形で、深さ 13cm で

ある。Ｐ５は出入口ピットと考えられ、規模は長経 42cm、短径 34cm の楕円形で，深さ 27cm である。

覆土　７層に分層される。１～６層はロームブロックやローム粒子を多く含み、人為堆積と考えられる。炭化粒子や焼土粒子が含まれ、埋土に混入したものと考えられる。７層は貼床の構築土である。

遺物出土状況　土師器 179 点（坏５・甕 168・小形甕６）、須恵器 78 点（坏 43・高台付坏１・蓋 21・高盤１・短頸壷１・甕 11)、磁器１点（碗）が出土している。１・２の須恵器坏は覆土中層から出土しており、共に底部外面に「八」の墨書がある。３・７・12 ～ 15 は床面直上から、４・10 は覆土中層から、６は覆土中層と下層から、８は覆土下層と床面直上から、９は覆土中層から、11 は竈内と竈手前覆土下層から、16 は覆土下層から出土している。

所見　時期は出土した遺物から８世紀後葉と考えられる。



第 20 図　第５号竪穴建物跡実測図

第５号竪穴建物跡土層説明

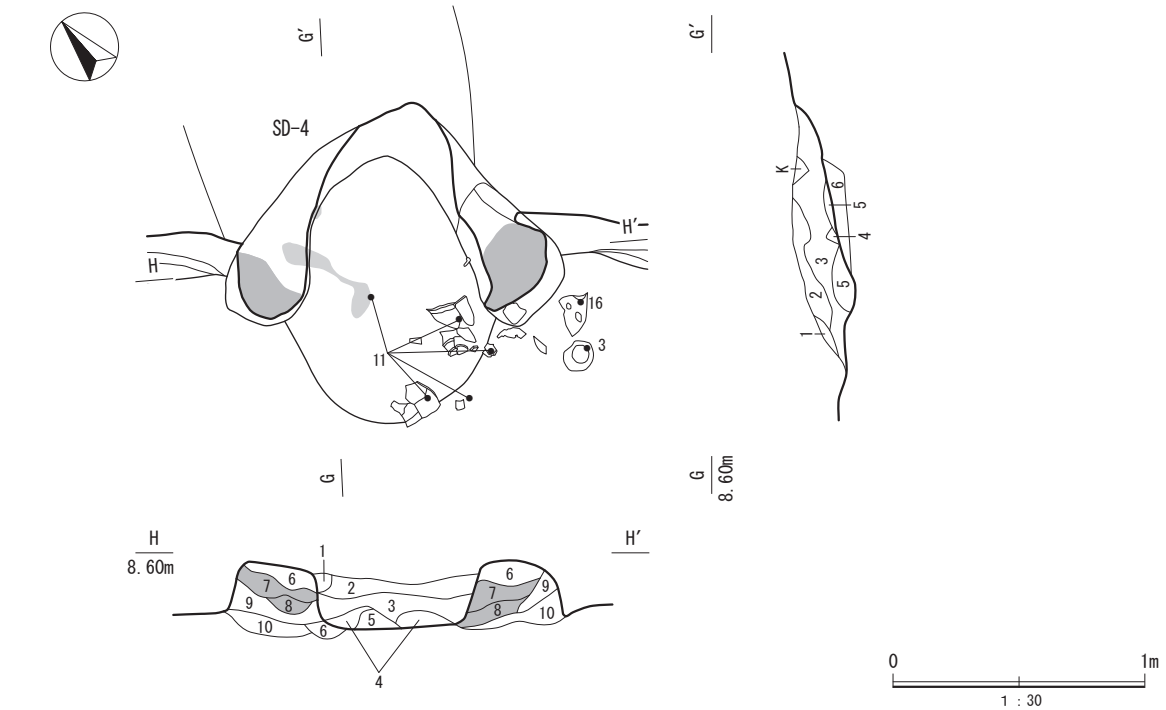
1　7.5YR　4/3　褐色　　ローム粒子多量　焼土粒子微量　炭化物微量　粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/3　褐色　　ローム粒子多量　炭化粒子微量　粘土粒子少量　粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐色　　ローム粒子中量　焼土粒子微量　炭化粒子中量　粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/4　褐色　　ローム粒子多量　焼土粒子微量　炭化粒子微量　粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　4/4　褐色　　ロームブロック少量　ローム粒子多量　焼土粒子中量　炭化粒子中量　粘性あり　締まりあり
6　7.5YR　4/4　褐色　　ロームブロック少量　ローム粒子多量　粘性あり　締まりややあり
7　7.5YR　4/3　褐色　　ローム粒子多量　炭化粒子微量　粘性あり　締まりあり

Ｐ１～Ｐ４

1　7.5YR　4/3　褐色　　ロームブロック中量　ローム粒子多量　焼土ブロック少量　炭化粒子微量　粘性あり　締まりややあり
2　7.5YR　4/3　褐色　　ロームブロック中量　ローム粒子多量　焼土ブロック少量　炭化粒子微量　粘性あり　締まりややあり
3　7.5YR　4/6　褐色　　ローム粒子多量　炭化粒子微量　粘性あり　締まりややあり

Ｐ５

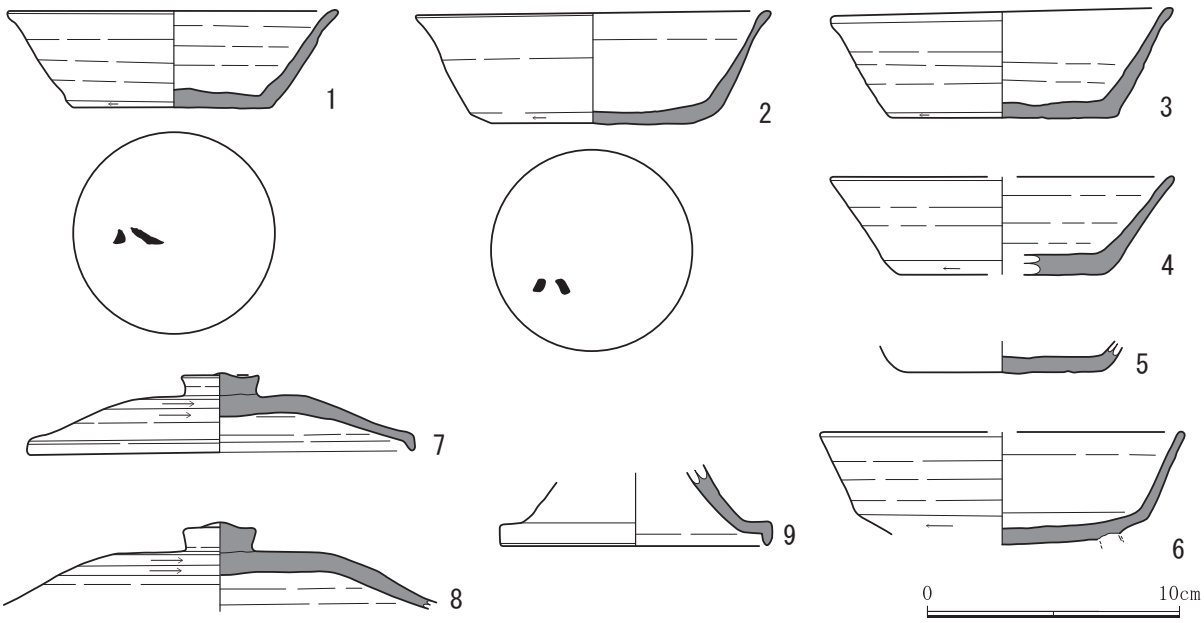
1　7.5YR　3/4　暗褐色　ローム粒子中量　炭化粒子中量　粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　4/4　褐色　　ロームブロック多量　ローム粒子中量　粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗褐色　ロームブロック少量　ローム粒子中量　炭化粒子中量　粘性あり　締まりなし



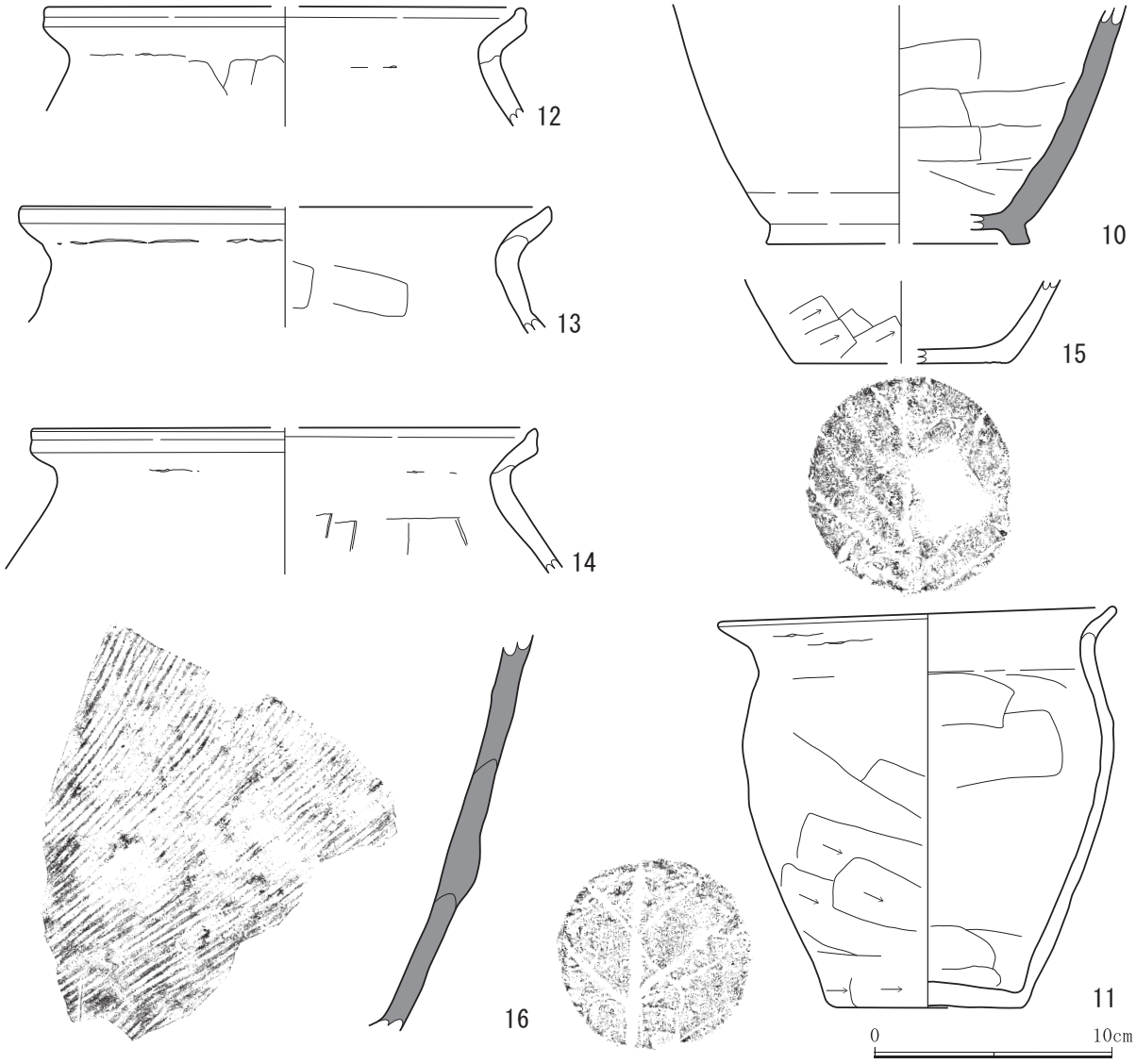
第 21 図　第５号竪穴建物跡竈実測図

竈土層説明

1	7.5YR	4/4	褐色	ローム粒子少量　粘性あり　締まりややあり
2	7.5YR	4/3	褐色	ローム粒子少量　焼土粒子中量　炭化物微量　粘性あり　締まりややあり
3	7.5YR	4/6	褐色	ローム粒子多量　焼土粒子微量　炭化物少量　粘性あり　締まりややあり
4	7.5YR	5/6	明褐色	ローム粒子多量　炭化物微量　粘性あり　締まりややあり
5	7.5YR	4/3	褐色	ローム粒子少量　炭化物微量　粘性あり　締まりややあり
6	5YR	3/3	暗赤褐色	ローム粒子中量　焼土粒子微量　炭化粒子中量　山砂少量　粘性あり　締まりなし
7	5YR	5/2	灰褐色	炭化粒子微量　粘土粒子多量　粘性あり　締まりなし
8	7.5YR	4/3	褐色	ローム粒子多量　炭化粒子少量　粘土粒子多量　粘性あり　締まりあり
9	7.5YR	3/4	暗褐色	ローム粒子少量　炭化物微量　粘性あり　締まりあり
10	7.5YR	4/6	褐色	ロームブロック多量　ローム粒子中量　粘性あり　締まりあり



第 22 図　第５号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 23 図　第５号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第７表　第５号竪穴建物跡出土遺物観察表 (1)

番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	須恵器	坏	12.8	7.8	3.8	黄褐色	長石・石英・雲母	普通	ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	残存率 80%　図版５ 覆土中層 底部外面墨書「八」 新治窯産
2	須恵器	坏	14.0	8.0	4.4	灰色	長石・石英・ 針状鉱物・ 鉄分吹き出し	普通	ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	残存率 90%　図版５ 覆土中層 底部外面墨書「八」 木葉下窯産
3	須恵器	坏	13.3	8.8	4.3	灰黄色	長石・石英・雲母	不良	ロクロナデ 体部下端に回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	残存率 70%　図版５ 床面直上 新治窯産
4	須恵器	坏	(13.4)	(8.2)	3.8	灰色	長石・石英・雲母	普通	ロクロナデ 体部下端に回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	残存率 20%　図版５ 覆土中層 新治窯産
5	須恵器	坏	—	8.0	［1.2］	黒褐色	長石・石英・雲母	普通	ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	残存率 5%　図版５ 覆土中 新治窯産

第８表　第５号竪穴建物跡出土遺物観察表 (2)

番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			口径	底径	器高					
6	須恵器	高台付坏	(14.2)	—	[4.5]	灰白色	長石・石英・雲母	やや不良	体部外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り	残存率 60%　図版５ 覆土中層・下層
7	須恵器	蓋	15.3	鈕 3.0	3.2	黄灰色	長石・石英・ 針状鉱物・細礫	普通	天井部内外面ロクロナデ 天井部外面回転ヘラ削り後鈕貼付け	残存率 5%　図版５ 床面直上
8	須恵器	蓋	—	鈕 2.8	[3.0]	黄灰色	長石・石英	普通	天井部内外面ロクロナデ 天井部外面回転ヘラ削り後鈕貼付け	残存率 25%　図版５ 覆土下層・床面直上
9	須恵器	高盤	—	10.5	[3.2]	灰色	長石・石英・ 針状鉱物	普通	脚部内外面ロクロナデ	残存率 10%　図版５ 覆土中層
10	須恵器	短頸壺	—	(11.0)	[10.0]	灰色	長石・石英	普通	体部外面ロクロナデ 体部内面縦位のヘラナデ 高台部削り出し	残存率 10%　図版６ 覆土中層
11	土師器	小形甕	16.2	8.1	16.9	にぶい 褐色	長石・石英・雲母	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内面横位のナデ 外面斜位のヘラ削り	残存率 70%　図版６ 竈内・覆土下層 木葉痕・輪積痕
12	土師器	甕	(20.0)	—	[5.0]	橙色	長石・石英・雲母・ スコリア	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内外面ヘラナデ	残存率 5%　図版６ 床面直上 輪積痕
13	土師器	甕	(22.0)	—	[5.3]	橙色	長石・石英・雲母	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内面横位のヘラナデ 外面ナデ	残存率 5%　図版６ 床面直上 輪積痕
14	土師器	甕	(21.0)	—	[6.1]	にぶい 褐色	長石・石英・雲母・ スコリア	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内面横位のヘラナデ 外面ナデ	残存率 5%　図版６ 床面直上 輪積痕
15	土師器	甕	—	9.0	[3.5]	褐色	長石・石英・雲母	普通	体部外面斜位のヘラ削り	残存率 5%　図版６ 床面直上 底部外面木葉痕
16	須恵器	甕	—	—	[17.5]	黄灰色	長石・石英	普通	体部内面横位のナデ 外面斜位の平行タタキ	残存率 5%　図版６ 覆土下層

第６号竪穴建物跡

位置　Ｙ 16・Ｙ 17

規模と形状　長軸 4.5 ｍ、短軸 4.4 ｍの方形を呈し、主軸方向はＮ－ 40°－Ｗである。壁は確認面から最大 45 ㎝を測り、外傾している。

床　平坦な貼床で、ロームブロックを充填して構築されており、竈周辺を中心に硬化している。

竈　北西壁の中央寄りに砂質粘土で構築されている。焚口から煙道部までは 91㎝、焚口部の間口は 65㎝、袖部の基部の幅は 118㎝ である。火床部は床面から６㎝ 程度掘りくぼめられている。

ピット　５ヶ所確認され、Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。規模はＰ１：長径・短径ともに 46㎝ の円形で深さ 25㎝ である。Ｐ２：長径 48㎝、短径 43㎝ の楕円形で深さ 18㎝ である。Ｐ３：長径 50㎝、短径 45㎝ の円形で深さ 20㎝ である。Ｐ４:長径 53㎝、短径 48㎝ の楕円形で深さ 28㎝ である。Ｐ５は出入口ピットと考えられ、規模は長径 45㎝、短軸 42㎝ の円形で深さ 18㎝ である。

覆土　８層に分層できる。第１～５層は自然堆積で，第６～８層は床の構築土である。

遺物出土状況　土師器 149 点（坏 12・甕 135・手捏ね２）、須恵器３点（盤１・甕２）、土製品１点（球状土錘）、金属製品１点（鉄鏃）が出土した。２・４・６・９は覆土中層から、３は覆土下層から、１・５・７・８は覆土中から出土している。

所見　出土した遺物から８世紀後葉と考えられる。

第６号竪穴建物跡土層説明

1　7.5YR　4/4　褐色　　ローム粒子少量　粘土粒子少量　粘性ややあり　締まりあり
2　7.5YR　3/4　褐色　　炭化粒子中量　粘性ややあり　締まりややあり
3　7.5YR　3/3　暗褐色　ローム粒子中量　炭化粒子少量　粘性ややあり　締まりあり
4　7.5YR　3/4　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　粘性あり　締まりややあり
5　7.5YR　4/6　褐色　　ロームブロック少量　ローム粒子多量　炭化粒子少量　粘性ややあり　締まりあり
6　7.5YR　4/4　褐色　　ローム粒子少量　粘性あり　締まりややあり
7　7.5YR　3/4　暗褐色　ローム粒子中量　炭化粒子中量　山砂中量　粘性なし　締まりあり
8　5YR　3/4　暗褐色　ローム粒子中量　焼土粒子中量　炭化粒子中量　粘性なし　締まりあり

Ｐ１～Ｐ４

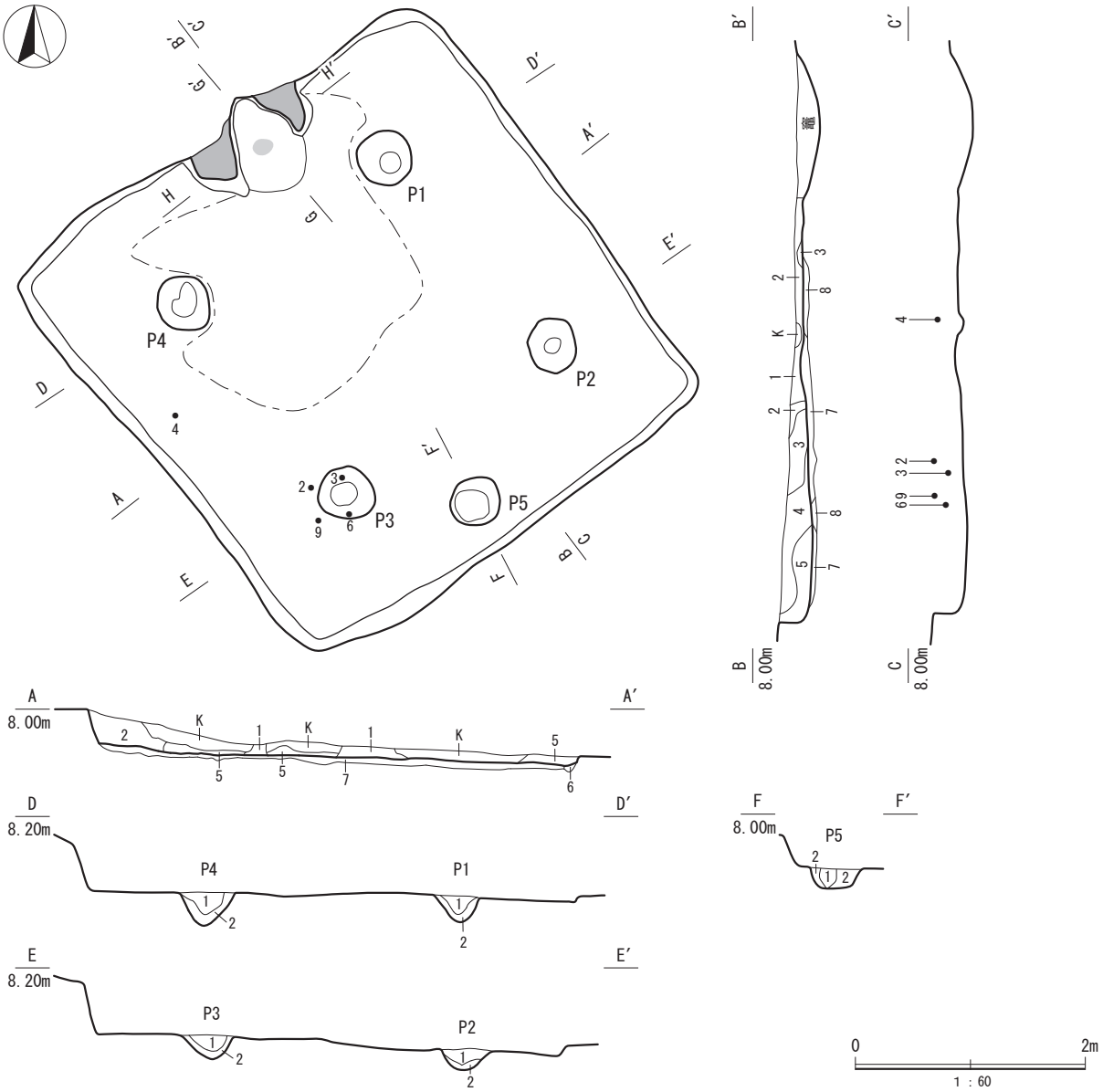
1　10YR　3/4　暗褐色　　ローム粒子少量　炭化粒子少量　粘性ややあり　締まりややあり
2　10YR　4/6　褐色　　ローム粒子中量　炭化粒子少量　粘性ややあり　締まりややあり

Ｐ５

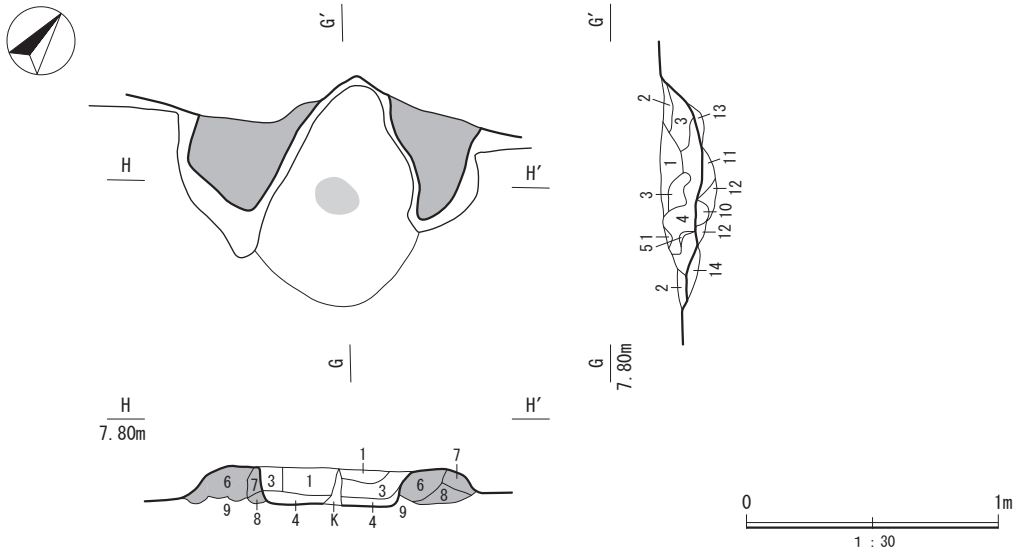
1　7.5YR　3/3　暗褐色　　ローム粒子少量　粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/4　褐色　　ローム粒子多量　粘性あり　締まりややあり

竈土層説明

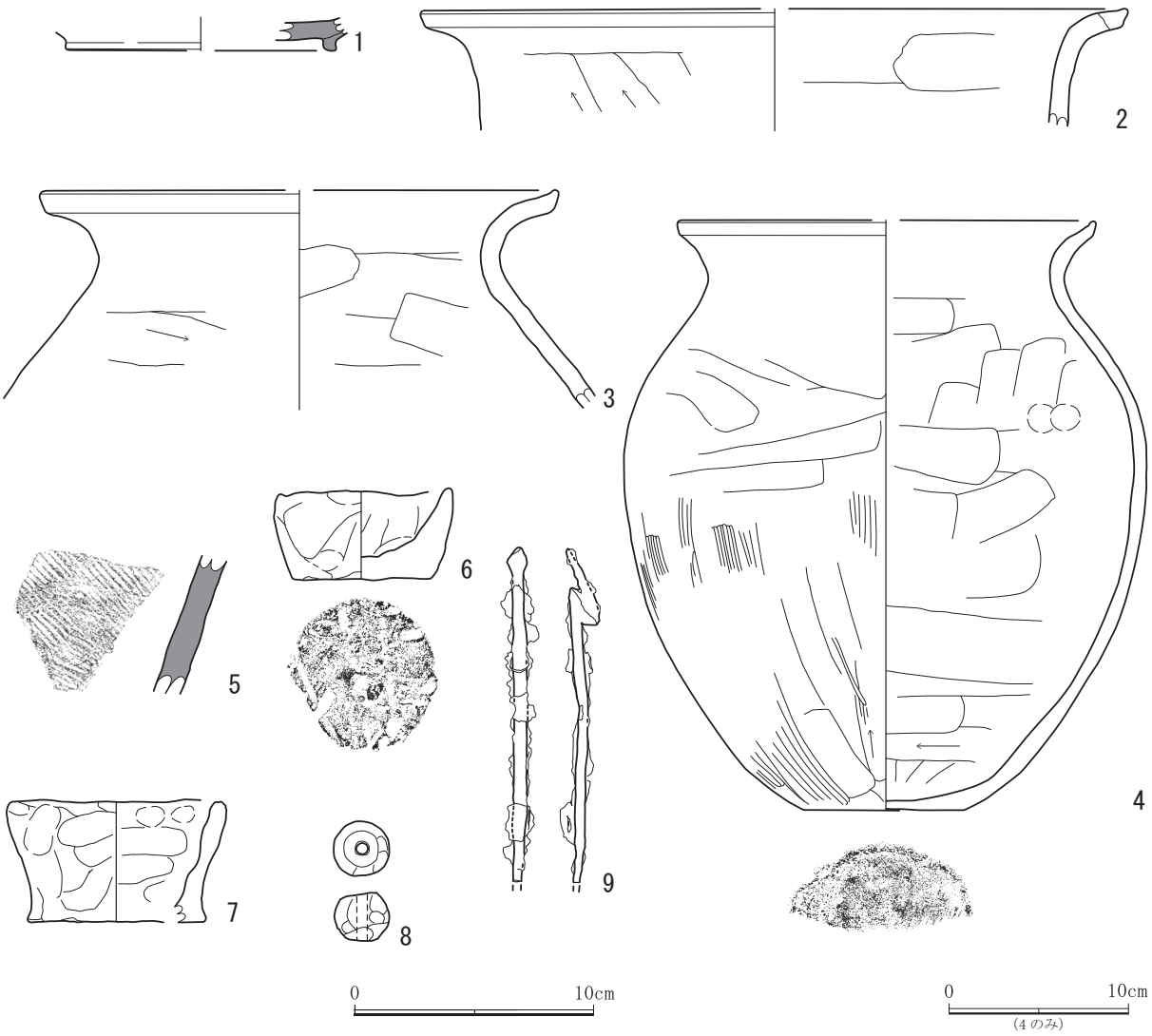
1　5YR　3/6　暗赤褐色　　ロームブロック少量　ローム粒子少量　炭化粒子少量　山砂少量　粘性ややあり　締まりあり
2　5YR　4/6　赤褐色　　ローム粒子微量　焼土粒子微量　炭化粒子微量　粘性ややあり　締まりあり
3　5YR　3/6　暗赤褐色　　ローム粒子微量　炭化粒子少量　山砂少量　粘性ややあり　締まりあり
4　5YR　3/3　暗赤褐色　　ロームブロック微量　ローム粒子中量　炭化粒子微量　山砂中量　粘性ややあり　締まりあり
5　5YR　3/6　暗赤褐色　　ローム粒子中量　炭化粒子微量　山砂中量　粘性ややあり　締まりあり
6　5YR　7/2　暗褐灰色　　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子多量　粘性あり　締まりあり
7　5YR　3/6　暗赤褐色　　焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘土粒子多量　粘性なし　締まりなし
8　7.5YR　4/6　褐色　　ローム粒子中量　炭化粒子少量　粘土粒子中量　粘性なし　締まりあり
9　7.5YR　4/4　褐色　　ローム粒子多量　炭化粒子微量　山砂少量　粘性なし　締まりあり
10　2.5YR　5/6　明赤褐色　　焼土粒子多量　粘性なし　締まりあり
11　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子微量　山砂中量　粘性なし　締まりなし
12　5YR　4/2　灰褐色　　焼土粒子微量　炭化粒子少量　山砂中量　粘性なし　締まりなし
13　5YR　4/2　灰褐　　焼土粒子微量　炭化粒子微量　山砂中量　粘性なし　締まりなし
14　5YR　3/3　明赤褐　　焼土粒子少量　山砂中量　粘性なし　締まりなし



第 24 図　第６号竪穴建物跡実測図



第 25 図　第６号竪穴建物跡竈実測図



第 26 図　第６号竪穴建物跡出土遺物実測図

第９表　第６号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	須恵器	盤	—	—	[1.3]	黄灰色	長石・石英・細礫	普通	底部内外面横ナデ 高台部貼り付け	残存率 5%　図版６ 覆土中
2	土師器	鉢	(29.2)	—	[5.0]	黄褐色	長石・石英・雲母・角閃石	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り・内面ナデ	残存率 5%　図版６ 覆土中層 輪積痕あり
3	土師器	甕	(21.2)	—	[9.1]	にぶい黄橙色	長石・石英・雲母・スコリア	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り・内面ナデ	残存率 5%　図版６ 覆土下層
4	土師器	甕	(23.0)	(9.0)	32.5	にぶい黄橙色	長石・石英・雲母	普通	口縁部内外面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ・ヘラミガキ　体部内面ヘラナデ一部ヘラ削り	残存率 30%　図版６ 覆土中層 体部内面指頭痕
5	須恵器	甕	—	—	[5.9]	灰色	長石・石英	普通	体部外面斜位の平行タタキ	残存率 5%　図版６ 覆土中
6	土師器	手捏ね	6.9	5.8	[3.8]	にぶい褐色	長石・石英・雲母・スコリア	普通	体部内外面指頭痕指ナデ	残存率 95%　図版７ 覆土中層
7	土師器	手捏ね	(8.6)	(7.2)	5.1	にぶい黄褐色	長石・石英・雲母・スコリア	普通	体部内外面指頭痕指ナデ	残存率 20%　図版７ 覆土中
番号	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	胎土	手法の特徴		備考
			径	長さ	孔径					
8	土製品	球状土錘	2.3	[2.1]	0.4	10	長石・石英・黒色粒子	一方向からの穿孔		残存率 85%　図版９ 覆土中
番号	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	材質	手法の特徴		備考
			長さ	幅	厚さ					
9	金属製品	鉄鏃	[13.9]	[1.6]	[1.6]	14	鉄	一部欠損		残存率 85%　図版 10 覆土中層

第７号竪穴建物跡

位置　Ｚ 16

規模と形状　斜面部のため北面壁の一部から南壁の一部にかけて消失している。確認できた規模は長軸（4.7）ｍ、短軸（4.4）ｍで方形を呈すると思われる。主軸方向はＮ－ 65°－Ｗである。壁は確認面から最大 16 ㎝で、外傾している。

床　平坦な貼床で、ロームブロックを充填して構築されており、中央部が硬化している。中央部東寄りに長軸 80 ㎝、短軸 62 ㎝の施設内土坑（P6）が確認され、1・２層で炭化粒子・焼土粒子を中量含み、２層で山砂が確認されたことから、竈で使用した廃材の廃棄施設と考えられる。

竈　北西壁の中央寄りに砂質粘土で構築されている。焚口から煙道部までは 100㎝、焚口部の間口は 65㎝、袖部の基部の最大幅は 105㎝である。火床部は床面から３㎝程度掘りくぼめられている。

ピット　５ヶ所確認され、Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。規模はＰ１：長径 44㎝、短径 42㎝の円形で深さ 22㎝である。Ｐ２：長径 36㎝、短径 35㎝の円形で深さ 16㎝である。Ｐ３：長径 35㎝、短径 30㎝の楕円形で深さ 30㎝である。Ｐ４：長径 36㎝、短径 30㎝の楕円形で深さ 20㎝である。Ｐ５は出入口ピットと考えられ、規模は長径 41㎝、短径 34㎝の楕円形で深さ 10㎝である。

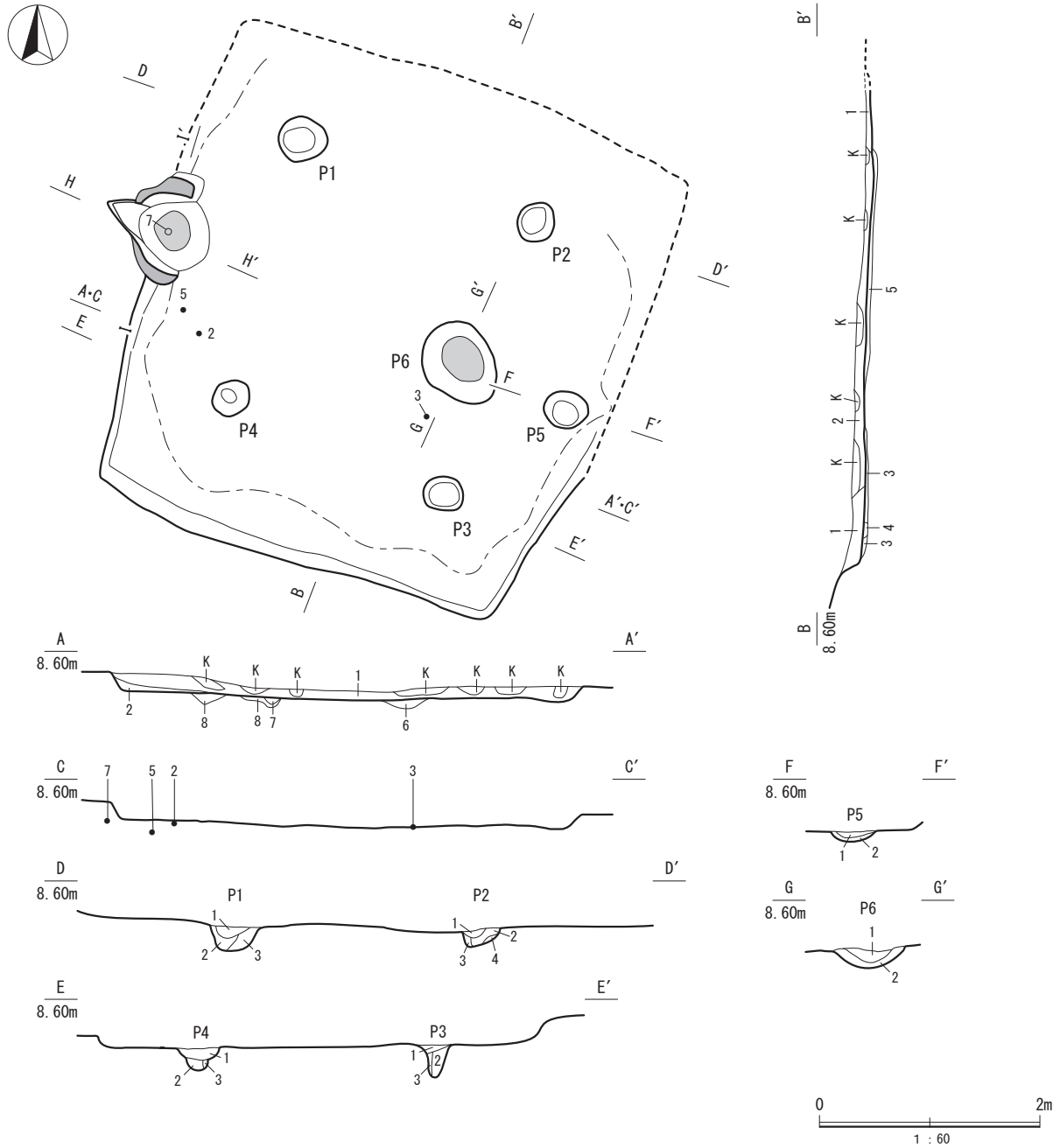
覆土　８層に分層できる。第１・２層は自然堆積で、第３～８層は床の構築層である。

遺物出土状況　土師器 57 点（坏６・甕 49、手捏ね２）、須恵器 16 点（坏４・高台付坏１・甕 11）、陶器６点（碗５・甕１）、磁器 13 点（碗 12・水注１）、土製品１点（支脚）、石器１点（砥石）、金属製品４点（不明）が出土している。２・３・５は床面直上から、７は竈内から直立して出土している。

所見　時期は、出土した遺物から８世紀後葉頃と考えられる。

第７号竪穴建物跡土層説明

1　7.5YR　3/3　暗褐色　　ローム粒子少量　炭化物少量　粘性ややあり　締まりややあり
2　7.5YR　4/6　褐色　　ロームブロック多量　ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘性ややあり　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗褐色　　ローム粒子中量　焼土粒子少量　炭化粒子微量　粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗褐色　　ローム粒子中量　炭化粒子微量　粘性なし　締まりあり
5　7.5YR　3/3　暗褐色　　ローム粒子中量　炭化粒中子量　粘性あり　締まりあり
6　5YR　3/4　暗赤褐色　焼土ブロック微量　焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘性なし　締まりあり



第 27 図　第７号竪穴建物跡実測図

7　5YR　3/3　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘性なし　締まりあり
8　5YR　3/6　暗赤褐色　焼土ブロック微量　焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘性なし　締まりあり

Ｐ１・Ｐ２

1　7.5YR　3/4　暗褐色　ロームブロック微量　ローム粒子少量　粘性ややあり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗褐色　ローム粒子少量　粘性ややあり　締まりあり
3　7.5YR　4/6　褐色　ロームブロック中量　粘性ややあり　締まりあり
4　7.5YR　3/4　暗褐色　ロームブロック多量　ローム粒子中量　粘性ややあり　締まりあり

Ｐ３・Ｐ４

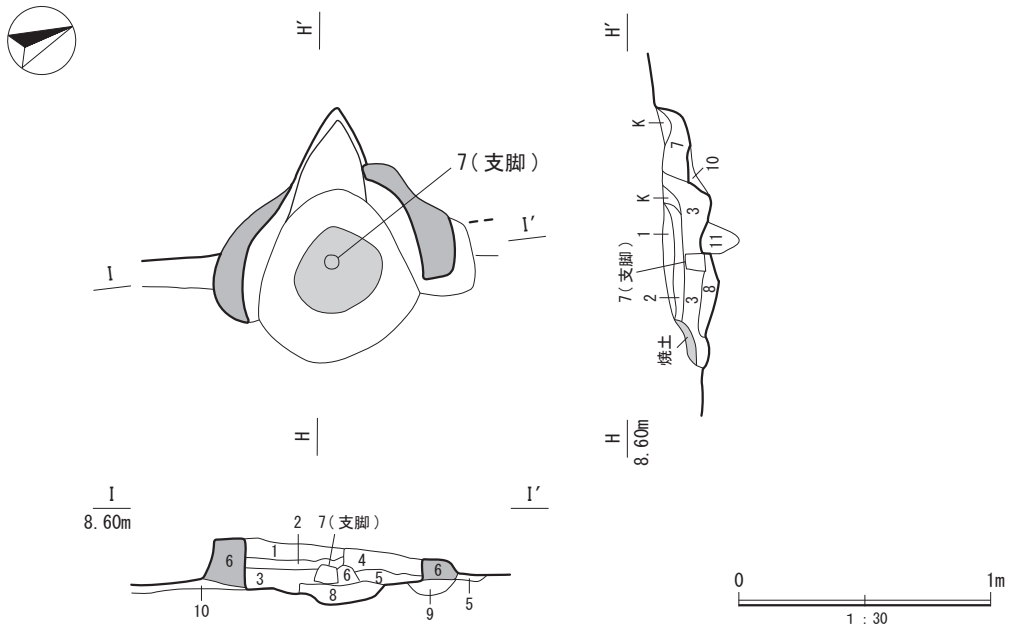
1　7.5YR　3/4　暗褐色　ロームブロック微量　ローム粒子多量　炭化粒子微量　粘性ややあり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗褐色　ロームブロック少量　炭化粒子少量　粘性ややあり　締まりややあり
3　7.5YR　4/6　褐色　ロームブロック少量　ローム粒子微量　粘性ややあり　締まりあり

Ｐ５

1　7.5YR　3/3　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子中量　粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　4/3　褐色　ロームブロック少量　ローム粒子中量　炭化粒子少量　山砂少　粘性あり　締まりなし

Ｐ６

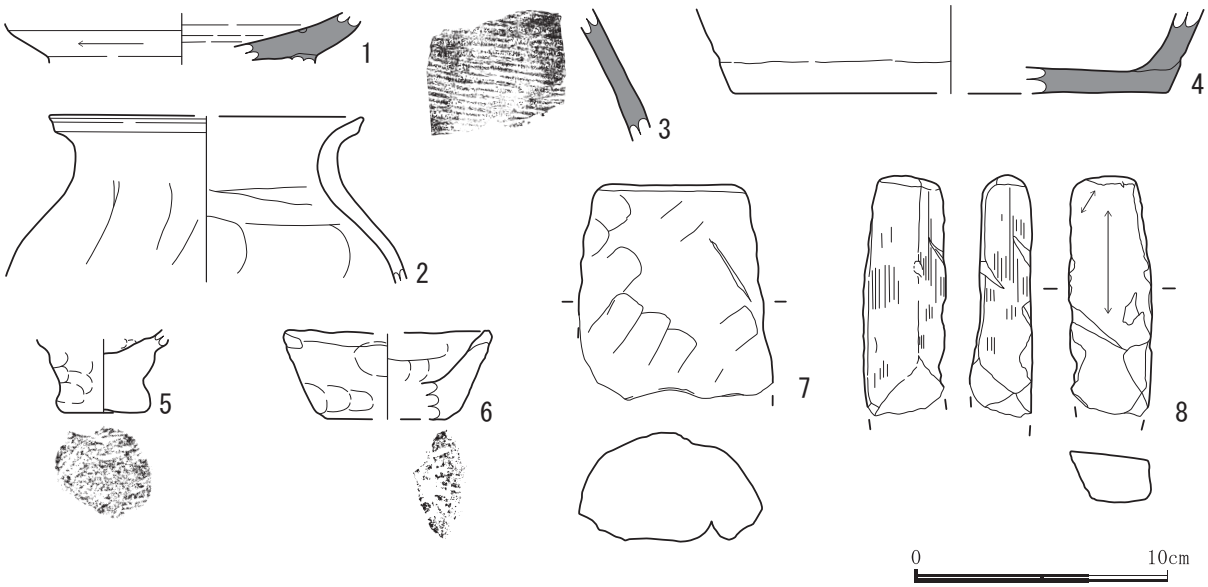
1　5YR　3/3　暗赤褐色　ローム粒子少量　炭化粒子中量　焼土粒子中量　粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　4/3　褐色　ロームブロック少量　ローム粒子多量　炭化粒子中量　焼土粒子中量　山砂少　粘性あり　締まりあり



第 28 図　第７号竪穴建物跡竈実測図

竈土層説明

1	5YR	2/2	黒褐色	焼土ブロック少量　焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘性なし　締まりなし
2	5YR	3/3	暗赤褐色	焼土ブロック中量　焼土粒子中量　炭化物少量　炭化粒子中量　粘性なし　締まりなし
3	2.5YR	2/3	極暗赤褐色	焼土ブロック少量　焼土粒子中量　炭化物少量　炭化粒子多量　粘性なし　締まりなし
4	5YR	3/3	暗赤褐色	焼土粒少量　炭化粒子中量　山砂少量　粘性なし　締まりなし
5	5YR	3/2	暗赤褐色	焼土ブロック少量　焼土粒子少量　炭化粒子中量　山砂少量　粘性なし締まりなし
6	7.5YR	6/2	灰褐色	焼土粒子少量　炭化粒子少量　山砂粘土多量　粘性あり　締まりあり
7	5YR	3/4	暗赤褐色	焼土粒子少量　炭化物中量　灰少量　山砂少量　粘性なし　締まりなし
8	5YR	4/3	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量　焼土粒子少量　炭化物中量　粘性なし　締まりなし
9	5YR	5/6	明赤褐色	ローム粒子多量　焼土粒子少量　炭化物少量　粘性あり　締まりあり
10	7.5YR	5/8	明褐色	ロームブロック多量　ローム粒子多量　粘性あり　締まりあり
11	5YR	3/4	暗赤褐色	焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘土粒子少量　粘性なし　締まりなし



第 29 図　第７号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 10 表　第７号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	須恵器	高台付坏	—	—	[2.0]	にぶい黄橙色	長石・石英・雲母・チャート	普通	体部内外面ロクロナデ 体部外面下端回転ヘラ削り	残存率５%　図版７ 覆土中 トチン痕
2	土師器	甕	(12.3)	—	[6.5]	にぶい黄褐色	長石・石英・雲母	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内外面ヘラナデ	残存率５%　図版７ 床面直上
3	須恵器	甕	—	—	[5.3]	黒褐色	長石・石英	普通	体部外面斜位平行タタキ 体部内面横位ナデ	残存率５%　図版７ 床面直上
4	須恵器	甕	—	(17.2)	[3.3]	灰色	長石・石英・細礫	普通	体部内外面ロクロナデ	残存率５%　図版７ 覆土中 輪積痕あり
5	土師器	手捏ね	—	3.3	[3.3]	橙色	長石・石英・スコリア	普通	体部内外面指ナデ	残存率 10%　図版７ 床面直上
6	土師器	手捏ね	(8.0)	(4.8)	[3.5]	明黄褐色	長石・石英・細礫	普通	体部外内面指ナデ	残存率 20%　図版７ 覆土中
番号	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	手法の特徴		備考
			長さ	幅	厚さ					
7	土製品	支脚	[8.3]	[5.7]	[4.2]	372	長石・石英	外面ヘラナデ		残存率 30%　図版７ 竈内
番号	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	胎土	手法の特徴		備考
			長さ	幅	厚さ					
8	石器	砥石	[9.5]	3.3	2.0	102	泥岩	砥石一面砥石製作中の工具痕有り		残存率 85%　図版 10 覆土中

第３節　中世の遺構と遺物

１　溝跡

当該期の溝跡は２条確認された。第３号溝跡で 16 世紀代の遺物が確認されており、第４号溝跡が同じ方向・形状をもつことから、第３・４号溝跡は 16 世紀に比定されると思われる。

第３号溝跡

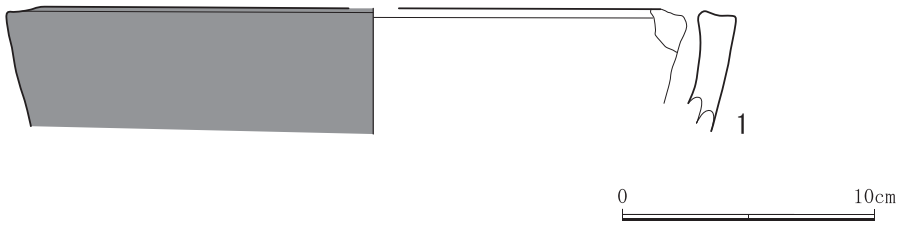
位置　X 16

規模と形状　調査区の北西部で確認された。確認された長さは約 9.1 mである。規模は、上幅 0.70 ～ 1.12 m、下幅 0.45 ～ 0.86 m、深さ 25 ～ 45cm である。断面形は逆台形を呈し、壁は外傾している。走行方向はN－ 30°－Eである。

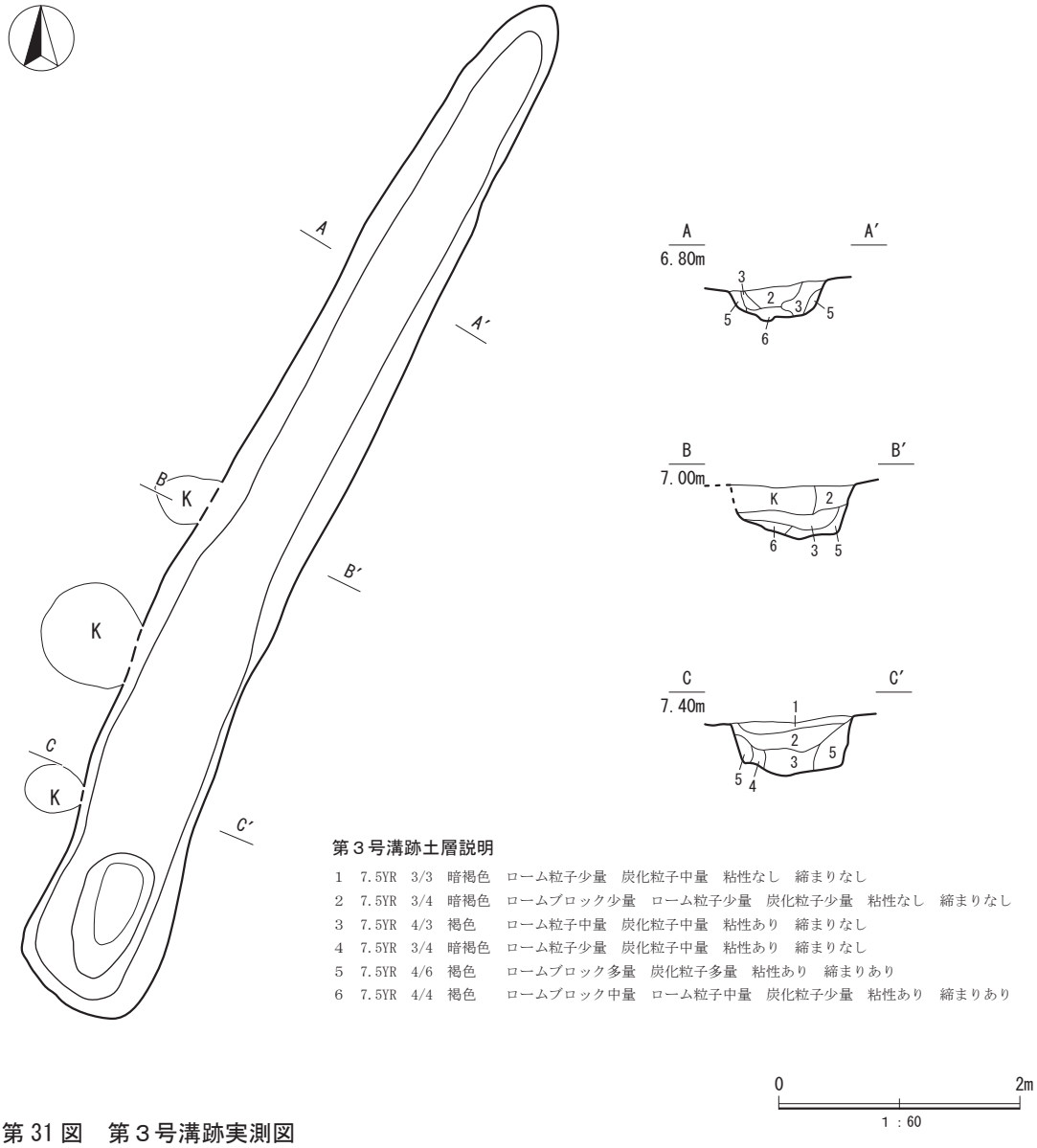
覆土　６層に分層でき、人為堆積である。

遺物出土状況　土師質土器１点（内耳鍋）が出土している。

所見　時期は、出土した遺物から 16 世紀と考えられる。



第 30 図　第３号溝跡出土遺物実測図



第 31 図　第３号溝跡実測図

第 11 表　第３号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	土師質土器	内耳鍋	(28.6)	—	［4.7］	外面黒色 内面にぶい橙色	長石・石英・雲母	普通	口縁部から体部内外面ロクロナデ 耳貼付痕	残存率５％　図版８ 覆土中 外面黒色・煤付着

第４号溝跡

位置　Z 16

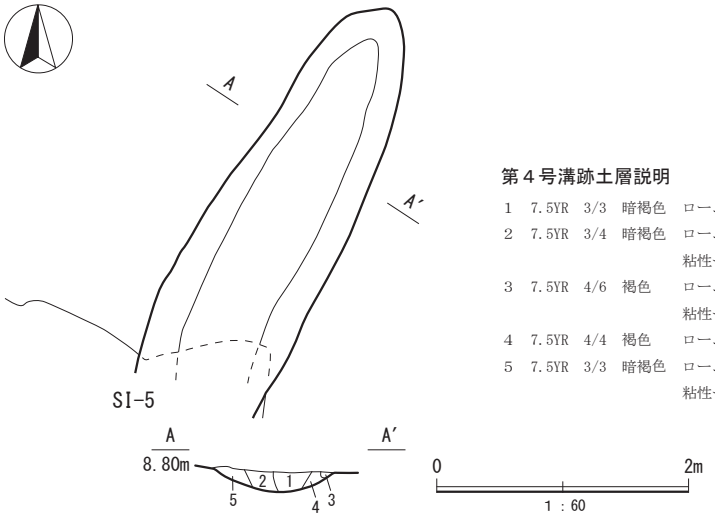
規模と形状　調査区の南東部で確認された。確認できた長さは約3.4ｍである。規模は上端0.9～1.15ｍ、下幅 0.4 ～ 0.62 ｍ、深さ 16cm である。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。走行方向はＮ－ 25°－Ｅである。

覆土　５層に分層でき、人為堆積である。

重複関係　第５号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

遺物出土状況　土師器４点（甕）、須恵器１点（坏）が出土している。９世紀前葉の遺物で、底面付近からが出土しているが、流れ込みの可能性が高い。

所見　重複関係と第３号溝跡と同様谷部に向かっていることや形状が類似していることから、中世の可能性が高い。



第４号溝跡土層説明

1　7.5YR　3/3　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子微量　粘性ややあり　締まりややあり
2　7.5YR　3/4　暗褐色　ロームブロック微量　ローム粒子微量　炭化粒子微量
粘性ややあり　締まりややあり
3　7.5YR　4/6　褐色　ロームブロック少量　ローム粒子中量　炭化粒子中量
粘性ややあり　締まりややあり
4　7.5YR　4/4　褐色　ローム粒子中量　炭化粒子微量　粘性ややあり　締まりややあり
5　7.5YR　3/3　暗褐色　ロームブロック中量　ローム粒子少量　炭化粒子微量
粘性ややあり　締まりややあり

第 32 図　第４号溝跡実測図

第４節　時期不明の遺構

１　溝跡

時期不明の溝跡は２条確認された。２条の溝跡は底面に植栽痕があることから、同時期の同じ役割を持つ遺構である可能性がある。

第１号溝跡

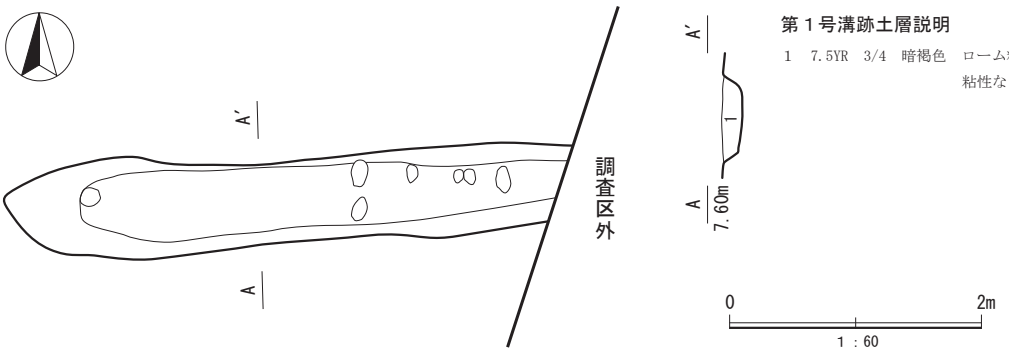
位置　Z 17

規模と形状　調査区の東部で確認され､調査区域外へ至っている。確認できた長さは［4.5］ｍである。規模は幅 0.63 ～ 0.78 ｍ、下幅 0.35 ～ 0.55 ｍ、深さ 16 ㎝である。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。走行方向はＮ－ 95°－Ｗである。

覆土　単一層である。

遺物出土状況　出土していない。

所見　時期は不明である。第２号溝跡同様，底面に植栽痕があることから、境界と考えられる。



第１号溝跡土層説明

1　7.5YR　3/4　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子少量
粘性なし　締まりなし

第 33 図　第１号溝跡実測図

第２号溝跡

位置　Ｙ 16・Ｘ 16

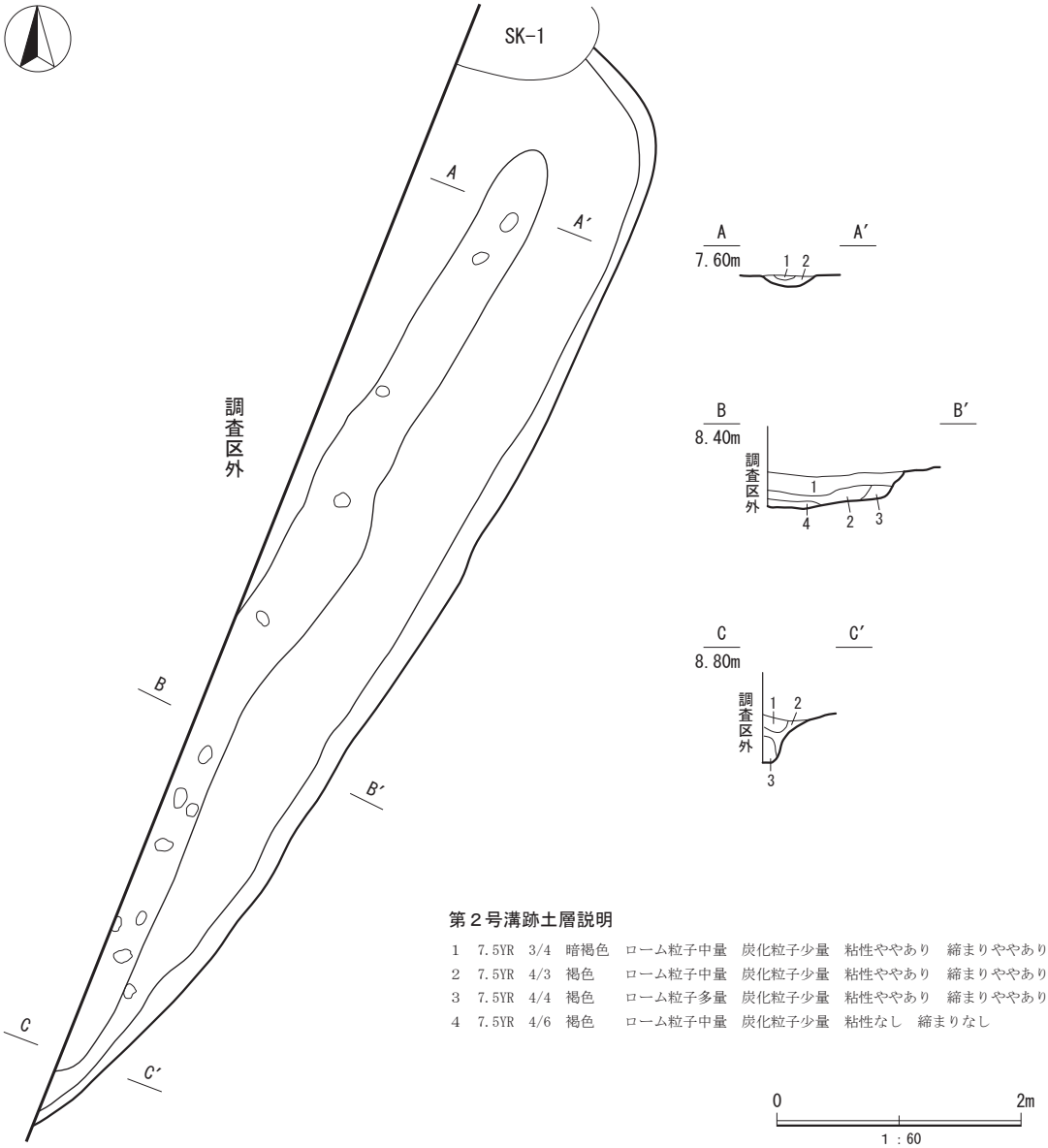
規模と形状　調査区の西部で確認され、調査区域外へ至っている。確認できた長さは［9.9］ｍである。規模は上幅［1.85］ｍ、下幅［0.62］ｍ、深さ 10 ～ 40㎝、断面形は逆台形を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。走行方向はＮ－ 30°－Ｅである。

重複関係　第１号土坑に掘り込まれている。

覆土　４層に分層でき、人為堆積である。

遺物出土状況　須恵器２点（坏・甕）が出土している。９世紀前葉の遺物が底面付近から出土しているが、流れ込みの可能性が高い。

所見　第１号土坑により掘り込まれているが、時期は不明である。第１号溝跡同様，底面に植栽痕があることから、植栽による境界の可能性がある。



第２号溝跡土層説明

1	7.5YR	3/4	暗褐色	ローム粒子中量	炭化粒子少量	粘性ややあり	締まりややあり
2	7.5YR	4/3	褐色	ローム粒子中量	炭化粒子少量	粘性ややあり	締まりややあり
3	7.5YR	4/4	褐色	ローム粒子多量	炭化粒子少量	粘性ややあり	締まりややあり
4	7.5YR	4/6	褐色	ローム粒子中量	炭化粒子少量	粘性なし	締まりなし

第 34 図　第２号溝跡実測図

２　土坑

土坑は５基確認された。出土遺物は細片が多く、流れ込みの可能性もあり、時期を確定することが困難であった。

第１号土坑

位置　Ｘ 16

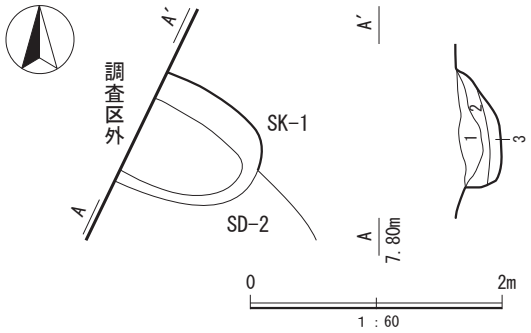
規模と形状　長径［1.00］m、短径 0.97 mの楕円形で、深さ 31cm である。断面は逆台形状で、壁面は緩斜している。

重複関係　第２号溝を掘り込んでいる。

覆土　３層に分層でき、自然堆積である。

遺物出土状況　土師器５点（坏１・甕４）、須恵器１点（甕）が出土している。底面付近から出土しているが、流れ込みの可能性が高い。

所見　時期は不明である。



第１号土坑土層説明

1　7.5YR　4/4　褐色　ローム粒子多量　炭化粒子少量　粘性ややあり　締まりややあり
2　7.5YR　4/3　褐色　ロームブロック多量　ローム粒子中量　粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/6　褐色　ロームブロック多量　ローム粒子多量　粘性あり　締まりあり

第 35 図　第１号土坑・出土遺物実測図

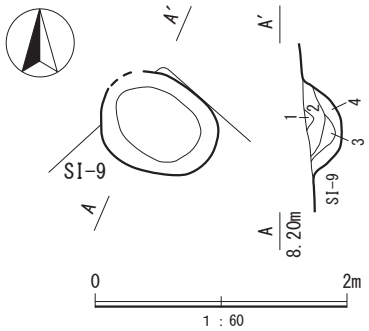
第 12 表　第１号土坑出土遺物観察表

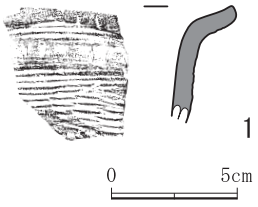
番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	須恵器	甕	―	―	［2.6］	黄灰色	長石・石英	普通	体部外面横位の平行タタキ	残存率５％　図版８ 覆土中

第２号土坑

位置　Ｚ 16

規模と形状　長径 0.97 m、短径 0.75 mの楕円形で深さ 28cm である。断面は皿状で外傾している。





第２号土坑土層説明

1　7.5YR　4/4　褐色　ローム粒子多量　粘性あり
　　締まりあり
2　7.5YR　4/3　褐色　ロームブロック少量　ローム粒子多量
　　炭化粒子中量　粘性あり　締まりややあり
3　7.5YR　3/4　暗褐色　ローム粒子少量　粘性ややあり
　　締まりややあり
4　7.5YR　3/3　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子微量
　　粘性ややあり　締まりややあり

第 36 図　第２号土坑・出土遺物実測図

重複関係　第９号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

覆土　４層に分層でき、自然堆積である。

遺物出土状況　土師器 16 点（坏２、甕 14)、須恵器４点（坏３・甕１）が出土している。流れ込みの可能性が高い。

所見　時期は不明である。

第 13 表　第２号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	須恵器	甕	—	—	[4.5]	黄灰色	長石・石英・雲母	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位平行タタキ	残存率５％　図版８ 覆土中

第３号土坑

位置　Z 17

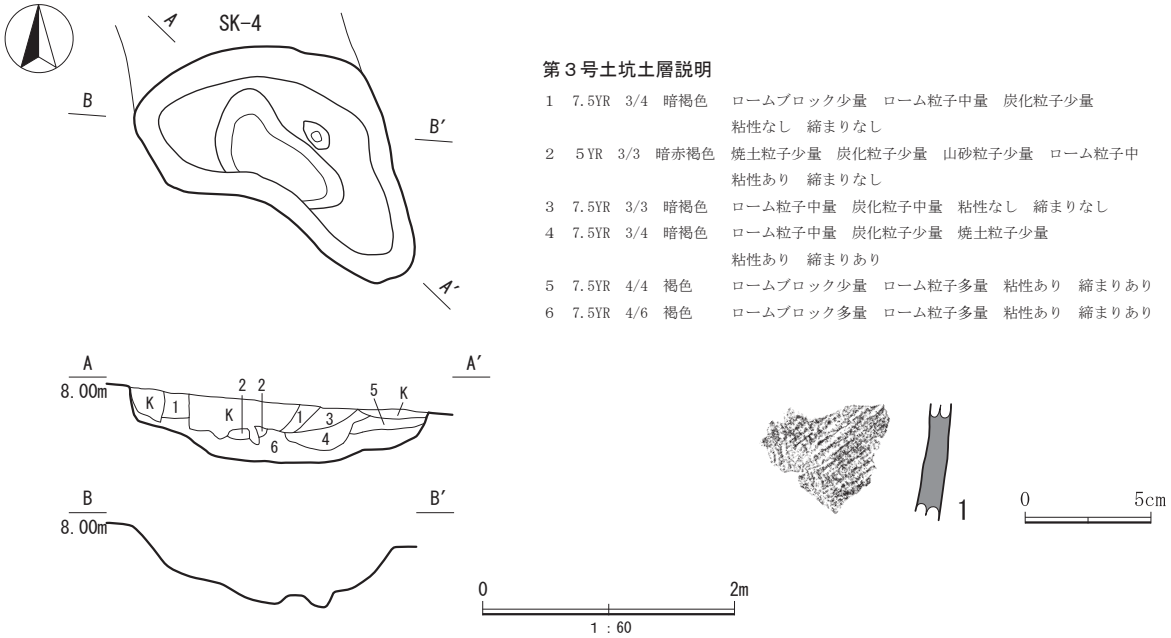
規模と形状　長径 2.5 m、短径 1.27 mの不整楕円形で深さ 46cm である。断面は皿状で、壁は外傾している。

重複関係　第４号土坑を掘り込んでいる。

覆土　６層に分層でき、人為堆積である。

遺物出土状況　土師器５点（坏)、須恵器１点（甕）が出土している。流れ込みの可能性が高い。

所見　時期は不明である。



第３号土坑土層説明

1　7.5YR　3/4　暗褐色　ロームブロック少量　ローム粒子中量　炭化粒子少量　粘性なし　締まりなし
2　5YR　3/3　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　山砂粒子少量　ローム粒子中　粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗褐色　ローム粒子中量　炭化粒子中量　粘性なし　締まりなし
4　7.5YR　3/4　暗褐色　ローム粒子中量　炭化粒子少量　焼土粒子少量　粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　4/4　褐色　ロームブロック少量　ローム粒子多量　粘性あり　締まりあり
6　7.5YR　4/6　褐色　ロームブロック多量　ローム粒子多量　粘性あり　締まりあり

第 37 図　第３号土坑・出土遺物実測図

第 14 表　第３号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	須恵器	甕	—	—	[4.3]	黄灰色	長石・石英・ 白色粒子	普通	体部内面横位のナデ 外面斜位の平行タタキ	残存率５％　図版８ 覆土中

第４号土坑

位置　Ｚ 17

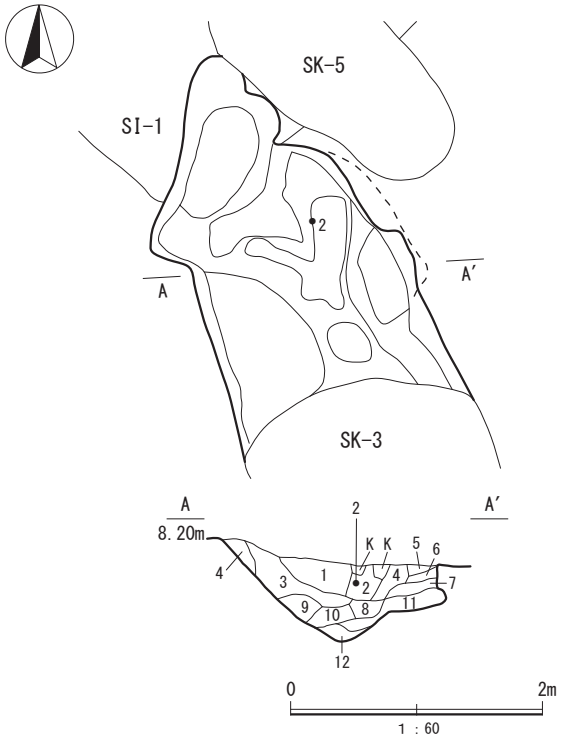
規模と形状　長軸 2.8 ｍ、短軸 1.72 ｍの不整形で、深さ 60cm である。断面はＶ字状で、壁は緩やかに立ち上がり、一部直立している。

重複関係　第１号竪穴建物跡を掘り込んでいる。また、第３・５号土坑に掘り込まれている。

覆土　12 層に分層でき、人為堆積である。

遺物出土状況　土師器６点（坏２・高坏１・甕２・手捏ね１）が出土している。流れ込みの可能性が高い。

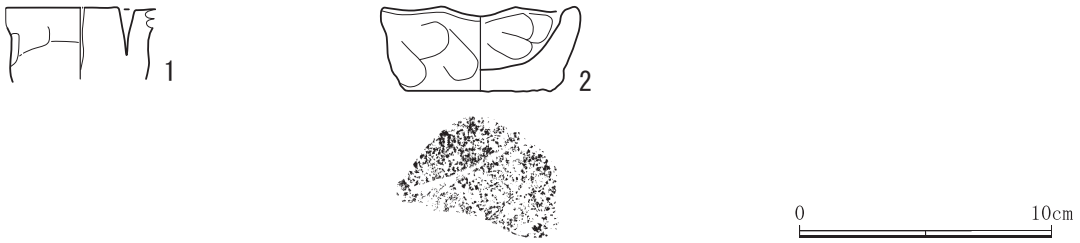
所見　時期は不明である。



第４号土坑土層説明

1	7.5YR	3/1	黒褐色	ローム粒子微量　焼土粒子微量　炭化粒子微量 粘性なし　締まりなし
2	7.5YR	3/4	暗褐色	ローム粒子微量　炭化粒子微量　粘性ややあり 締まりややあり
3	7.5YR	3/3	暗褐色	ロームブロック少量　ローム粒子微量　炭化粒子少量 粘性ややあり　締まりややあり
4	7.5YR	4/4	褐色	ローム粒子微量　炭化粒子微量　焼土粒子少量 粘性ややあり　締まりややあり
5	7.5YR	5/6	明褐色	ロームブロック多量　炭化粒子微量　粘性あり 締まりあり
6	7.5YR	4/6	褐色	ロームブロック多量　炭化粒子微量　粘性あり 締まりあり
7	7.5YR	4/4	褐色	ロームブロック中量　ローム粒子中量　炭化粒子微量 粘性あり　締まりあり
8	5YR	4/4	にぶい赤褐色	ロームブロック微量　ローム粒子多量　炭化粒子中量 粘性あり　締まりあり
9	7.5YR	3/3	暗褐色	ロームブロック微量　ローム粒子微量　焼土粒子微量 粘性あり　締まりあり
10	7.5YR	3/2	黒褐色	ローム粒子微量　炭化粒子微量　焼土粒子微量 粘性ややあり　締まりあり
11	7.5YR	5/6	明褐色	ロームブロック多量　ローム粒子多量　炭化粒子微量 焼土粒子微量　粘性あり　締まりあり
12	7.5YR	4/3	褐色	ロームブロック少量　ローム粒子中量　炭化粒子多量 粘性あり　締締まりあり

第 38 図　第４号土坑実測図



第 39 図　第４号土坑出土遺物実測図

第 15 表　第４号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考
			口径	底径	器高					
1	土師器	高坏	—	—	[4.3]	橙	長石・石英・針状鉱物・黒色粒子・白色粒子	普通	外面横位のナデ	残存率５％　図版８ 覆土中
2	土師器	手捏ね	—	5.7	3.3	にぶい黄褐	長石・石英	普通	口縁～体部内外面指ナデ 底部煤付着	残存率 60%　図版９ 覆土中

第５号土坑

位置　Ｚ 17

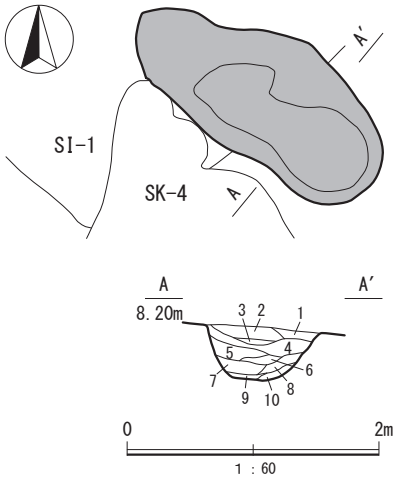
規模と形状　長径 2.3 m、短径 1.05 mの長楕円形で、深さ 42cm である。断面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がり、床面から壁にかけて灰白色粘土が貼られている。

重複関係　第１号竪穴建物跡、第４号土坑を掘り込んでいる。

覆土　10 層に分層でき、人為堆積である。

遺物出土状況　須恵器１点（甕）が出土している。流れ込みの可能性が高い。

所見　時期は不明である。また、壁・床ともに良質の粘土が横から掘られていることから、粘土採掘坑と考えられる。



第５号土坑土層説明

1	7.5YR	4/4	褐色	ロームブロック多量　ローム粒子多量　粘土粒子微量　炭化粒子微量　粘性ややあり　しまりややあり
2	7.5YR	3/1	黒褐色	ロームブロック少量　炭化粒子少量　粘性ややあり　締りややあり
3	7.5YR	4/6	褐色	ローム粒子多量　炭化粒子少量　粘性ややあり　締りややあり
4	7.5YR	3/1	黒褐色	ローム粒子多量　粘土粒子多量　粘性ややあり　締りややあり
5	7.5YR	3/3	暗褐色	ロームブロック多量　ローム粒子多量　炭化粒子微量　粘土粒子多量　粘性あり　締りあり
6	7.5YR	3/3	暗褐色	ロームブロック少量　ローム粒子少量　炭化粒子少量　粘性あり　締りあり
7	7.5YR	3/3	暗褐色	ロームブロック多量　ローム粒子多量　炭化粒子少量　粘性あり　締りあり
8	7.5YR	3/1	黒褐色	ロームブロック少量　ローム粒子少量　炭化粒子微量　粘性あり　締りあり
9	7.5YR	3/1	黒褐色	ロームブロック少量　ローム粒子多量　焼土粒子少量　粘性あり　締りあり
10	7.5YR	3/1	黒褐色	ロームブロック多量　ローム粒子少量　粘性ややあり　締りあり

第 40 図　第５号土坑実測図

３　ピット

時期不明のピットは３基確認された。出土遺物は少なく、流れ込みの可能性がある。

第１号ピット

位置　Ｗ 17

規模と形状　長径 50cm、短径 30cm の楕円形で、深さ 26cm である。底面はＵ字状で、壁は外傾する。

覆土　単一層で自然堆積である。

遺物出土状況　木杭１点が確認されている。

所見　時期は確定できなかった。

第２号ピット

位置　Ｘ 16

規模と形状　長経28cm、短経26cmの円形で、深さ35cmである。底面はU字状で、壁は垂直に立ちあがる。

覆土　単一層で人為堆積である。

遺物出土状況　出土していない。

所見　遺物が確認されていないことから時期は判明できなかった。

第３号ピット

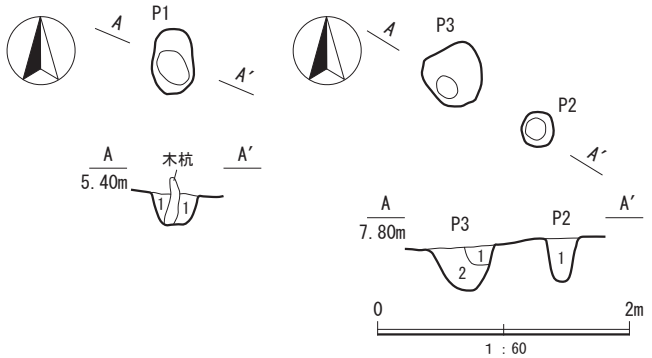
位置　Ｘ 16

規模と形状　長経 50cm、短経 48cm の不整楕円形で、深さ 36cm である。底面はＵ字状で、壁は外傾する。

覆土　２層で人為堆積である。

遺物出土状況　土師質土器（かわらけ）が１点出土している。

所見　出土した遺物は混入の可能性が高く、時期は不明である。



第１号ピット土層説明

1　7.5YR　3/1　黒褐色　ローム粒子多量　粘性なし　締まりなし

第２号・３号ピット土層説明

1　7.5YR　4/4　褐色　ロームブロック多量　ローム粒子少量
炭化粒子微量　粘性ややあり
締まりややあり

2　7.5YR　3/4　暗褐色　ロームブロック少量　ローム粒子微量
粘性ややあり　締まりややあり

第 41 図　第１・２・３号ピット実測図

４　性格不明遺構

調査区南側において確認された。遺構の大部分が調査区外に延びている。

第１号性格不明遺構

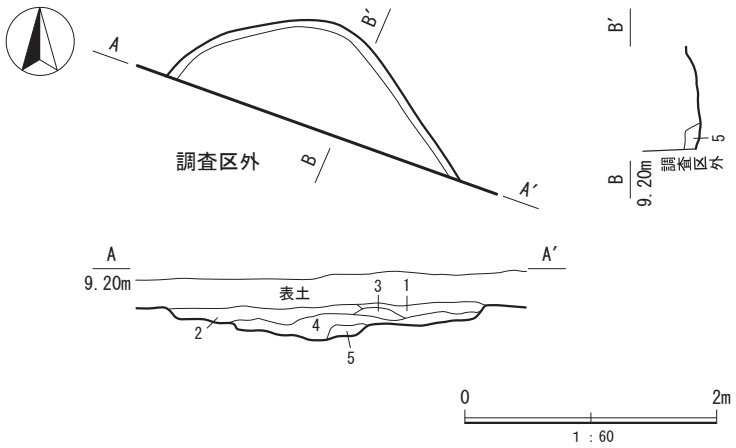
位置　Ｚ 15

規模と形状　中心は調査区外に広がると予想されるが、長軸［1.6］ｍ、短軸［1.4］ｍであり、形状は方形と推定される。底面は凸凹で、柱穴等は確認されなかった。

覆土　５層に分層できる。４・５層で焼土・炭化粒子が確認された。

遺物出土状況　出土していない。

所見　時期が確定できる遺物は出土していないことから、時期・遺構の性格はともに不明である。



第１号性格不明遺構土層説明

1　7.5YR　3/4　暗褐色　ロームブロック微量　ローム粒子中量
炭化粒子微量
粘性ややあり　締まりややあり

2　7.5YR　4/6　褐色　ローム粒子多量　粘土粒子少量
粘性ややあり　締まりあり

3　7.5YR　4/6　褐色　ロームブロック多量
粘性ややあり　締まりややあり

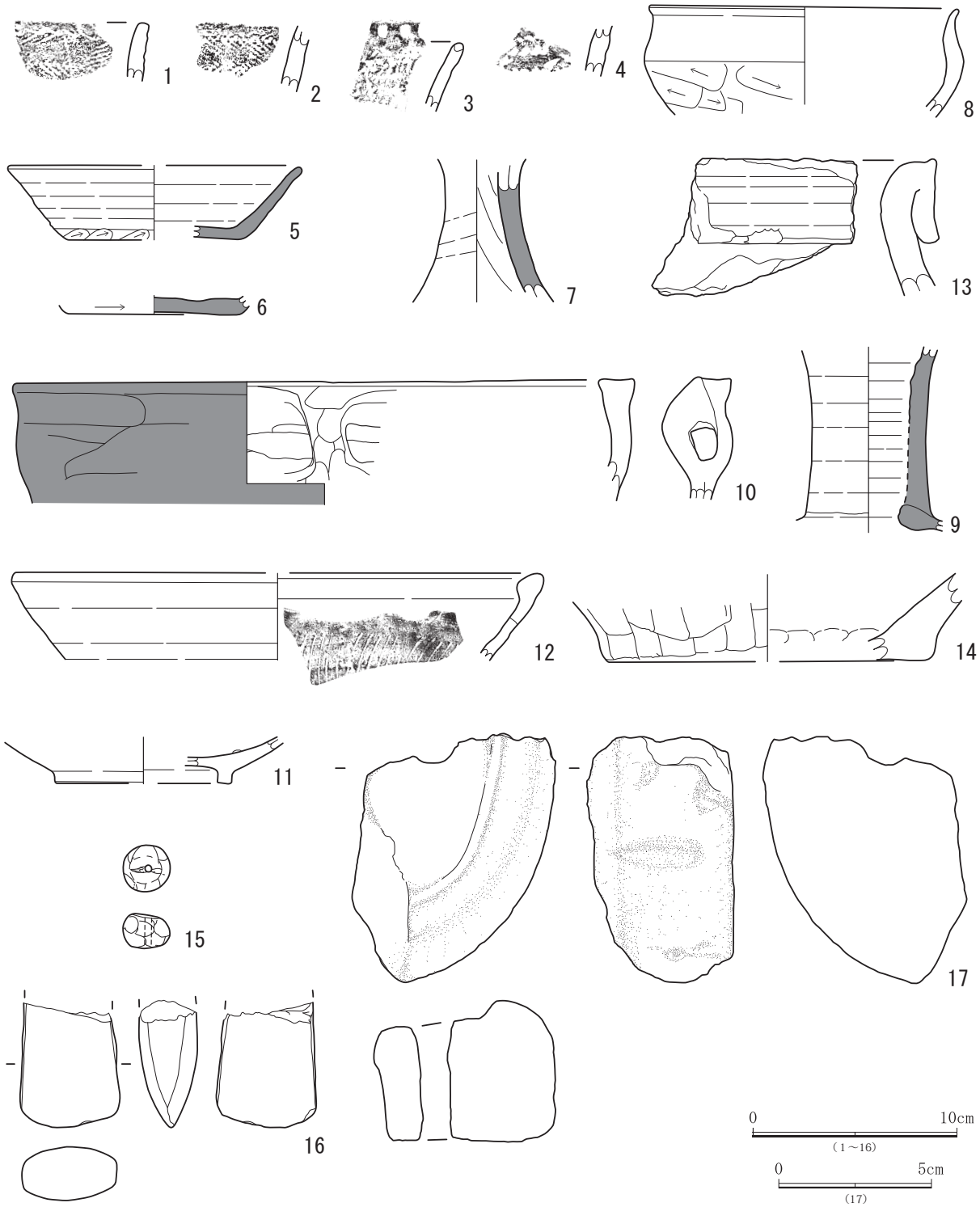
4　7.5YR　4/3　褐色　ロームブロック少量　焼土粒子中量
炭化粒子少量　粘土ブロック少量
粘性あり　締まりあり

5　7.5YR　4/4　褐色　ロームブロック中量　ローム粒子多量
焼土粒子微量　炭化粒子微量
粘性あり　締まりややあり

第 42 図　第１号性格不明遺構実測図

第５節　遺構外出土遺物

縄文時代から現代にかけての遺構に伴わない遺物が多く出土した。ここでは､縄文時代の縄文土器･石器、奈良・平安時代の土師器・須恵器・土製品、中・近世の土師質土器・陶器を図示した。また、現代のガラス瓶は参考資料として写真を掲載した。



第 43 図　遺構外出土遺物実測図

第 16 表　遺構外出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量（cm）			色調	胎土	焼成	手法の特徴	備考	出土位置
			口径	底径	器高						
1	縄文土器	深鉢	—	—	[2.8]	明黄褐色	長石・石英	普通	口縁部単節によるコンパス文を施す	残存率５％ 図版９ 縄文時代前期 前葉（黒浜式）	SI-1
2	縄文土器	深鉢	—	—	[3.2]	にぶい 黄橙色	長石・石英	普通	単節によるループ文を施す	残存率５％ 図版９ 縄文時代前期 前葉（黒浜式）	SK-2
3	縄文土器	深鉢	—	—	[3.3]	明黄褐色	細砂	普通	口唇部に刻み　口縁部に半截竹管による刺突文を施す	残存率５％ 図版９ 縄文時代前期 後葉（浮島式）	SI-6
4	縄文土器	深鉢	—	—	[2.2]	明褐色	長石・石英	普通	半截竹管による爪形文を施す	残存率５％ 図版９ 縄文時代前期 後葉（浮島式）	SI-9
5	須恵器	坏	(14.3)	(8.5)	[3.6]	褐灰色	長石・石英・ 雲母	普通	ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	残存率 20% 図版９	表土
6	須恵器	坏	—	8.5	[0.9]	黄灰色	長石・石英・ 雲母・スコリア	普通	ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	残存率 15% 図版９	表土
7	須恵器	高坏	—	—	[7.0]	暗灰黄色	長石・石英・ 雲母	普通	ロクロナデ　脚部内面絞り痕	残存率５％ 図版９	T15
8	土師器	鉢	(15.0)	—	[5.3]	橙色	長石・石英・ 雲母・スコリア	普通	口縁部内外面ロクロナデ 体部内面横位のナデ 外面横位のヘラ削り	残存率 10% 図版９	T14
9	須恵器	長頸瓶	—	—	[9.0]	にぶい 黄橙色	長石・石英	普通	ロクロナデ 内面頸部外面底部自然釉	残存率５％ 図版９ 東海産	T15
10	土師質 土器	内耳鍋	(30.0)	—	[5.9]	にぶい 黄橙色	長石・石英・ 雲母	普通	内面ロクロナデ　外面斜位のヘラナデ 内耳貼り付け	残存率５％ 図版９ 煤付着	T15
11	陶器	碗	—	(8.4)	[2.3]	明赤褐色	細砂	普通	底部外面ロクロナデ　トチン痕	残存率５％　図版９	SI-7
12	陶器	鉢	(25.6)	—	[4.2]	黄灰色	長石・石英	普通	内外面ロクロナデ 内面６本単位の櫛目痕	残存率５％ 図版９	表土
13	陶器	甕	—	—	[6.6]	にぶい 褐色	長石・石英	普通	折り返し口縁　口縁部内面研磨 内外面ロクロナデ 体部内面横位のナデ	残存率５％ 図版９ 常滑	T13
14	陶器	甕	—	(15.9)	[4.2]	にぶい 赤褐色	長石・石英 鉄分吹き出し	普通	内面ロクロナデ 外面横位のヘラナデ	残存率５％ 図版９ 常滑　指頭痕	表土
番号	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	胎土	特徴		備考	
			径	長さ	孔径						
15	土製品	球状土錘	2.3	1.7	0.3	10	長石・白色粒子	指ナデ　一方向からの穿孔		残存率 90% 図版 10	表土
番号	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴		備考	
			長さ	高さ	厚さ						
16	石器	磨製石斧	[6.1]	[4.9]	[2.9]	120	蛇紋岩	全面磨き　刃部残存		残存率 50% 図版 10	SI-9
17	石器	石臼	[16.0]	[13.1]	[9.2]	2442	花崗岩	上臼　注入口穿孔		残存率 10% 図版 10	表土

Ｔ＝試掘トレンチ

第５章　まとめ

第１節　はじめに

平成 25 年度の第１次調査では、古墳時代から平安時代の集落跡及び中世の館跡が確認され[1)]、今回の調査では、竪穴建物跡９棟、土坑５基、溝４条が確認された。また、既往の調査で確認されていた集落跡の北への広がりを確認することができた。ここでは既往の調査を踏まえて本発掘調査により確認された各時代の様相について考察し、まとめとする。

第２節　古墳時代

今回調査した当該期の竪穴建物跡は、第１・２・４・８・10 号竪穴建物跡の５棟で、時期は出土遺物や重複関係から、7 世紀代のものが主体である。既往の調査成果では、古墳時代前期（３～４世紀）では南側の斜面部高位に竪穴建物跡が集中していたが、中期の竪穴建物跡は確認されておらず、７世紀になると同じ台地上斜面高位に３棟確認されている。今回の調査区では、大部分の竪穴建物跡の残存率が悪く、床面や竈が確認できなかったものもあるが、５棟の竪穴建物跡が同じ台地上の斜面部低位にまで広がっていることが確認された（第 44 図）。

また、当遺跡では、古墳時代中期の遺構・遺物は両次の調査において確認されておらず、一時的ではあるが集落の機能が途絶えていた可能性があるものの、台地斜面部高位と低位に２分化される傾向が見られる。古墳時代前期から後期にかけて、集落の範囲が北側まで広がり、奈良時代へと継続的に営まれていったと考えられる。

第３節　奈良時代

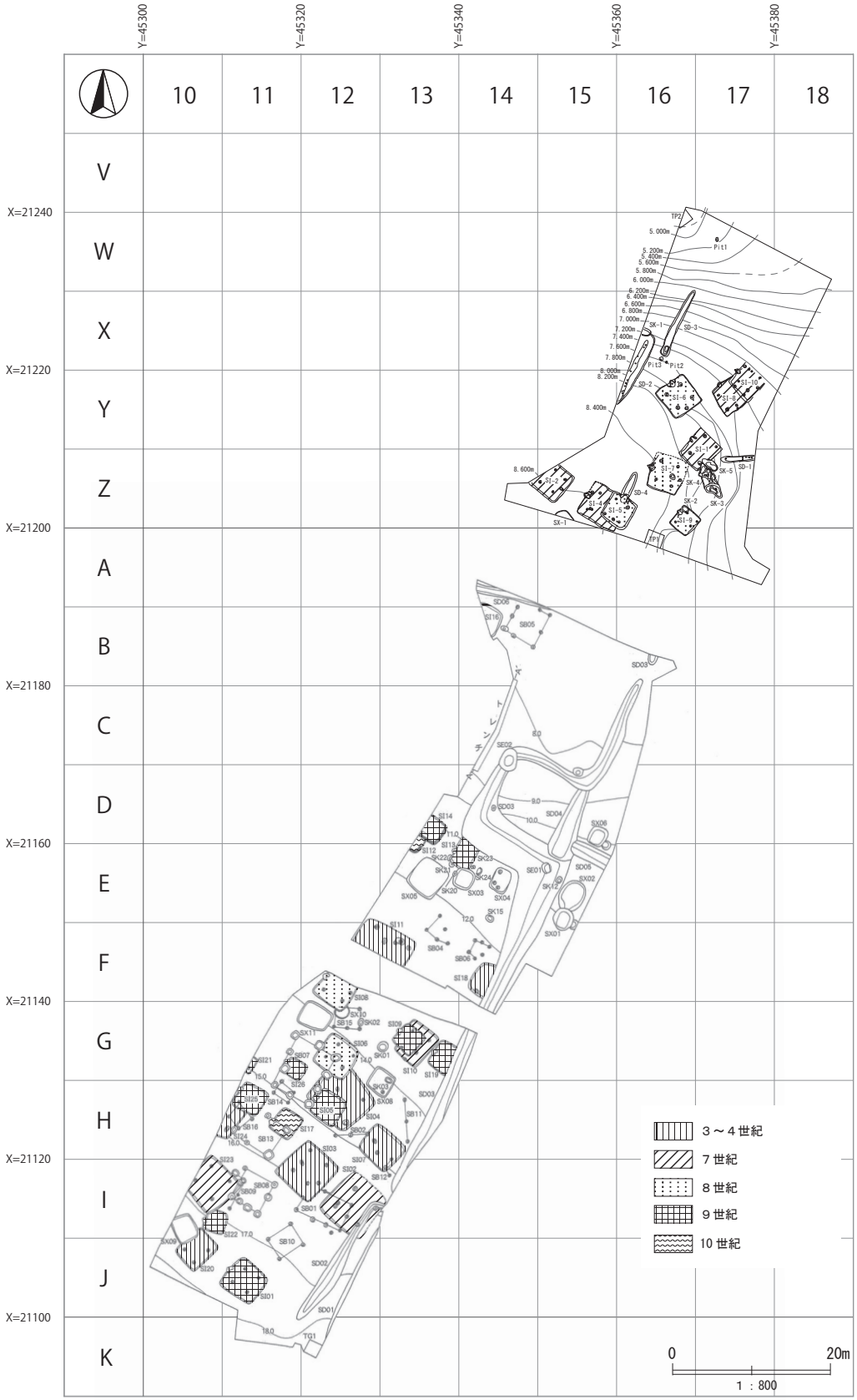
今回の調査では、竪穴建物跡４棟が確認され、既往の調査において確認されていた掘立柱建物跡は確認されなかった。集落の広がりは、２分化の傾向を残しながら、台地斜面部高位と低位に広がりが見られる（第 44 図）。

特徴としては、既往の調査では確認されていなかった手捏ね土器が、第６・７・９号竪穴建物跡から総数９点（SI6 が２点,SI7 が２点,SI9 が５点）出土しており、祭祀･儀礼的な性格を持った遺構（集落）であった可能性がある。石岡市内で手捏ね土器が確認されている奈良時代の遺跡としては、東成井東原遺跡、東成井山ノ神遺跡、中島遺跡などがある。

遺物が集中して出土した遺構としては、第５号竪穴建物跡がもっとも多く、土師器 179 点（坏･甕･小形甕）、須恵器 78 点（坏・高台付坏・蓋・高盤・短頸壺・甕）が出土している。多彩な土器の種類が出土し、「八」と書かれた墨書土器（須恵器坏）が２点確認されており、他の竪穴建物跡との関連が注目される遺構である。

第４節　中世

今回の調査において、当該期の遺物は第３号溝跡から内耳鍋、試掘の際に内耳鍋と常滑甕が出土している。平成 25 年度の調査では大規模な中世の堀跡が検出され、13 世紀と比定される土師質土器・陶器・土製品が出土している。当初、堀跡は今回の調査区に延伸するものと考えられていたが、延伸



第 44 図　弥陀ノ台遺跡　竪穴建物跡変遷図

が予想される場所において遺構は確認されなかった。また、今回の調査区全体でもこの時期の遺物が出土していないことから、堀は今回の調査区に達せず、既設の道路と平行し築かれている可能性が高い。また、この堀の西側から掘立柱建物跡や地下式坑・竪穴状遺構・井戸跡などが既往の調査で確認されていることから、堀は道路下で切れる、もしくは東西方向に曲がるものと思われる。

『石岡市史　下巻』によると、当該地周辺に鹿島神社を置いたとされ[2)]、今回の調査では鹿島神社に関連する参道等の検出が予想されたが、それらの施設を確認することができなかった。なお、現在はその鹿島神社は明治前期に約 200 m南東の狩又谷津の権現山に移転している。

第５節　墨書土器について

今回の調査をみてみると、７世紀前葉と考えられる第８号竪穴建物跡から人面墨書土器と考えられる甕と８世紀後葉とされる第５号竪穴建物跡から墨書「八」の須恵器坏２点が出土している。また，既往の調査では９世紀代の２棟の竪穴建物跡から墨書「□井」の土師器坏と、判読不能であるが底部に朱書されている土師器坏が出土している[1)]。

人面墨書土器についてみてみると、田中勝弘氏は、関東地方では竪穴建物跡から多く出土していると指摘している。それらは単なる戯画的存在でなく、何らかの意図のもとに作成・使用されたものであり、その後河川に流されたという推定を行なっている[3)]。また、平川南氏は、墨書土器については、各地の墨書および線刻の「#」の多くのものが、井戸の「井」ではなく、その字形から判断すると、呪符等に用いられるドーマンとよばれる魔除け記号の「#」とすることができるとの考えを示している[4)]。

また、大竹憲治氏は、除穢延命を祈願して墨書土器や人面墨書土器を水辺に投棄する以前に、住居跡で行われた祭祀の一形態を示す可能性を指摘する。つまり、人面土器が疫病神ばかりでなく、水神や竈神の儀器としての性格を保有していることも再認識すべきとしている[5)]。

以上の点からは、当時の東日本各地の村落において、土器の所有をそうした文字一記号で表示した可能性もあるが、一定の祭祀や儀礼行為等の際に土器に祭祀的な記号として意味を持たせた文字を記した可能性も否定できない。

茨城県内における人面墨書土器の多くは常陸国府域で見られ、その他にも郡衙の周辺域からも目立って確認されている。同市の北の谷からは土師器甕の胴部に人面と「馬飼」の文字が墨書されたものが出土し[6)・7)]、宮部前河からは土師器甕の胴部に人面二面が墨書されたものが出土している[8)]。さらに、鹿の子Ｃ遺跡からは人面墨書土器が 10 点出土し、それらの人面墨書土器と共伴して「丈里」と書かれた墨書土器も出土している[9)]。このように、人面と文字が同一遺物に墨書されているものや、墨書土器が共伴している例があることから、今回確認された人面墨書土器も欠落部分に文字やあるいはさらに墨書土器が存在していた可能性も否定できない。

墨書土器は、遺跡の性格を決定する有力な材料になり得るといわれている。関東地方では近年、文字を伴った人面墨書土器も発掘され、性格や使用法を考える上で注目されている。本遺跡から出土した墨書土器や人面墨書土器の内容や性格についても、今後の検討を待たねばならない。

第６節　おわりに

今回の調査では７世紀から８世紀にかけての竪穴建物跡が９棟確認でき、土師器・須恵器・土製品・鉄製品などの遺物が出土した。既往の調査で確認された竪穴建物跡の分布を見ると、古墳時代前期から後期、奈良・平安時代にかけて北側に広がっていくものと考えられるが、今回の調査範囲での集落の活動時期は７世紀～８世紀頃までということが分かった。

その後、比較的平坦な地形に堀を築き、北側の園部川方向には集落は広がらなかったと考えられる。既往の調査と今回の調査を含めて考えても古墳時代からの集落跡が確認されているが、平安時代中期までに衰退していることが分かる。10 世紀前葉は律令体制の衰退時期であり、当遺跡もその影響を強く受けていた様相を持つ集落と言える。

註

１）平成 25 年度の第１次調査では、竪穴建物跡 26 棟、掘立柱建物跡 15 棟、井戸跡２基、方形･円形竪穴状遺構９基、地下式坑２基、堀･溝９条、土坑墓１基、土坑 11 基が検出されている。

小川和博・大渕淳志編　2014 『弥陀ノ台遺跡－小美玉市栗又四ケ線道路改良工事に伴う発掘調査－』小美玉市・石岡市教育委員会

２）石岡市　1985 『石岡市史　下巻（通史編）』

３）田中勝弘　1973 「墨書人面土器について」『考古学雑誌』 第 58 巻第１号

４）平川　南　2000 「第三章 墨書土器と古代の役所 －「厨」墨書土器論」『墨書土器の研究』吉川弘文館

５）大竹憲治　1985 「関東地方出土の墨書人面土器小考」『史館』 第 18 号

６）西宮一男　1971 「石岡市北の谷遺跡の墨書土器」『茨城考古学』 第４号

７）吉澤　悟　1999 「茨城県北の谷遺跡出土の人面墨書土器の検討」『筑波大学先史学・考古学研究』 第 10 号

８）黒澤彰哉　1980 「石岡市宮部前河遺跡出土の墨描人面土器について」『婆良岐考古』 第２号

９）川井正一・佐藤正好　1983 『鹿の子Ｃ遺跡－常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書５遺構遺物編』茨城県教育財団

参考文献

吉村武彦　2002　『平成 11 ～ 13 年度　科学研究費補助金（基盤研究Ｂ２）研究成果報告書 古代文字資料のデータベース構築と地域社会の研究　附属 CD-ROM 出土文字資料データベース－墨書土器・刻書土器編－』

山中敏史　2003　「郡衙による食器管理と供給」『古代官衙・集落と墨書土器－墨書土器の機能と性格をめぐって－』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

写　真　図　版

調査区遠景（北西から）

調査区全景

図版2

第８・10 号竪穴建物跡完掘状況（南東から）

第８号竪穴建物跡完掘状況（南東から）

第８号竪穴建物跡遺物出土状況（南東から）

第１号竪穴建物跡完掘状況（南東から）

第２号竪穴建物跡完掘状況（南東から）

第４・５号竪穴建物跡完掘状況（南東から）

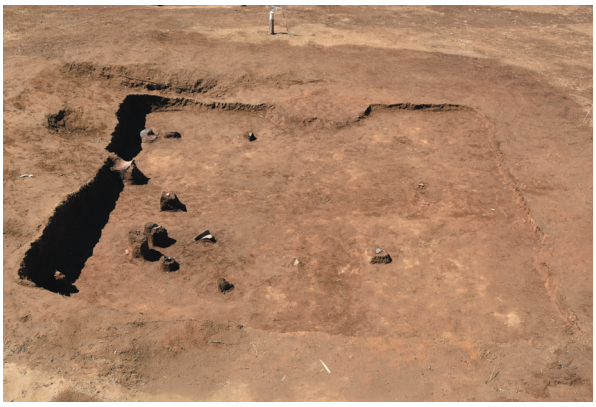
第５号竪穴建物跡遺物出土状況（南西から）

第４・５号竪穴建物跡掘方完掘状況（南東から）

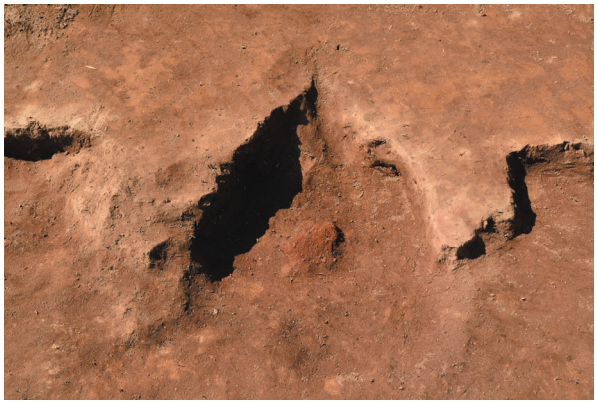
第 10 号竪穴建物跡完掘状況（南東から）

第９号竪穴建物跡完掘状況（南東から）

第６号竪穴建物跡完掘状況（南東から）



第６号竪穴建物跡遺物出土状況（南東から）



第６号竪穴建物跡竈完掘状況（南東から）

第６号竪穴建物跡竈遺物出土状況（南東から）

第７号竪穴建物跡完掘状況（南東から）

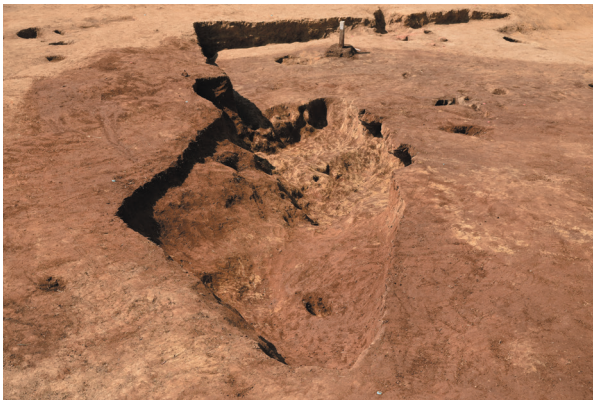
第３号溝跡完掘状況（北東から）

図版4

第４号溝跡完掘状況（南西から）

第１号溝跡完掘状況（西から）

第２号溝跡・第１号土坑完掘状況（北東から）



第３・４号土坑完掘状況（南東から）

第５号土坑完掘状況（北西から）

第１号ピット完掘状況（西から）

第２号ピット完掘状況（北東から）

第３号ピット完掘状況（北東から）

第１号竪穴建物跡出土遺物－１

第１号竪穴建物跡出土遺物－２

第４号竪穴建物跡出土遺物－１

第４号竪穴建物跡出土遺物－２

第４号竪穴建物跡出土遺物－３

第４号竪穴建物跡出土遺物－４

第４号竪穴建物跡出土遺物－５

第５号竪穴建物跡出土遺物－３

第５号竪穴建物跡出土遺物－１「八」

第５号竪穴建物跡出土遺物－２「八」

第５号竪穴建物跡出土遺物－４

第５号竪穴建物跡出土遺物－５

第５号竪穴建物跡出土遺物－６

第５号竪穴建物跡出土遺物－７

第５号竪穴建物跡出土遺物－８

第５号竪穴建物跡出土遺物－９

図版6

第５号竪穴建物跡出土遺物－ 10

第５号竪穴建物跡出土遺物－ 12

第５号竪穴建物跡出土遺物－ 13

第５号竪穴建物跡出土遺物－ 14

第５号竪穴建物跡出土遺物－ 15

第６号竪穴建物跡出土遺物－ 1

第６号竪穴建物跡出土遺物－ 2

第５号竪穴建物跡出土遺物－ 11

第６号竪穴建物跡出土遺物－ 3

第６号竪穴建物跡出土遺物－ 5

第５号竪穴建物跡出土遺物－ 16

第６号竪穴建物跡出土遺物－ 4

第６号竪穴建物跡出土遺物－６

第６号竪穴建物跡出土遺物－７

第７号竪穴建物跡出土遺物－１

第７号竪穴建物跡出土遺物－２

第７号竪穴建物跡出土遺物－３

第７号竪穴建物跡出土遺物－４

第７号竪穴建物跡出土遺物－５

第７号竪穴建物跡出土遺物－６

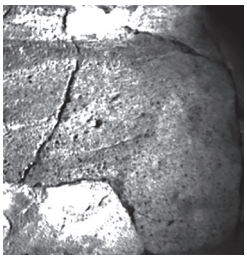
第７号竪穴建物跡出土遺物－７

第８号竪穴建物跡出土遺物－３

第８号竪穴建物跡出土遺物－１

第８号竪穴建物跡出土遺物－２

墨書「□」


人面墨書

第９号竪穴建物跡出土遺物－１

図版8

第９号竪穴建物跡出土遺物－３

第９号竪穴建物跡出土遺物－４

第９号竪穴建物跡出土遺物－５

第９号竪穴建物跡出土遺物－６

第９号竪穴建物跡出土遺物－７

第９号竪穴建物跡出土遺物－８

第 10 号竪穴建物跡出土遺物－１

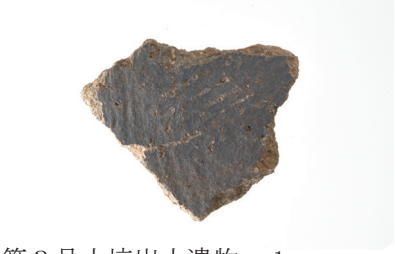
第 10 号竪穴建物跡出土遺物－３

第 10 号竪穴建物跡出土遺物－４

第３号溝跡出土遺物－１

第１号土坑出土遺物－１

第２号土坑出土遺物－１


第３号土坑出土遺物－１

第４号土坑出土遺物－１

第９号竪穴建物跡出土遺物－２

第 10 号竪穴建物跡出土遺物－２

第４号土坑出土遺物－２

遺構外出土遺物－１

遺構外出土遺物－２

遺構外出土遺物－３

遺構外出土遺物－４

遺構外出土遺物－５

遺構外出土遺物－６

遺構外出土遺物－８

遺構外出土遺物 -10

遺構外出土遺物－ 11

遺構外出土遺物－ 12

遺構外出土遺物－ 13

遺構外出土遺物－７

遺構外出土遺物－９

遺構外出土遺物－ 14

第６号竪穴建物跡出土遺物－８

図版10

第８号竪穴建物跡出土遺物－４

第８号竪穴建物跡出土遺物－５

第 10 号竪穴建物跡出土遺物－５

遺構外出土遺物－ 15

第４号竪穴建物跡出土遺物－６

第４号竪穴建物跡出土遺物－７

第６号竪穴建物跡出土遺物－９

第７号竪穴建物跡出土遺物－８

遺構外出土遺物－ 16

遺構外出土遺物－ 17

【参考資料】サントリーウィスキー
トリスエクストラ　1970 ～ 80 年代

報　告　書　抄　録

ふりがな	みだのだいいせき
書名	弥陀ノ台遺跡
副書名	小美玉市道栗又四ケ線道路改良工事に伴う発掘調査２
シリーズ名	石岡市埋蔵文化財調査報告書
編集者名	狩谷崇文
著者名	谷仲俊雄　狩谷崇文　川井正一
編集機関	関東文化財振興会株式会社
所在地	〒308-0846　茨城県筑西市布川 1012 番地　☎ 0296-28-7737
発行機関	石岡市教育委員会・小美玉市
所在地	石岡市教育委員会　〒315-0195　茨城県石岡市柿岡 5680 番地１ 小美玉市　〒319-0192　茨城県小美玉市堅倉 835 番地
発行年月日	西暦 2022 年（令和４年）３月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
みだのだいいせき 弥陀ノ遺跡	いばらきけんいしおかし 茨城県石岡市 こいど 小井戸 508 番５外	08205	135	36°　11′　25″	140°　20′　16″	2021．７．５ ～ 2021．９．15	955 ㎡	道路改良工事に伴う記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
弥陀ノ遺跡	集落跡	縄文	－	縄文土器（深鉢） 石器（磨製石斧、石臼）	人面墨書の土師器甕や墨書「八」の須恵器坏が出土している。
		古墳	竪穴建物跡５棟	土師器（坏・甕・小形甕・手捏ね） 須恵器（坏・蓋・横瓶・甕） 土製品（支脚・球状土錘） 石器（砥石） 金属製品（鉄鏃）	
		奈良	竪穴建物跡４棟	土師器（坏・鉢・甕・小形甕・手捏ね） 須恵器（坏･高台付坏･蓋･高盤･短頸壺･甕） 金属製品（鉄鏃）	
		中世	溝２条	土師質土器（内耳鍋）	
		時期不明	溝２条 土坑５基 ピット３基 性格不明遺構１基	陶器（碗・擂鉢・甕） 磁器（碗・水注） ガラス（瓶）	

要約	当地は標高７～18 ｍの斜面部に位置する。今回の調査地は標高７～８ｍの斜面部低位にあたり、古墳時代から奈良時代（７～８世紀）の竪穴建物跡や中世の溝等を検出した。遺物は、人面墨書の土師器甕、墨書「八」の須恵器坏、土師質土器（内耳鍋）等が出土している。既往の調査を踏まえると、古墳時代前期に標高 11 ～ 18 ｍの斜面部高位に集落が形成され、その後集落は一時断絶し、７世紀になると斜面部高位から低位に集落が再形成されるようになり、８世紀へ継続する。集落は 10 世紀前半で途絶えるが、中世になると堀を持つ城館として機能する。

石岡市埋蔵文化財調査報告書

弥陀ノ台遺跡

令和４年　３月30日　印刷
令和４年　３月30日　発行

発行　石岡市教育委員会
〒315-0195　石岡市柿岡5680番地1
TEL　0299-43-1111
小美玉市
〒319-0192　小美玉市堅倉835番地
TEL　0299-48-1111

編集　関東文化財振興会株式会社
〒308-0846　筑西市布川1012番地
TEL　0296-28-7737

印刷　山三印刷株式会社
〒311-4153　水戸市河和田町4433-33
TEL　029-252-8481